

介護者調査 編

4 介護者調査結果

(1) 介護者の基本属性

問38[35] 本人との関係

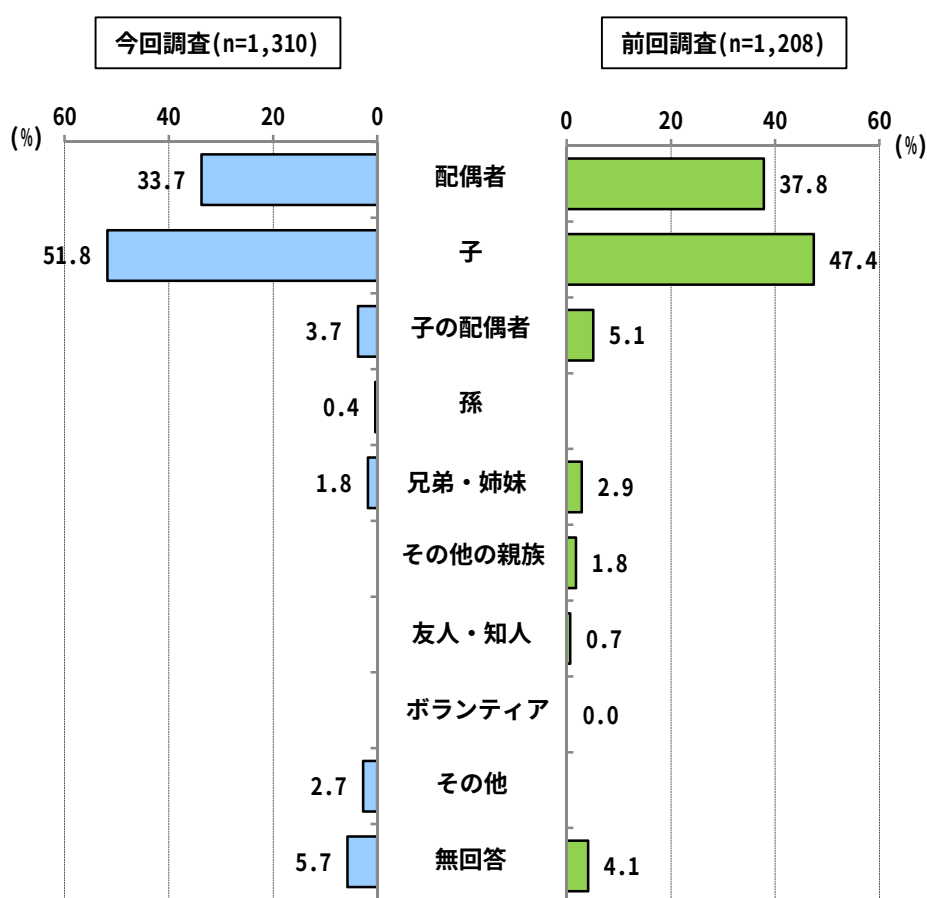
あなたは、ご本人とはどのような関係ですか。(○はひとつ)

サービス利用者本人との関係については、「子」が51.8%で最も多く、次いで「配偶者」が33.7%、「子の配偶者」が3.7%となっている。

前回調査と比較すると、上記2つの項目が多い傾向は変わらない。(A図38[35])

< A. サービス利用者 >

【A図38[35] 本人との関係（経年比較）】

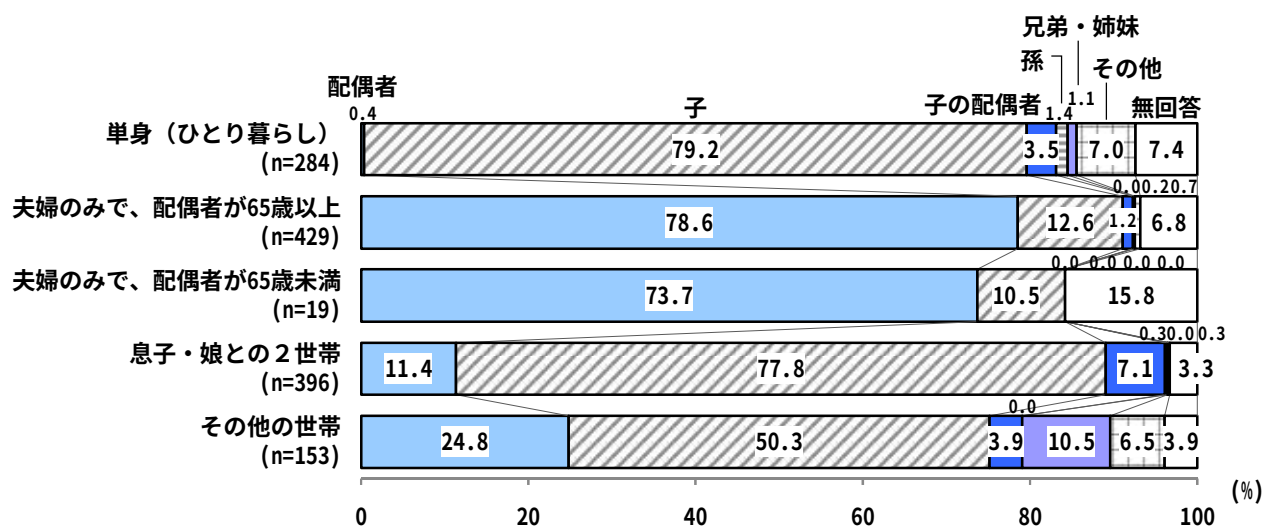


※前回調査の「その他親族」「友人・知人」「ボランティア」は、今回調査では設けていない。

※「孫」「その他」は、今回調査の新規項目である。

世帯状況別でみると、単身（ひとり暮らし）世帯、息子・娘との2世帯、その他の世帯では「子」が最も多く、夫婦のみ世帯では「配偶者」が最も多くなっている。（A図38[35]-a）

【A図38[35]-a 本人との関係（世帯状況別）】

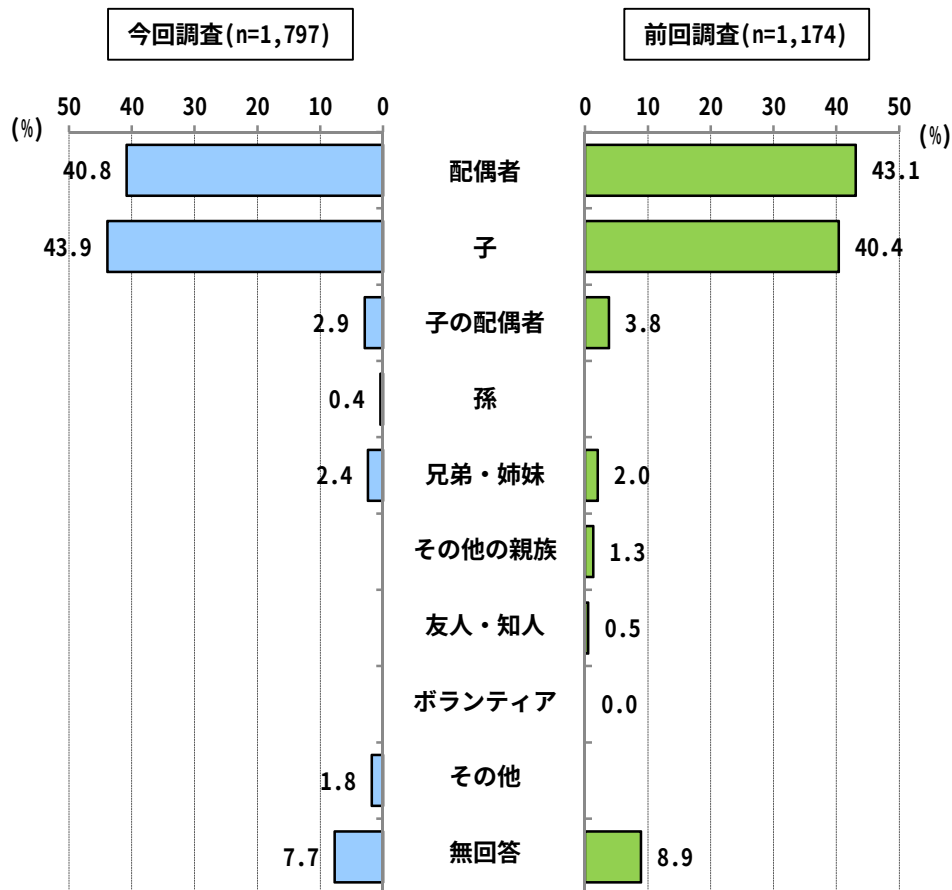


サービス未利用者本人との関係については、「子」が43.9%で最も多く、次いで「配偶者」が40.8%、「子の配偶者」が2.9%となっている。

前回調査と比較すると、上記2つの項目が多い傾向は変わらない。(B図38[35])

< B. サービス未利用者 >

【B図38[35] 本人との関係（経年比較）】

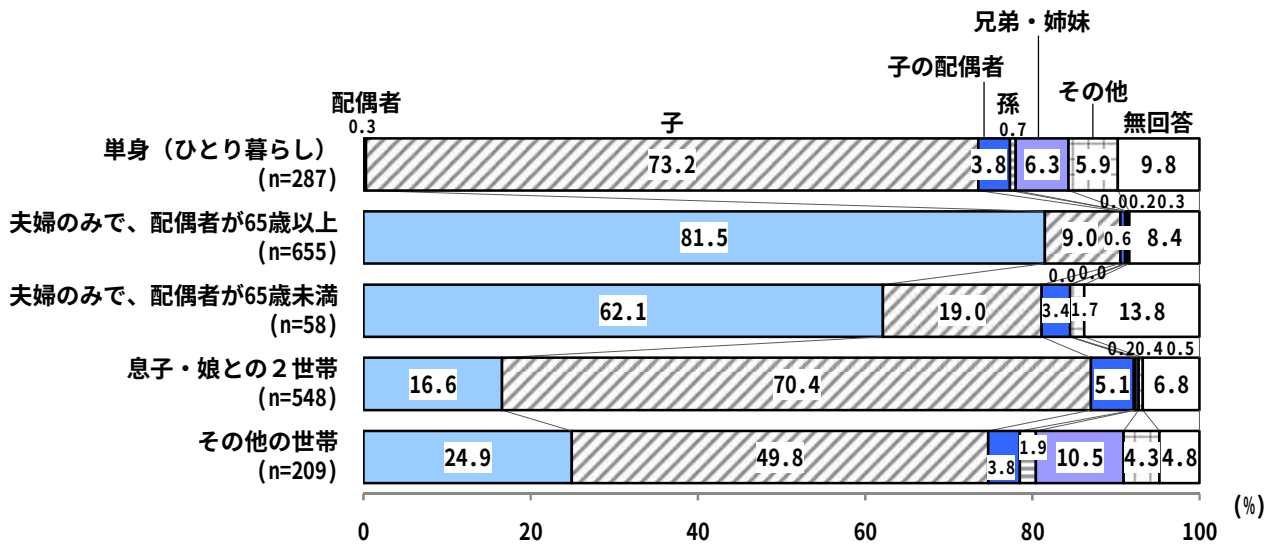


※前回調査の「その他親族」「友人・知人」「ボランティア」は、今回調査では設けていない。

※「孫」「その他」は、今回調査の新規項目である。

世帯状況別でみると、単身（ひとり暮らし）世帯、息子・娘との2世帯、その他の世帯では「子」が最も多く、夫婦のみ世帯では「配偶者」が最も多くなっている。（B図38[35]-a）

【B図38[35]-a 本人との関係（世帯状況別）】



あなたの性別、年齢、ご本人との同居の有無についておうかがいします。
(それぞれ○はひとつ)

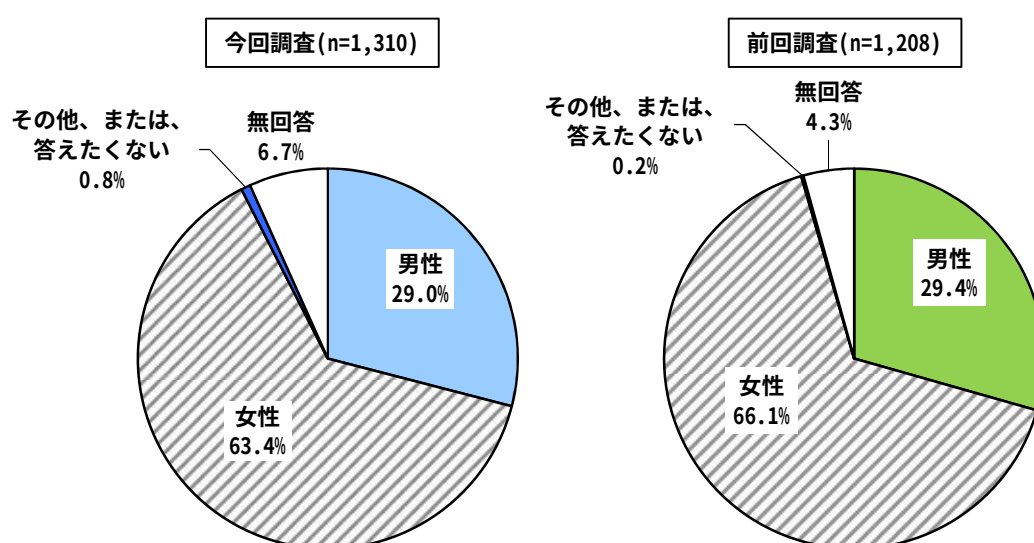
問39[36] (1) 介護者の性別

サービス利用者の介護者の性別については、「男性」が29.0%、「女性」が63.4%となっている。

前回調査と比較すると、「男性」より「女性」の割合が多い傾向は変わらない。(A図39[36] (1))

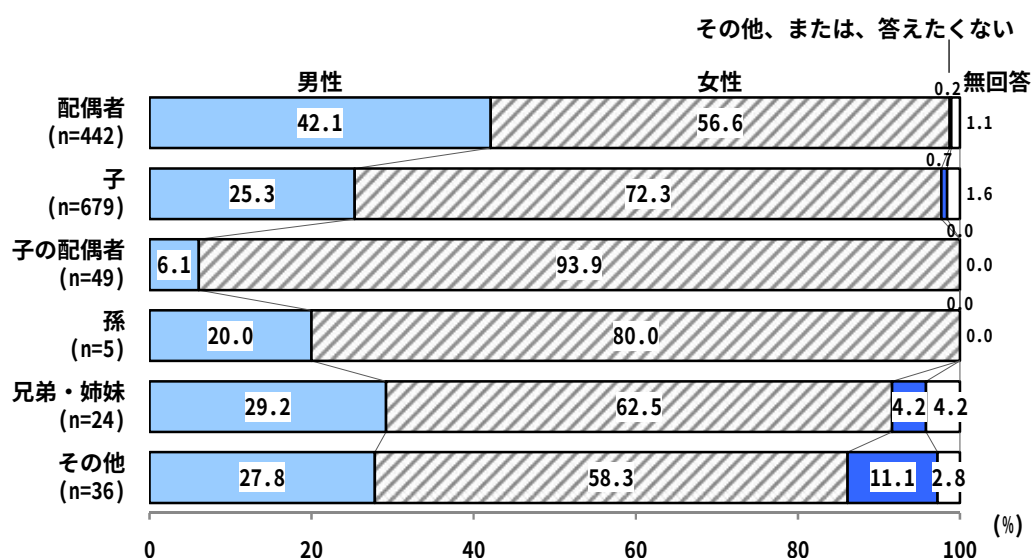
< A. サービス利用者 >

【A図39[36] (1) 介護者の性別 (経年比較)】



本人との関係別でみると、関係性にかかわらず「女性」のほうが多くなっている。一方、「男性」では、配偶者の介護者が42.1%で最も多く、次いで兄弟・姉妹の介護者が29.2%となっている。(A図39[36] (1)-a)

【A図39[36] (1)-a 介護者の性別 (本人との関係別)】

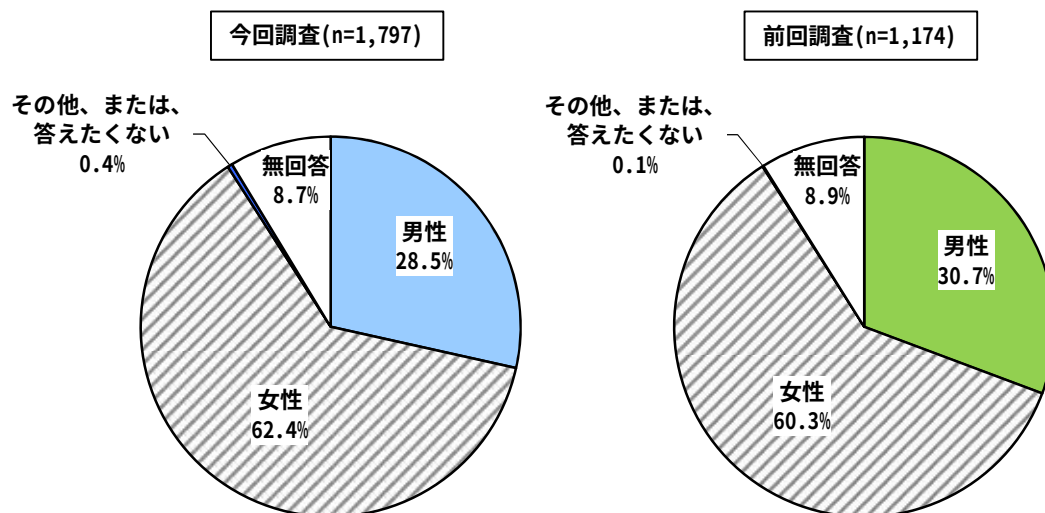


サービス未利用者の介護者の性別については、「男性」が28.5%、「女性」が62.4%となっている。

前回調査と比較すると、「男性」より「女性」の割合が高い傾向は変わらない。(B図39[36](1))

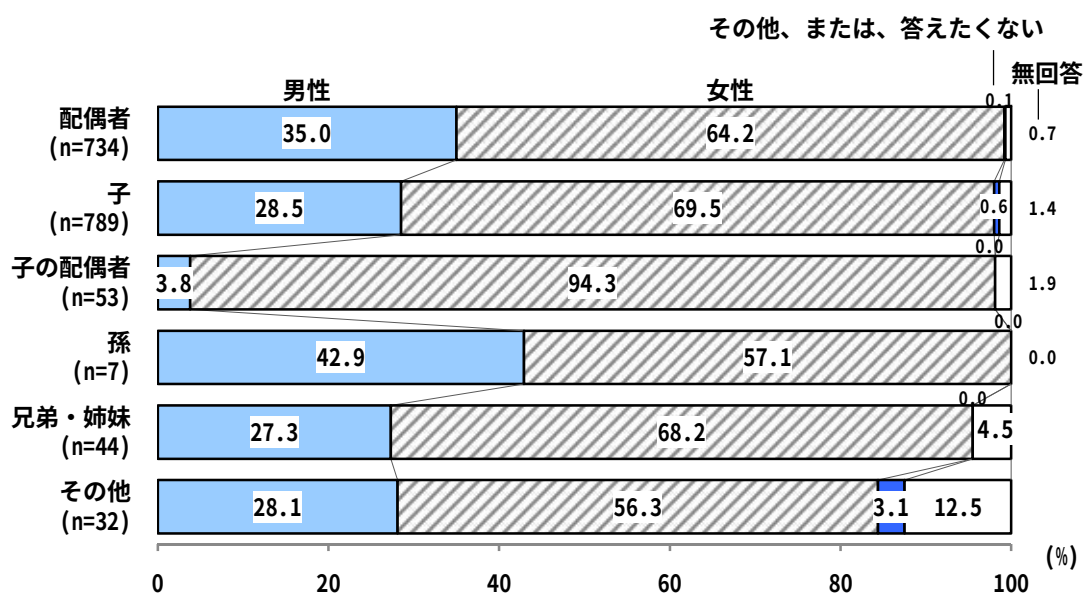
< B. サービス未利用者 >

【B図39[36](1) 介護者の性別（経年比較）】



本人との関係別でみると、関係性にかかわらず「女性」のほうが多くなっている。配偶者の介護者は「男性」が35.0%、「女性」が64.2%となっている。(B図39[36](1)-a)

【B図39[36](1)-a 介護者の性別（本人との関係別）】



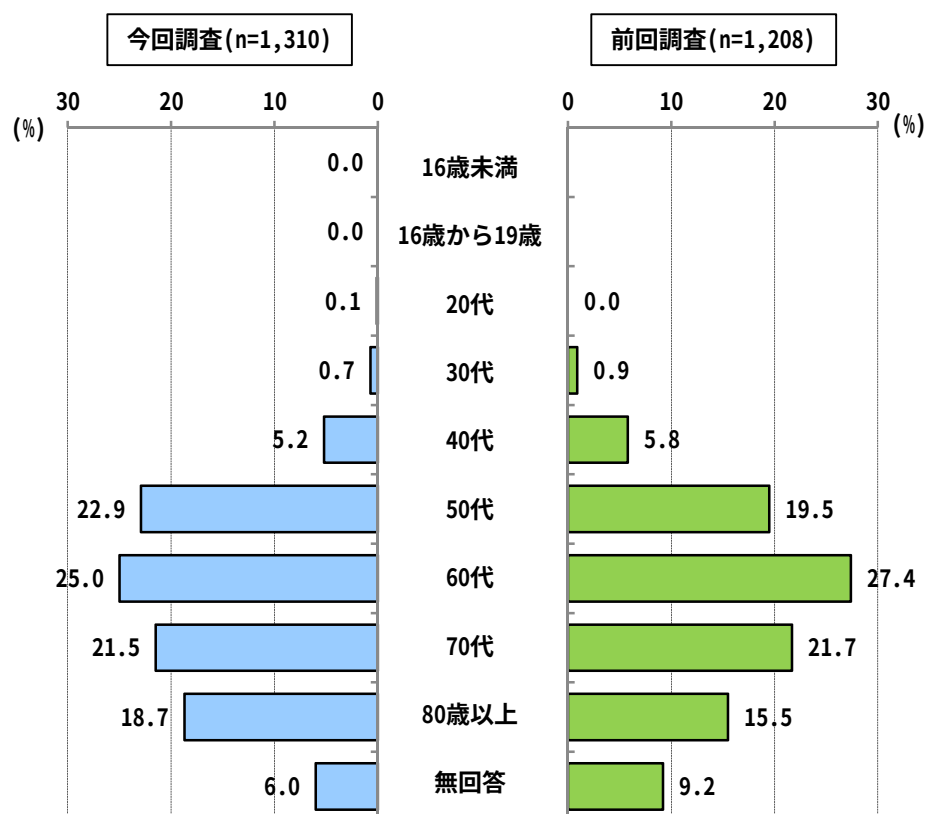
問39[36] (2) 介護者の年齢

サービス利用者の介護者の年齢については、「60代」が25.0%で最も多く、次いで「50代」が22.9%、「70代」が21.5%となっている。

前回調査と比較すると、「60代」の割合が最も高い傾向に変わりはないが、「80歳以上」の割合が3.2ポイント高くなっている。(A図39[36] (2))

< A. サービス利用者 >

【A図39[36] (2) 介護者の年齢（経年比較）】



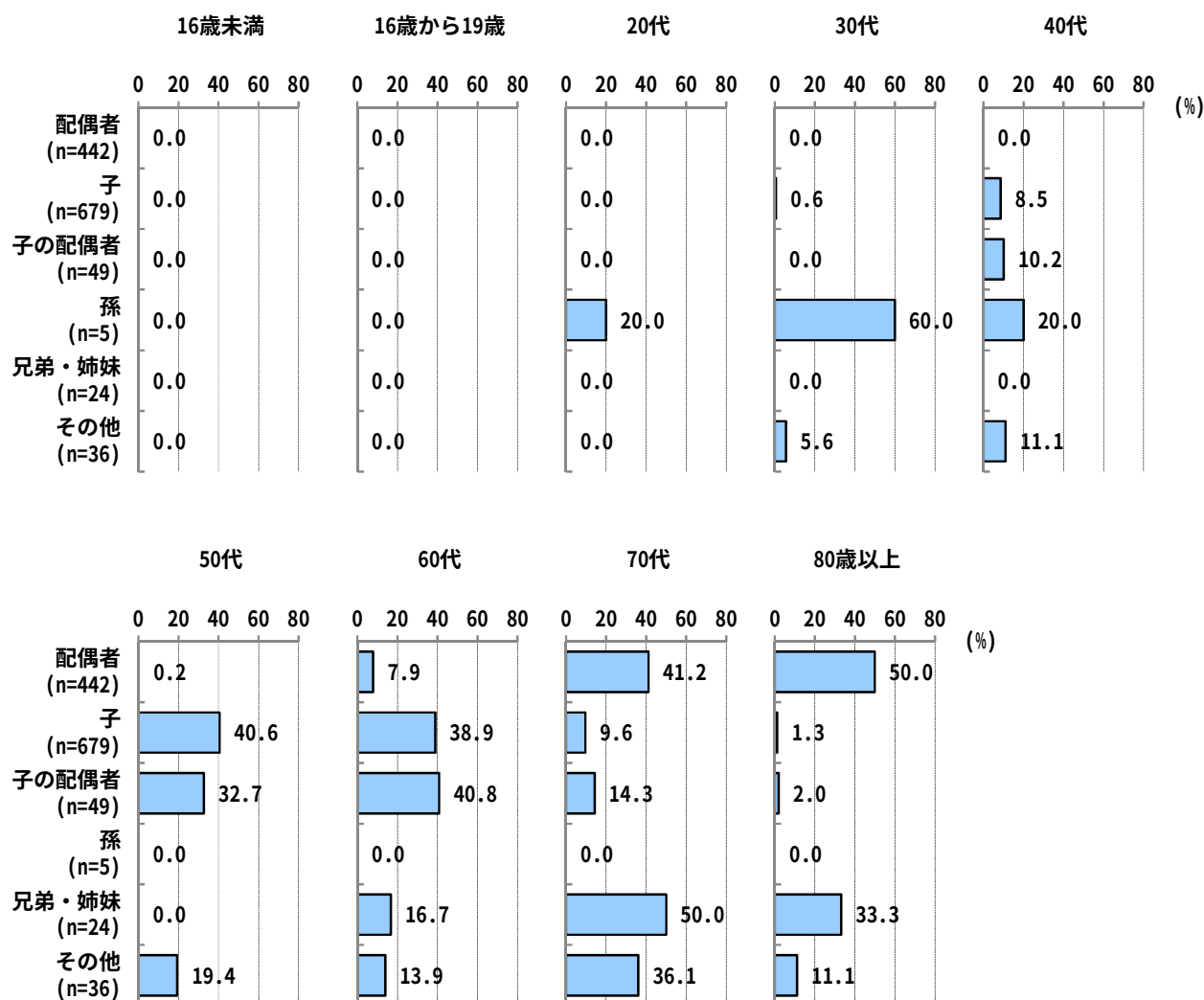
※前回調査の「20歳未満」は、今回調査では設けていない。(前回の20歳未満は0件)

※「16歳未満」「16歳から19歳」は、今回調査の新規項目である。

※「60代」は前回の「60～64歳」と「65～69歳」を合算し、「70代」は前回の「70～74歳」と「75～79歳」を合算したものである。

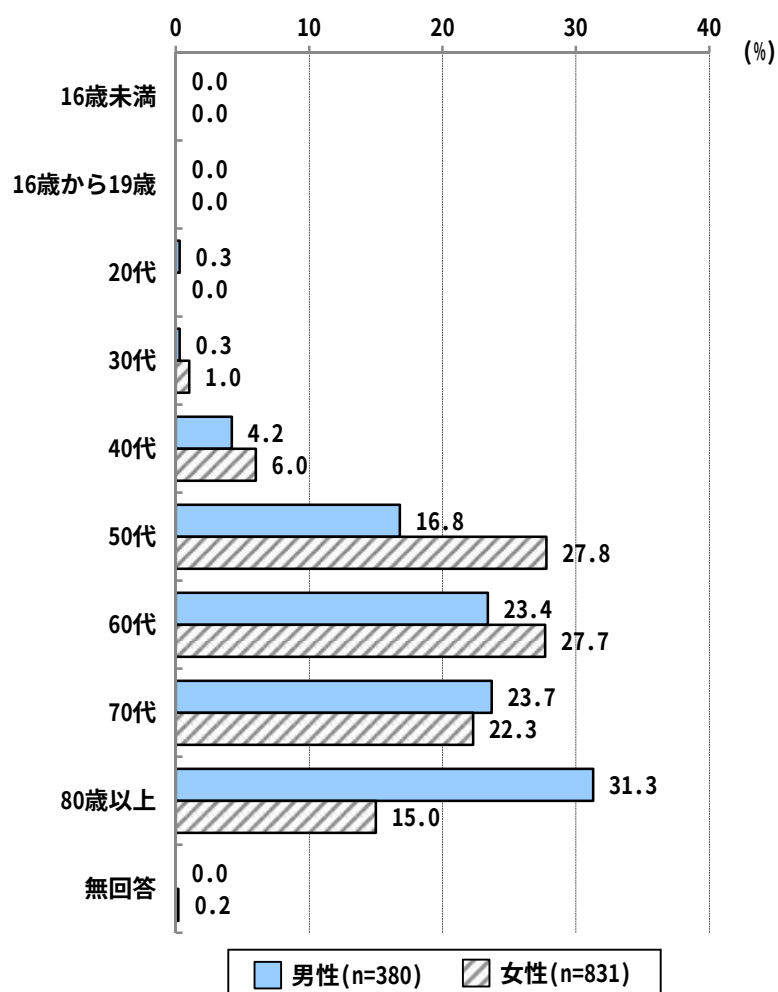
本人との関係別でみると、配偶者の介護者は「80歳以上」、兄弟・姉妹の介護者は「70代」、子の介護者は「50代」、子の配偶者の介護者は「60代」が、それぞれ最も多くなっている。(A図39[36](2)-a)

【A図39[36](2)-a 介護者の年齢（本人との関係別）】



介護者の性別でみると、男性の介護者は「80歳以上」が31.3%で最も多くなっている。女性の介護者は「50代」が27.8%で最も多くなっている。(A図39[36](2)-b)

【A図39[36](2)-b 介護者の年齢（介護者の性別）】

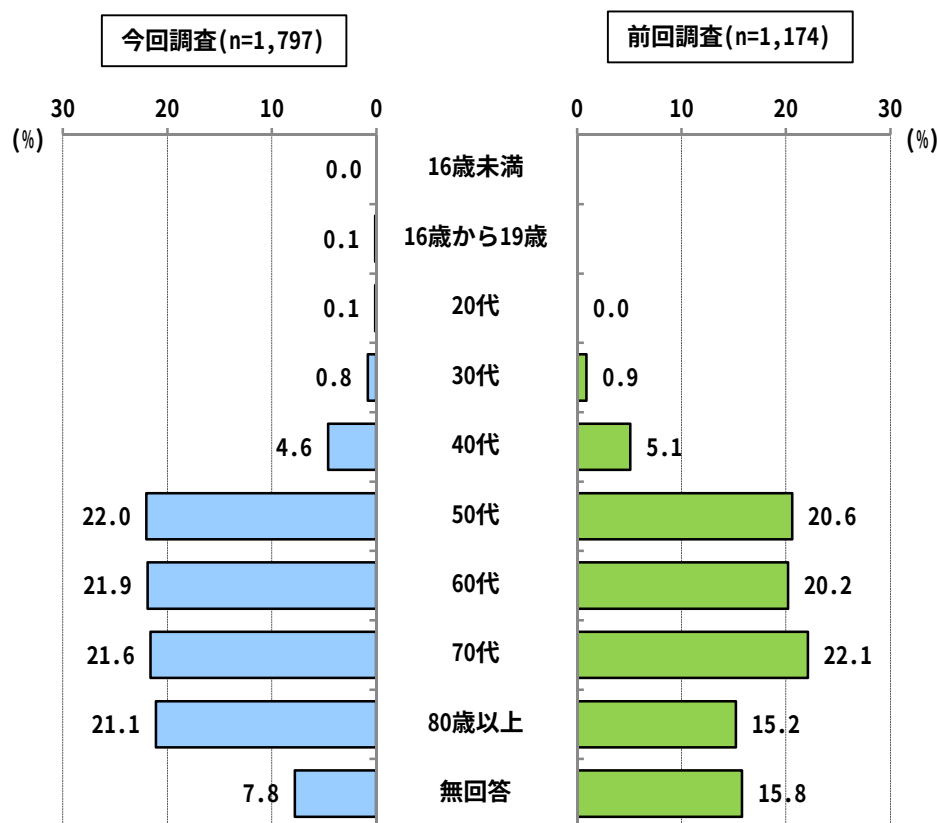


サービス未利用者の介護者の年齢については、「50代」が22.0%で最も多く、次いで「60代」が21.9%、「70代」が21.6%となっている。

前回調査と比較すると、「80歳以上」の割合は5.9ポイント高くなっている。（B図39[36](2)）

< B. サービス未利用者 >

【B図39[36](2) 介護者の年齢（経年比較）】



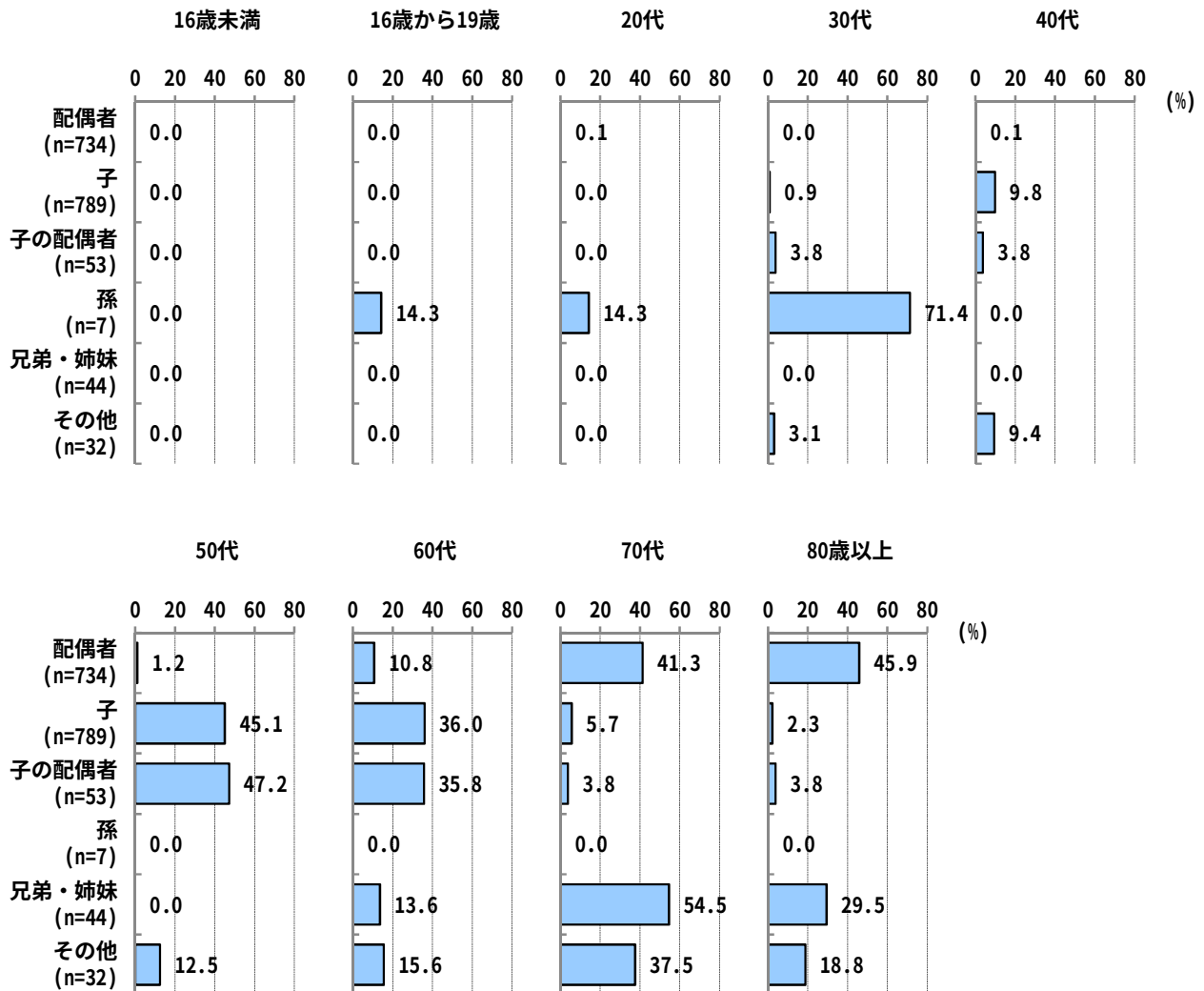
※前回調査の「20歳未満」は、今回調査では設けていない。（前回の20歳未満は0件）

※「16歳未満」「16歳から19歳」は、今回調査の新規項目である。

※「60代」は前回の「60～64歳」と「65～69歳」を合算し、「70代」は前回の「70～74歳」と「75～79歳」を合算したものである。

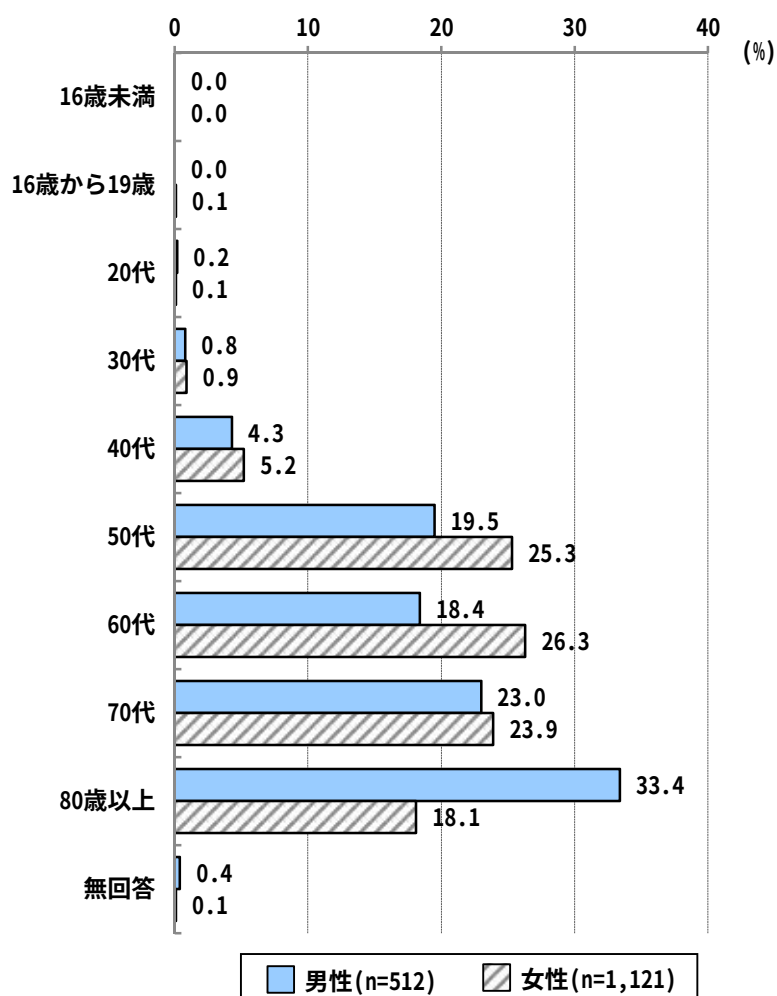
本人との関係別でみると、配偶者の介護者は「80歳以上」、兄弟・姉妹の介護者は「70代」、子及び子の配偶者は「50代」が、それぞれ最も多くなっている。（B図39[36](2)-a）

【B図39[36](2)-a 介護者の年齢（本人との関係別）】



介護者の性別でみると、男性の介護者は「80歳以上」が33.4%で最も多くなっている。女性の介護者は「60代」が26.3%で最も多くなっている。(B図39[36](2)-b)

【B図39[36](2)-b 介護者の年齢（介護者の性別）】



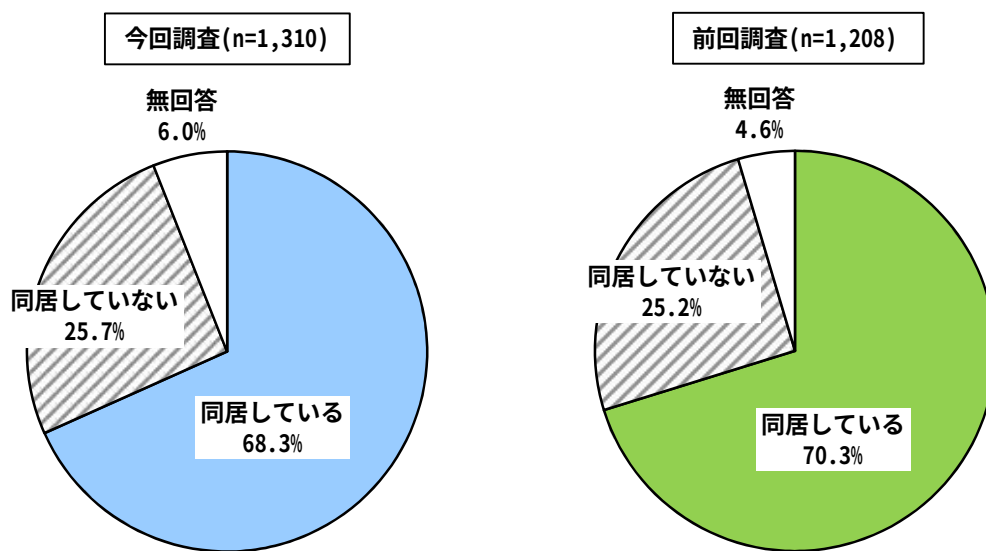
問39[36] (3) 本人との同居の有無

サービス利用者との同居有無について、「同居している」が68.3%、「同居していない」が25.7%となっている。

前回調査と比較すると、「同居している」人のほうが多い傾向は変わらない。(A図39[36](3))

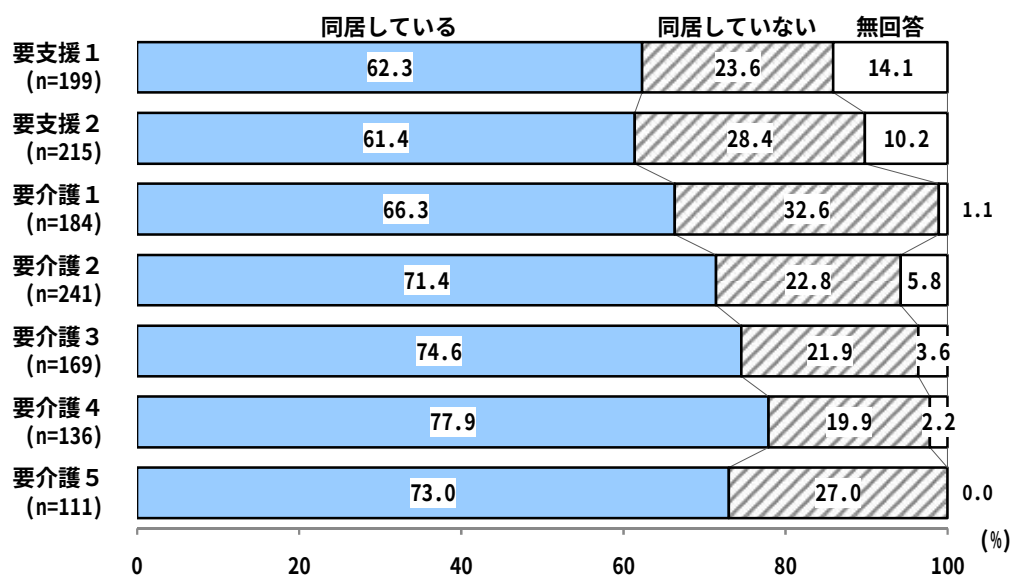
< A. サービス利用者 >

【A図39[36](3) 本人との同居の有無（経年比較）】



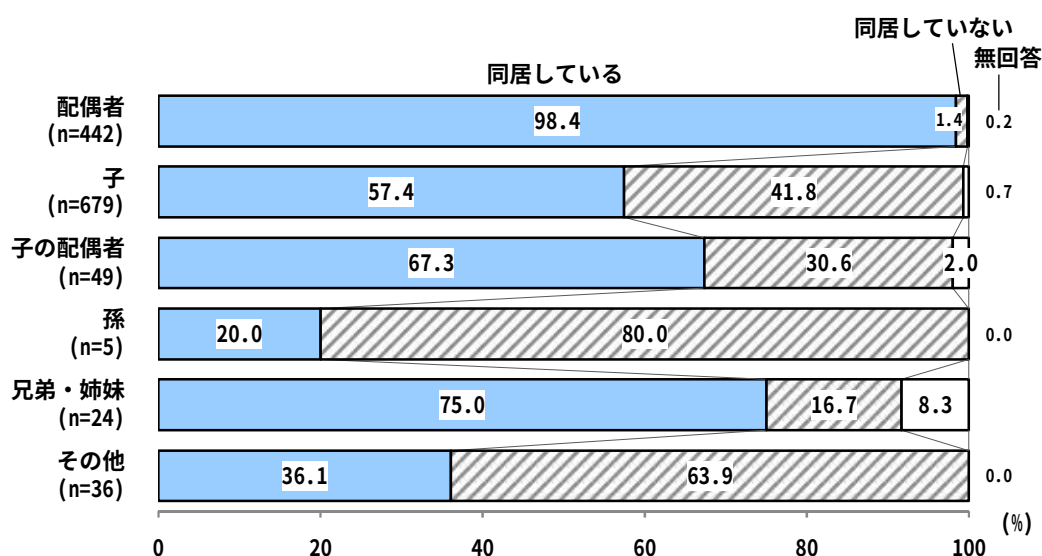
本人の要介護度別でみると、要介護度にかかわらず「同居している」割合が過半数を占めている。(A図39[36](3)-a)

【A図39[36](3)-a 本人との同居の有無（本人の要介護度別）】



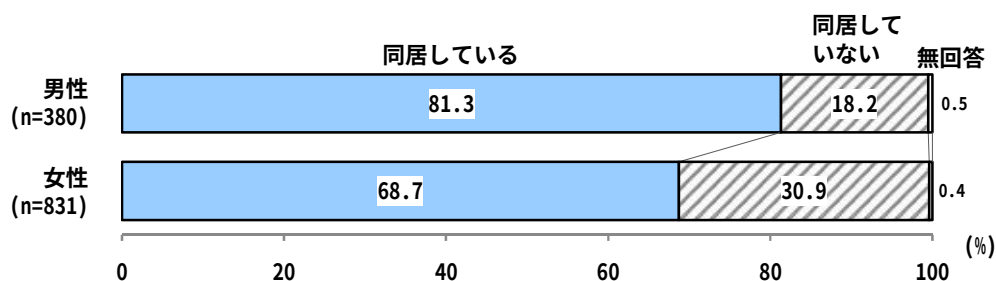
本人との関係別でみると、配偶者や子、子の配偶者、兄弟・姉妹の介護者では「同居している」割合が過半数を占めている。(A図39[36](3)-b)

【A図39[36](3)-b 本人との同居の有無（本人との関係別）】



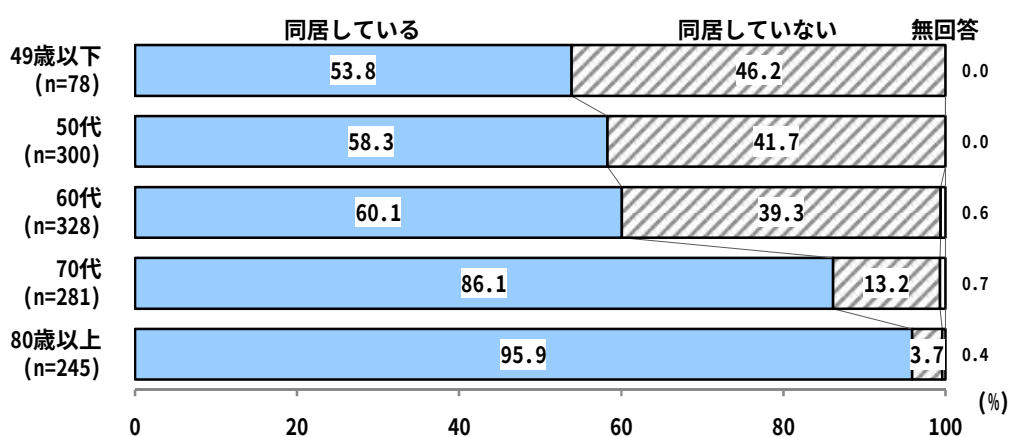
介護者の性別でみると、男女とも「同居している」割合のほうが多くなっており、男性の介護者は81.3%、女性の介護者は68.7%で、男性の介護者のほうが12.6ポイント高くなっている。(A図39[36](3)-c)

【A図39[36](3)-c 本人との同居の有無（介護者の性別）】



介護者の年齢別でみると、年齢にかかわらず「同居している」割合のほうが多くなっており、70代以上では8割を超えている。(A図39[36](3)-d)

【A図39[36](3)-d 本人との同居の有無（介護者の年齢別）】

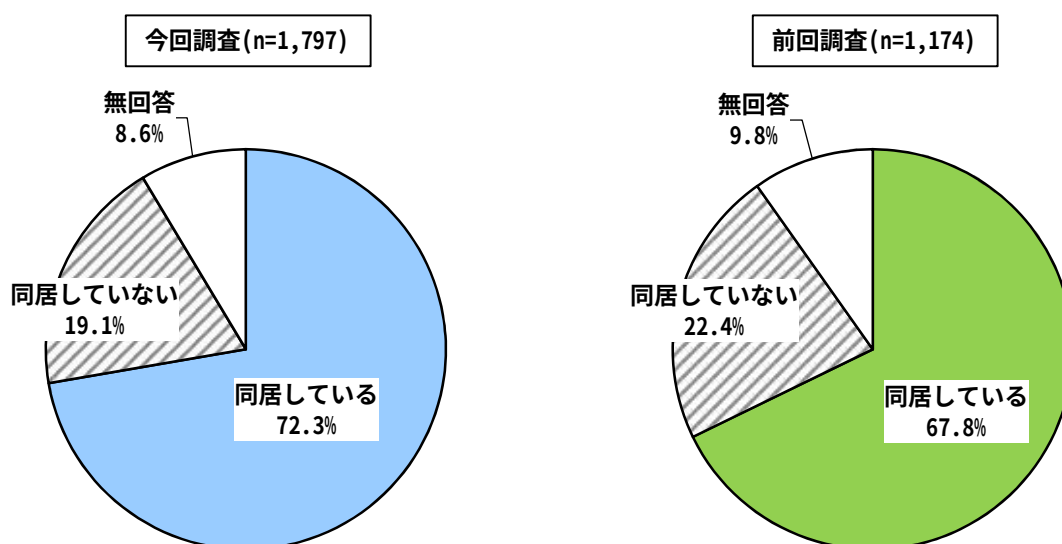


サービス未利用者との同居有無について、「同居している」が72.3%、「同居していない」が19.1%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図39[36] (3))

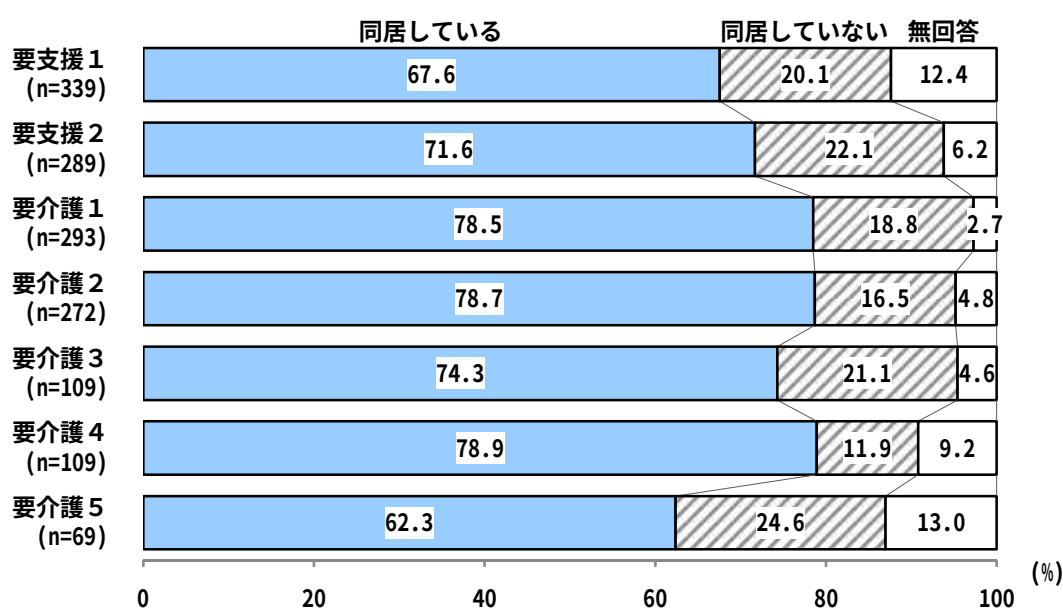
< B. サービス未利用者 >

【B図39[36] (3) 本人との同居の有無（経年比較）】



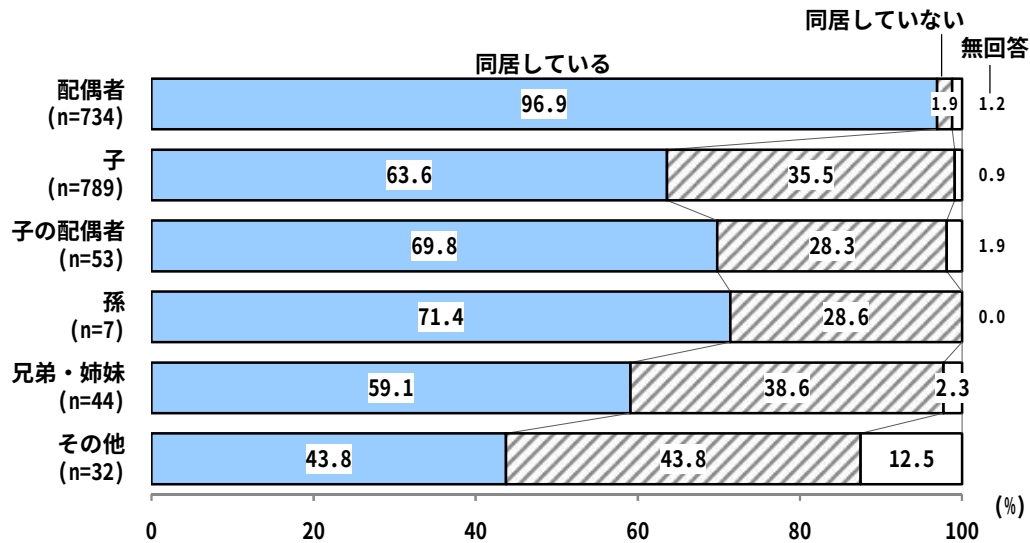
本人の要介護度別でみると、要介護度にかかわらず「同居している」割合が過半数を占めている。(B図39[36] (3)-a)

【B図39[36] (3)-a 本人との同居の有無（本人の要介護度別）】



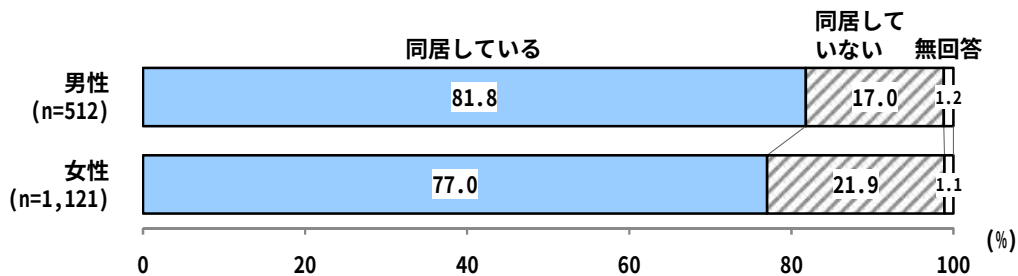
本人との関係別でみると、「その他」を除く全てで「同居している」割合が過半数を占めている。(B図39[36](3)-b)

【B図39[36](3)-b 本人との同居の有無（本人との関係別）】



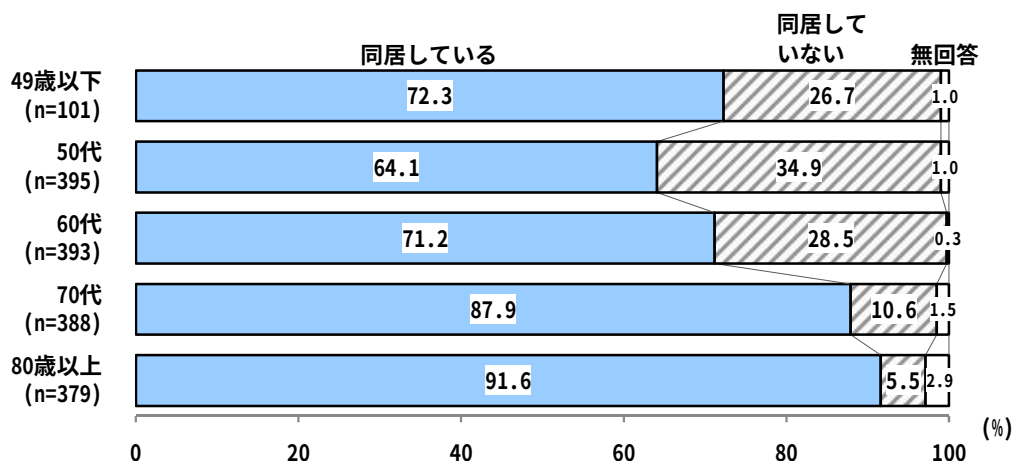
介護者の性別でみると、男女とも「同居している」割合のほうが多くなっており、男性の介護者は81.8%、女性の介護者は77.0%で、男性の介護者のほうが4.8ポイント高くなっている。(B図39[36](3)-c)

【B図39[36](3)-c 本人との同居の有無（介護者の性別）】



介護者の年齢別でみると、年齢にかかわらず「同居している」割合のほうが多くなっており、70代以上で約9割を占めている。(B図39[36](3)-d)

【B図39[36](3)-d 本人との同居の有無（介護者の年齢別）】



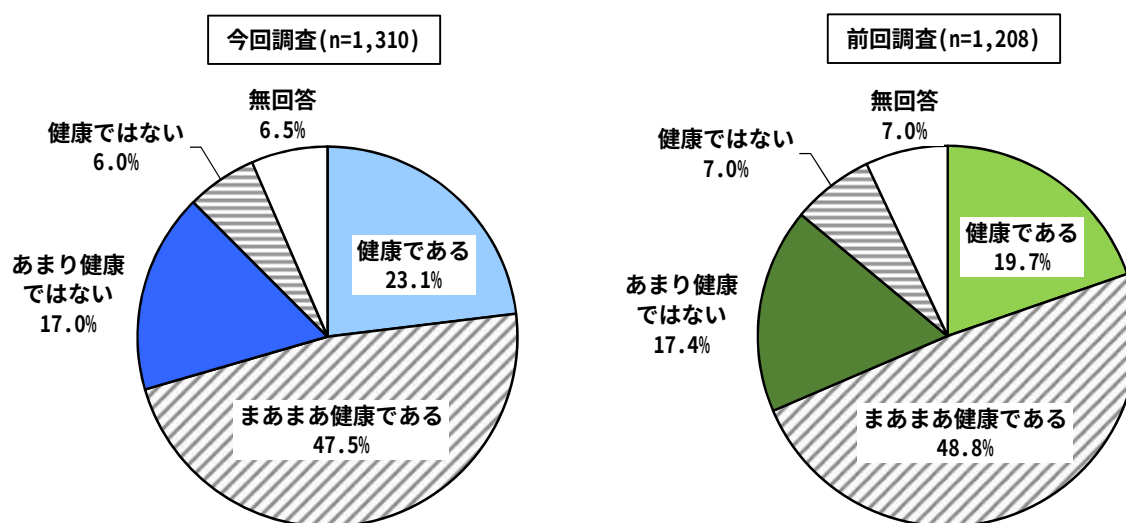
問40[37] 介護者の健康状態

あなたの健康状態はいかがですか。(○はひとつ)

サービス利用者の介護者の健康状態については、「まあまあ健康である」が47.5%で最も多く、次いで「健康である」が23.1%、「あまり健康ではない」が17.0%となっている。
前回調査と比較すると、「健康である」が3.4ポイント高くなっている。(A図40[37])

< A. サービス利用者 >

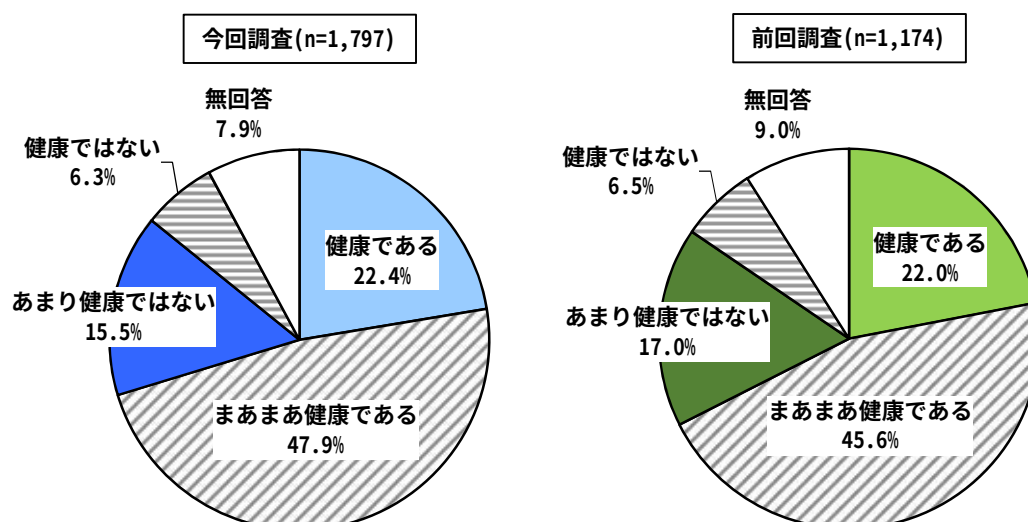
【A図40[37] 介護者の健康状態（経年比較）】



サービス未利用者の介護者の健康状態については、「まあまあ健康である」が47.9%で最も多く、次いで「健康である」が22.4%、「あまり健康ではない」が15.5%となっている。
前回調査と比較すると、「まあまあ健康である」が2.3ポイント高くなっている。(B図40[37])

< B. サービス未利用者 >

【B図40[37] 介護者の健康状態（経年比較）】



(2) 介護の状況

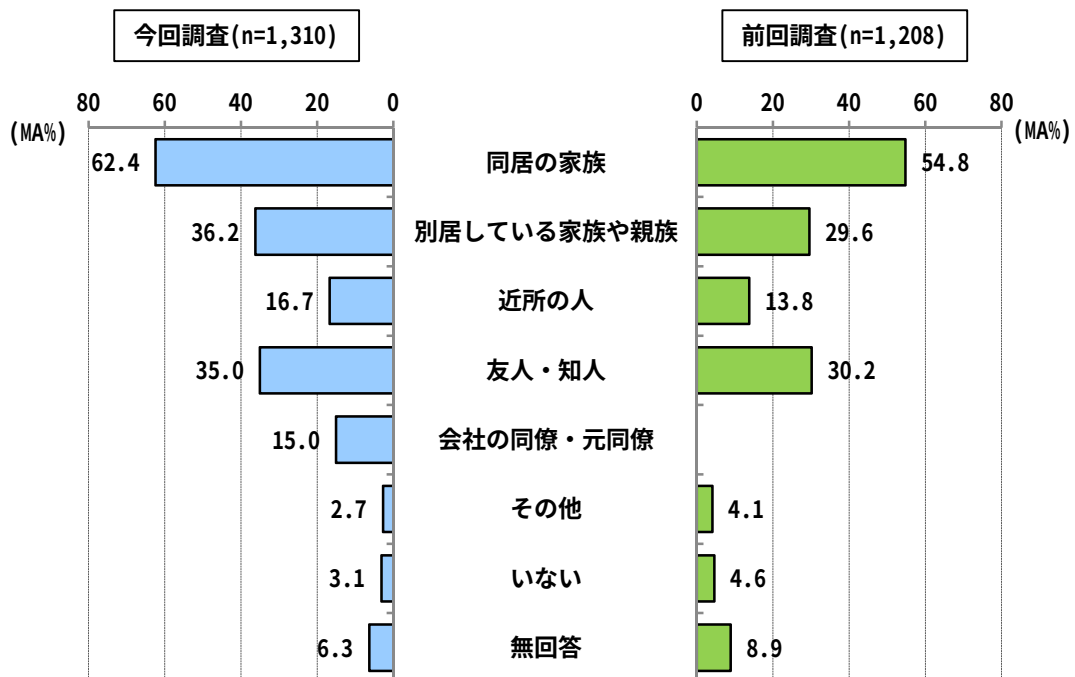
問41[38] 介護者がよく話をする相手

あなたがよく話をする相手は誰ですか。(○はいくつでも)

サービス利用者本人以外でよく話をする相手については、「同居の家族」が62.4%で最も多く、次いで「別居している家族や親族」が36.2%、「友人・知人」が35.0%となっている。前回調査と比較すると、上記3項目が多い傾向は変わらない。(A図41[38])

< A. サービス利用者 >

【A図41[38] 介護者がよく話をする相手（経年比較）】



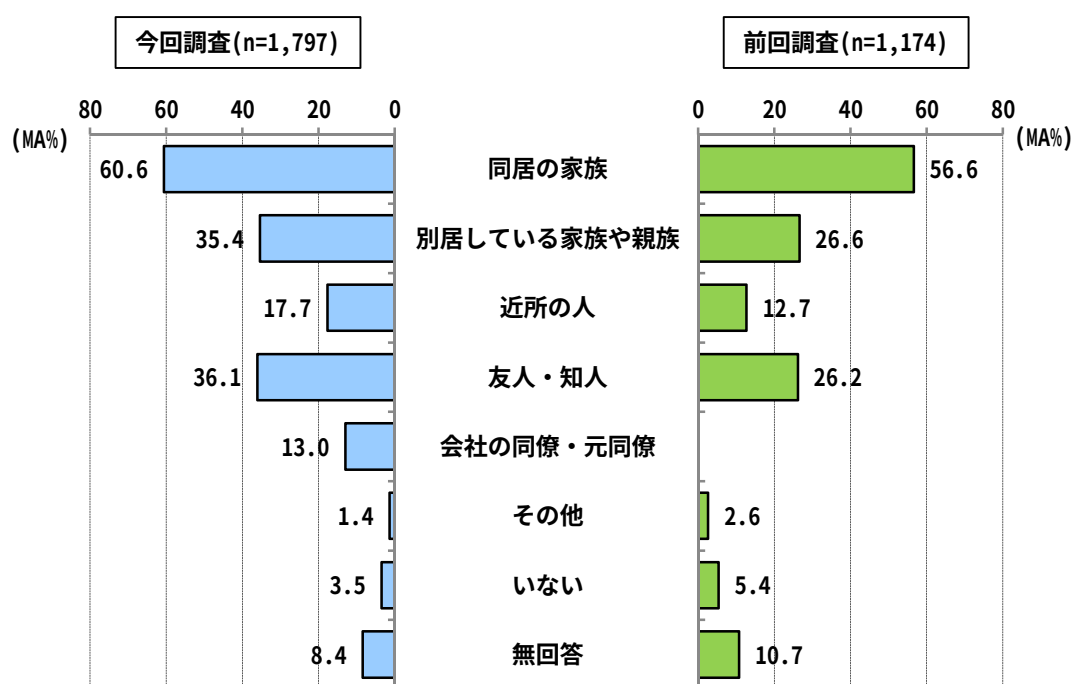
※「会社の同僚・元同僚」は、今回調査の新規項目である。

サービス未利用者本人以外でよく話をする相手については、「同居の家族」が60.6%で最も多く、次いで「友人・知人」が36.1%、「別居している家族や親族」が35.4%となっている。

前回調査と比較すると、「別居している家族や親族」の割合が8.8ポイント高くなっている。
(B図41[38])

< B. サービス未利用者 >

【B図41[38] 介護者がよく話をする相手（経年比較）】



※「会社の同僚・元同僚」は、今回調査の新規項目である。

問42[39] 介護を手助けしてくれる人の有無

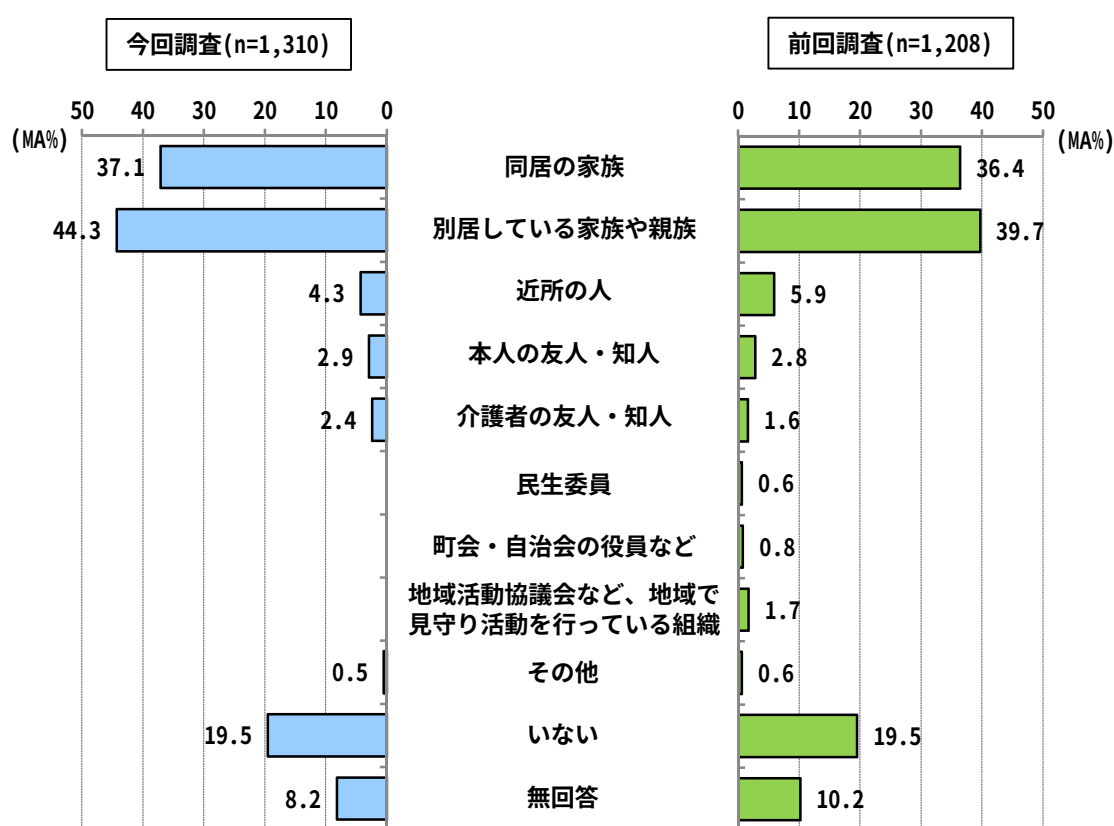
介護保険サービス提供者以外で、介護を手助けしてくれる方はいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

サービス利用者本人の介護を手助けしてくれる人はいるかについては、「別居している家族や親族」が44.3%で最も多く、次いで「同居の家族」が37.1%、「近所の人」が4.3%となっている。一方、「いない」は19.5%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図42[39])

<A. サービス利用者>

【A図42[39] 介護を手助けしてくれる人の有無（経年比較）】



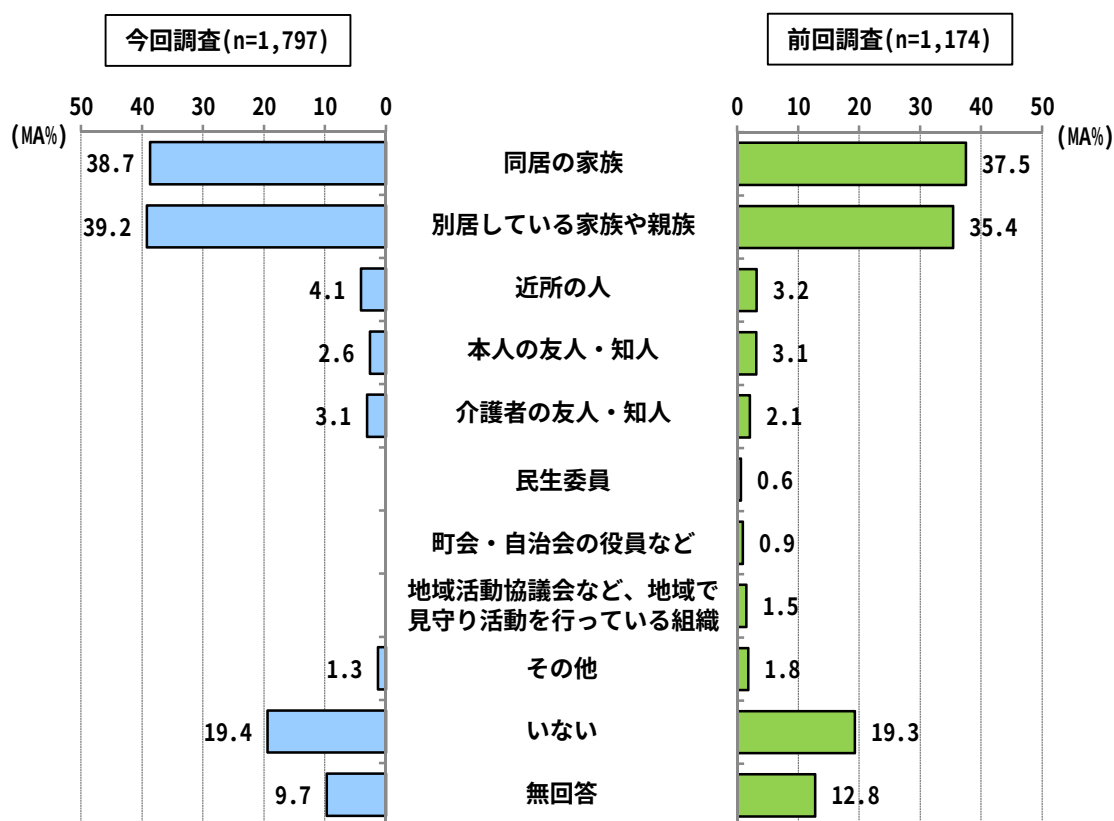
※前回調査の「民生委員」「町会・自治会の役員など」「地域活動協議会など、地域で見守り活動を行っている組織」は、今回調査では設けていない。

サービス未利用者本人の介護を手助けしてくれる人はいるかについては、「別居している家族や親族」が39.2%で最も多く、次いで「同居の家族」が38.7%、「近所の人」が4.1%となっている。一方、「いない」は19.4%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図42[39])

< B. サービス未利用者 >

【B図42[39] 介護を手助けしてくれる人の有無（経年比較）】



※前回調査の「民生委員」「町会・自治会の役員など」「地域活動協議会など、地域で見守り活動を行っている組織」は、今回調査では設けていない。

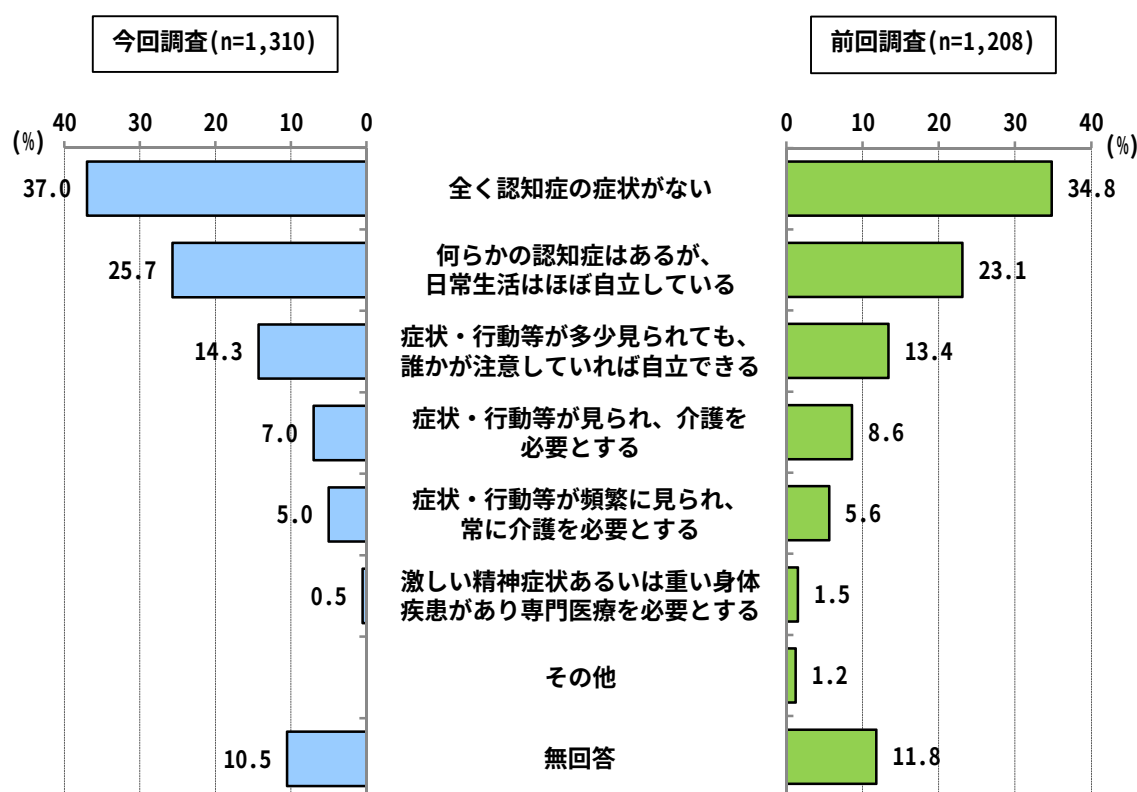
問43[40] 本人の認知症の程度

ご本人の認知症の程度について、もっとも近いものに○をつけてください。(○はひとつ)

サービス利用者本人の認知症の程度については、「全く認知症の症状がない」が37.0%で最も多く、次いで「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が25.7%、「症状・行動等が多少見られても、誰かが注意していれば自立できる」が14.3%となっている。前回調査と比較すると、上記3項目が多い傾向は変わらない。(A図43[40])

< A. サービス利用者 >

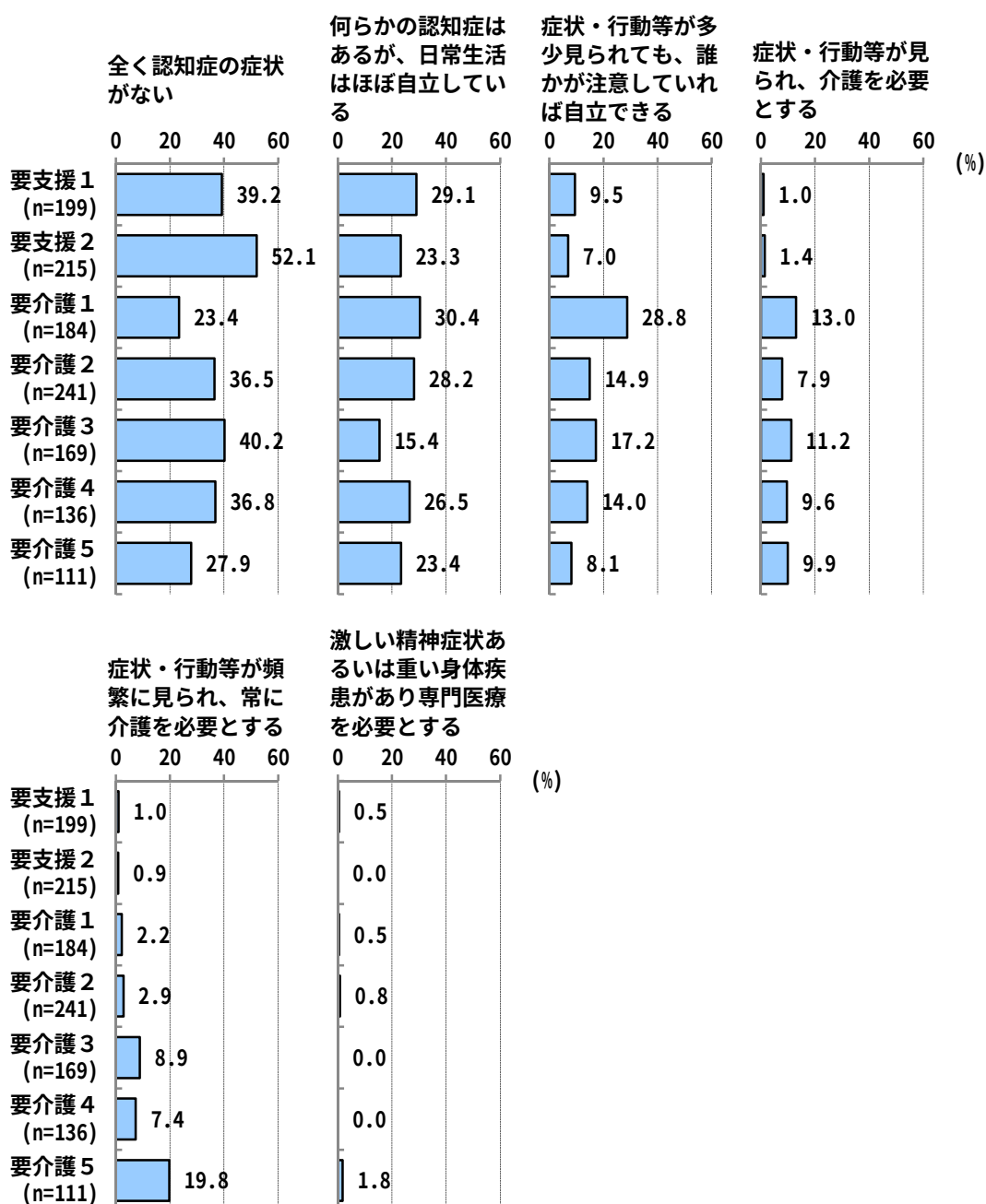
【A図43[40] 本人の認知症の程度（経年比較）】



※前回調査の「その他」は、今回調査では設けていない。

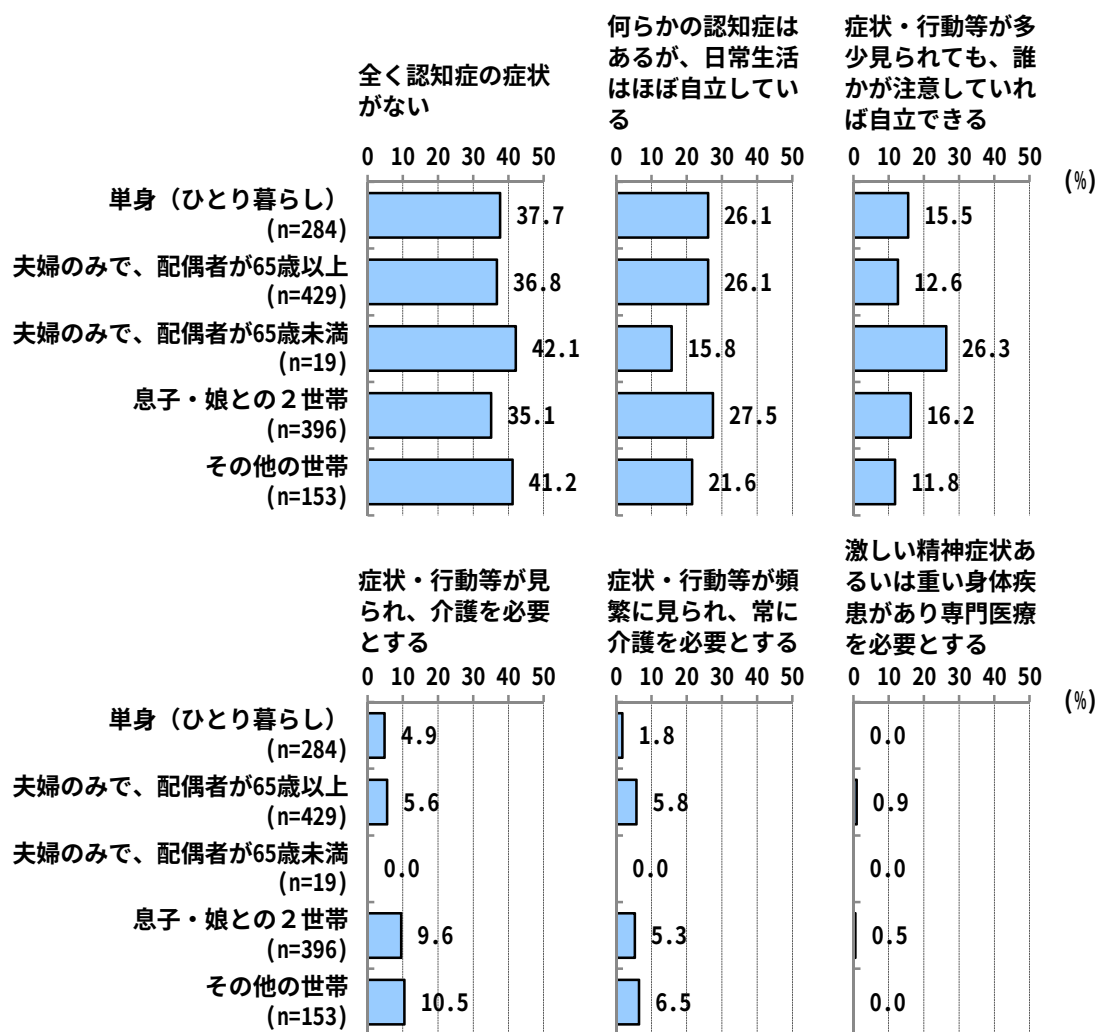
本人の要介護度別でみると、要支援１・２と要介護２～５は「全く認知症を有しない」が最も多くなっている。要介護１では「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が最も多くなっており、「症状・行動等が多少見られても、誰かが注意していれば自立できる」や「症状・行動等が多少見られても、誰かが注意していれば自立できる」、「症状・行動等が見られ、介護を必要とする」も他の要介護度より高くなっている。（A図43[40]-a）

【A図43[40]-a 本人の認知症の程度（本人の要介護度別）】



世帯状況別でみると、世帯の状況にかかわらず「全く認知症の症状がない」が最も多くなっている。(A図43[40]-b)

【A図43[40]-b 本人の認知症の程度（世帯状況別）】

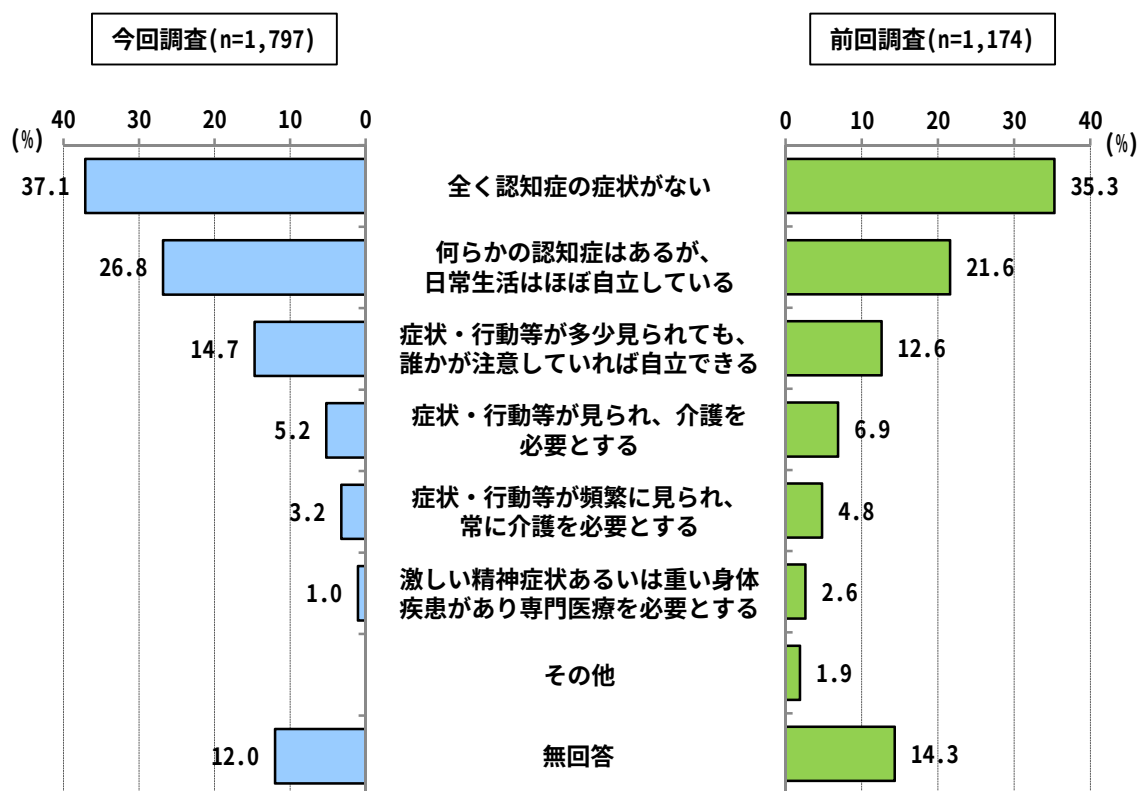


サービス未利用者本人の認知症の程度については、「全く認知症の症状がない」が37.1%で最も多く、次いで「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が26.8%、「症状・行動等が多少見られても、誰かが注意していれば自立できる」が14.7%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図43[40])

< B. サービス未利用者 >

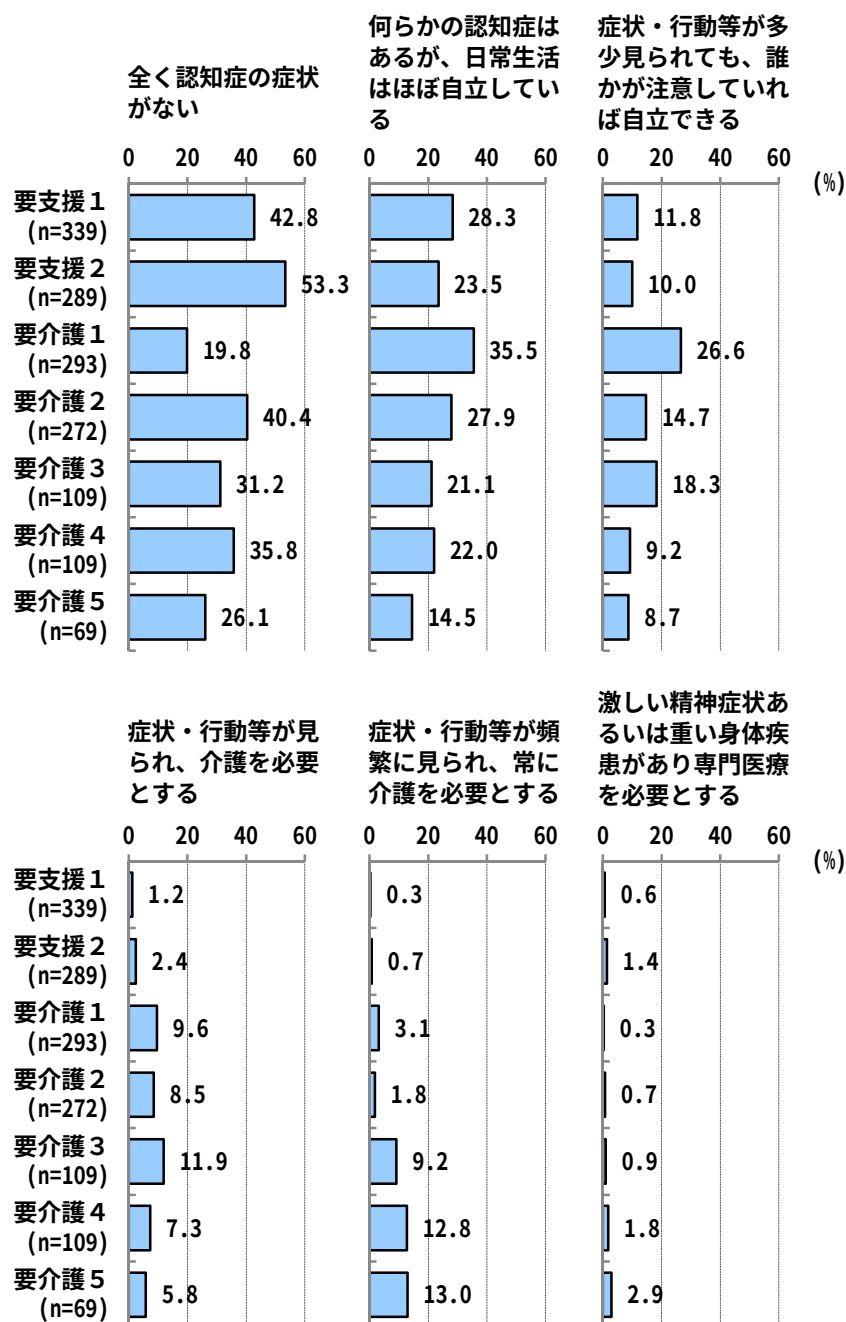
【B図43[40] 本人の認知症の程度（経年比較）】



※前回調査の「その他」は、今回調査では設けていない。

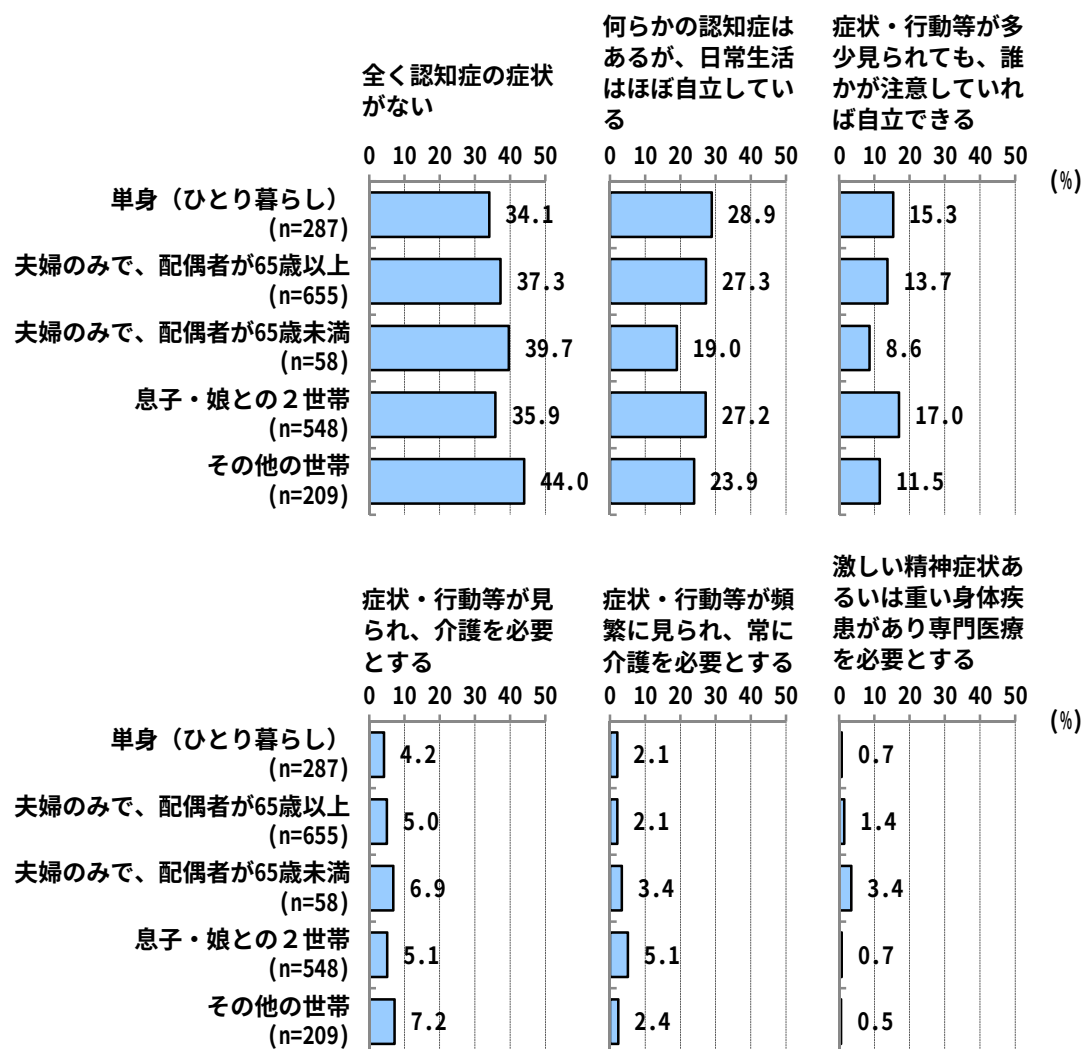
本人の要介護度別でみると、要支援１・２と要介護２～５は「全く認知症を有しない」が最も多くなっている。要介護１では「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が最も多くなっている。（B図43[40]-a）

【B図43[40]-a 本人の認知症の程度（本人の要介護度別）】



世帯状況別でみると、いずれの世帯も「全く認知症を有しない」が最も多くなっている。
(B図43[40]-b)

【B図43[40]-b 本人の認知症の程度（世帯状況別）】



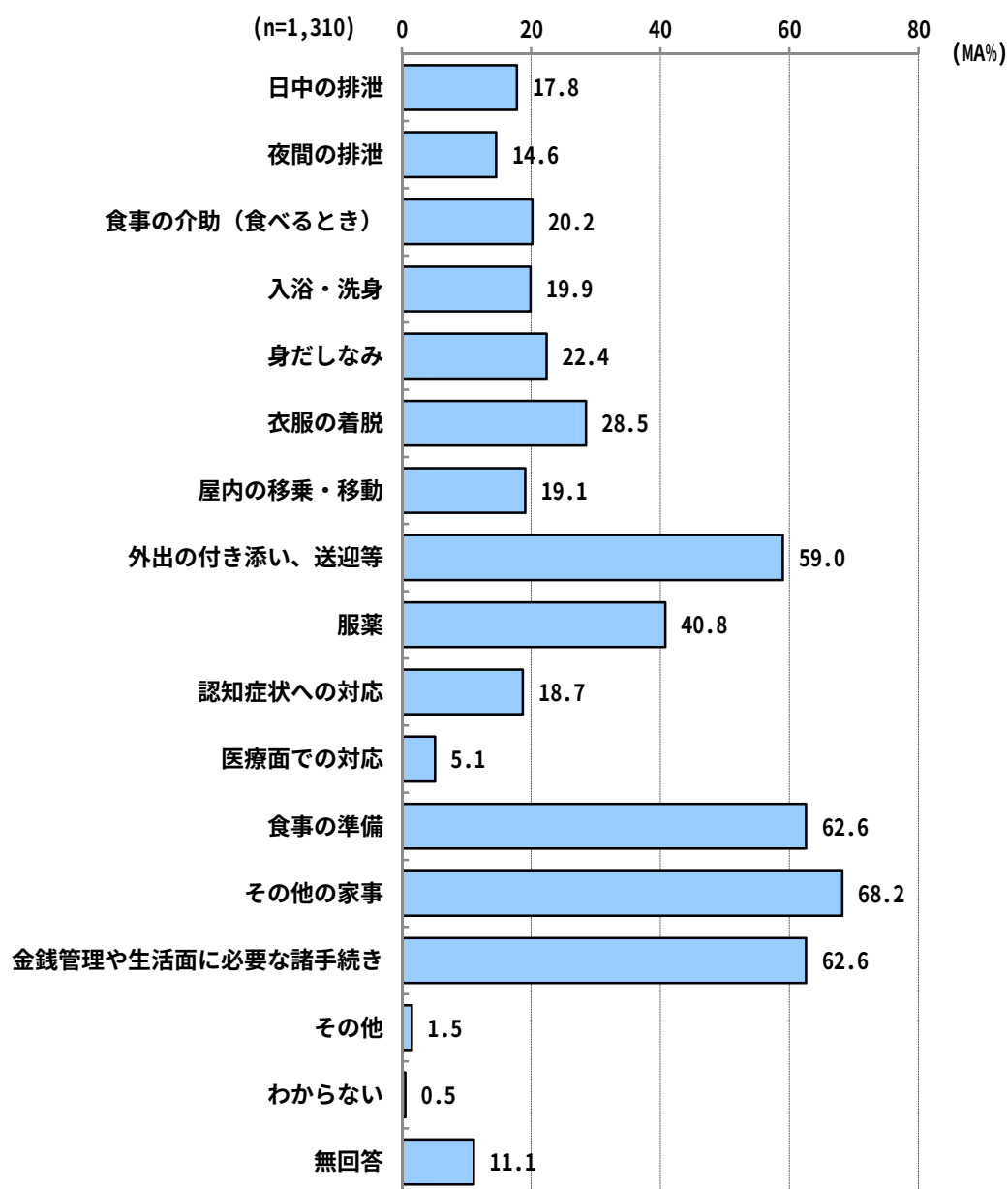
問44[41] 本人に行っている介護内容

あなたは、ご本人に対し、どのような介護を行っていますか。(○はいくつでも)

サービス利用者本人に介護者が行っている介護内容については、「その他の家事」が68.2%で最も多く、次いで「食事の準備」と「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」がそれぞれ62.6%、「外出の付き添い、送迎等」が59.0%となっている。(A図44[41])

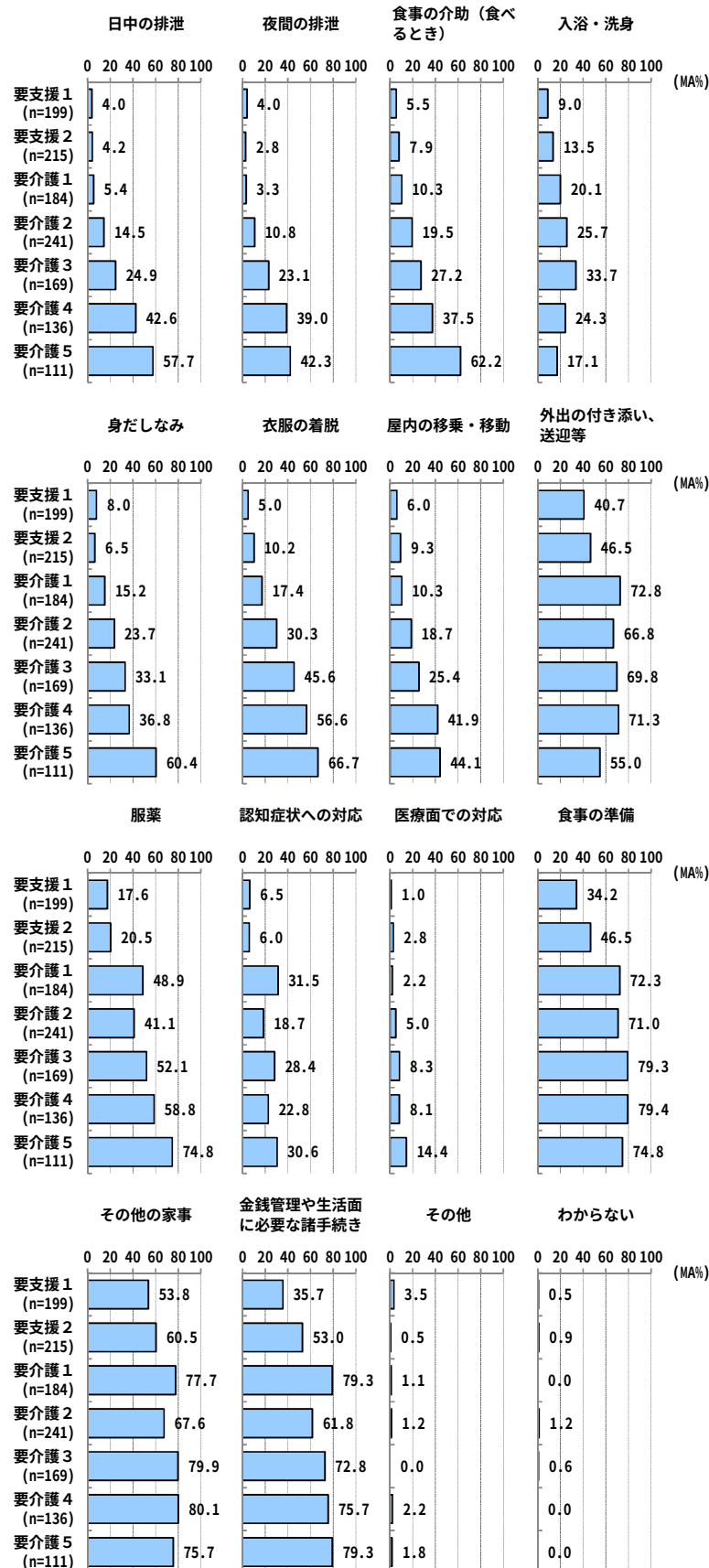
< A. サービス利用者 >

【A図44[41] 本人に行っている介護内容】



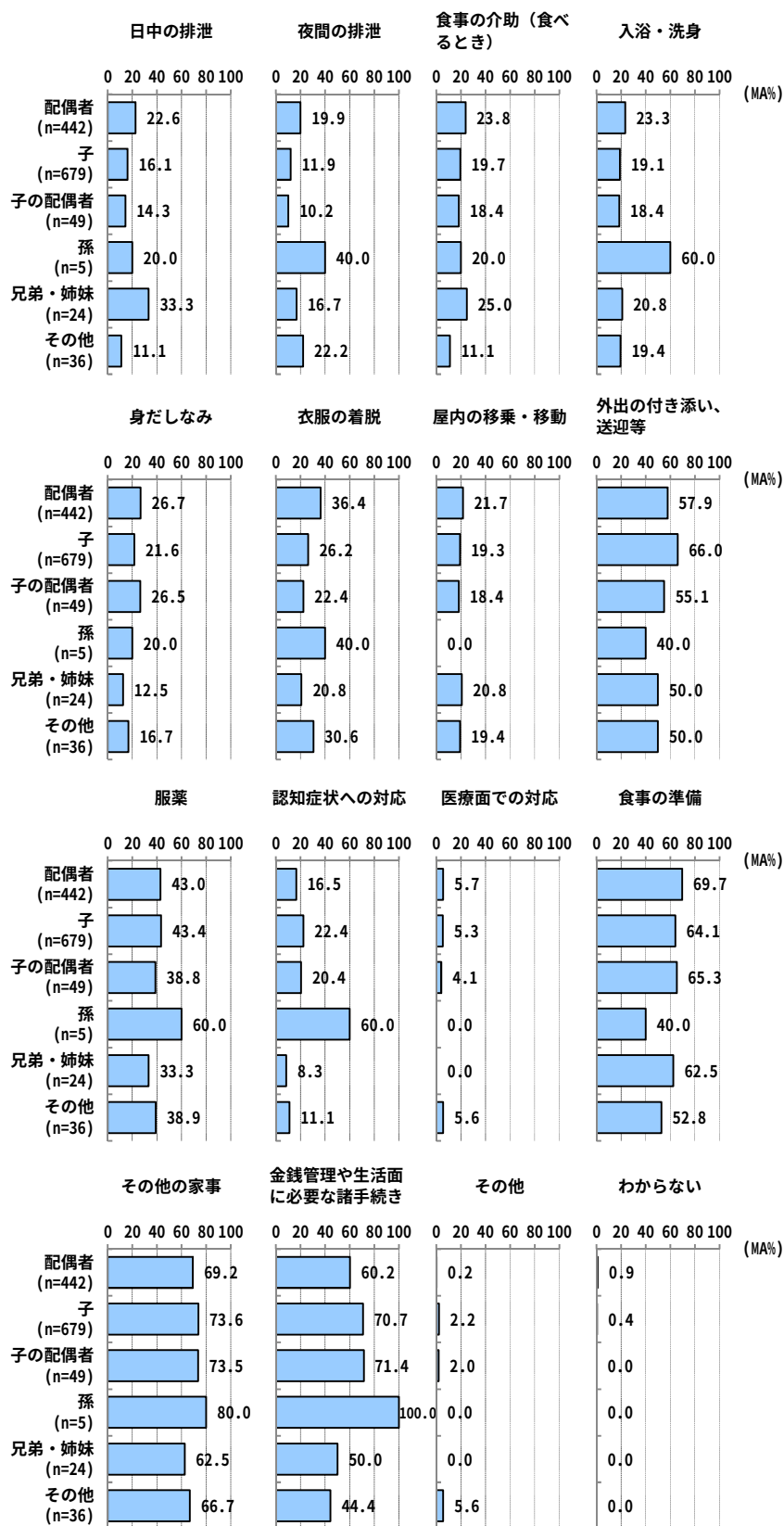
本人の要介護度別でみると、「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助（食べるとき）」「身だしなみ」「衣服の着脱」「屋内の移乗・移動」「服薬」「医療面での対応」の割合は重度になるほど高くなっている。（A図44[41]-a）

【A図44[41]-a 本人に行っている介護内容（本人の要介護度別）】



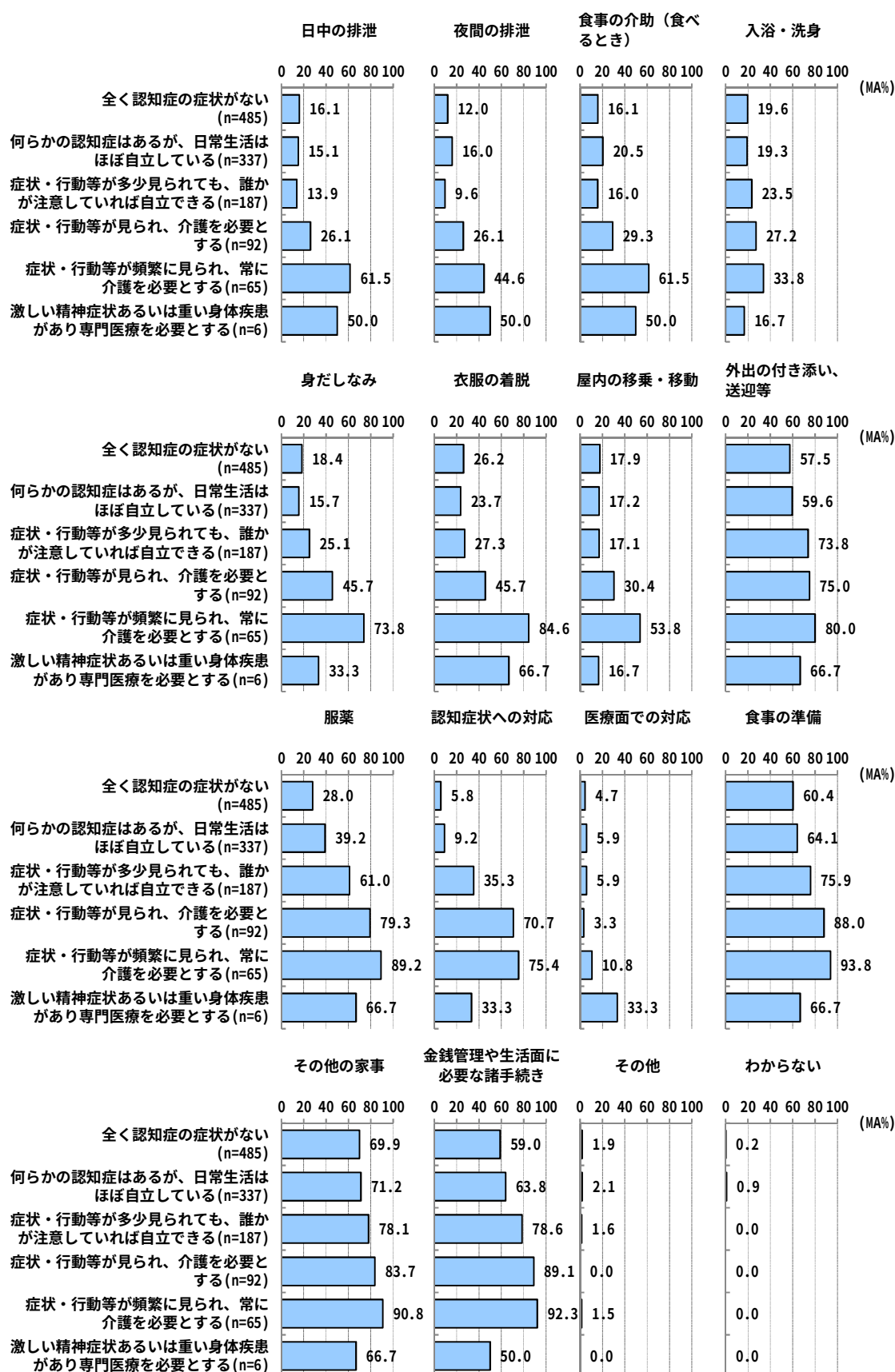
本人との関係別でみると、配偶者、兄弟・姉妹の介護者では「食事の準備」が最も多く、子、子の配偶者の介護者では「その他の家事」が最も多くなっている。（A図44[41]-b）

【A図44[41]-b 本人に行っている介護内容（本人との関係別）】



本人の認知症の程度別でみると、いずれの介護内容の割合も、認知症の重度化に伴って割合が高くなる傾向にある。(A図44[41]-c)

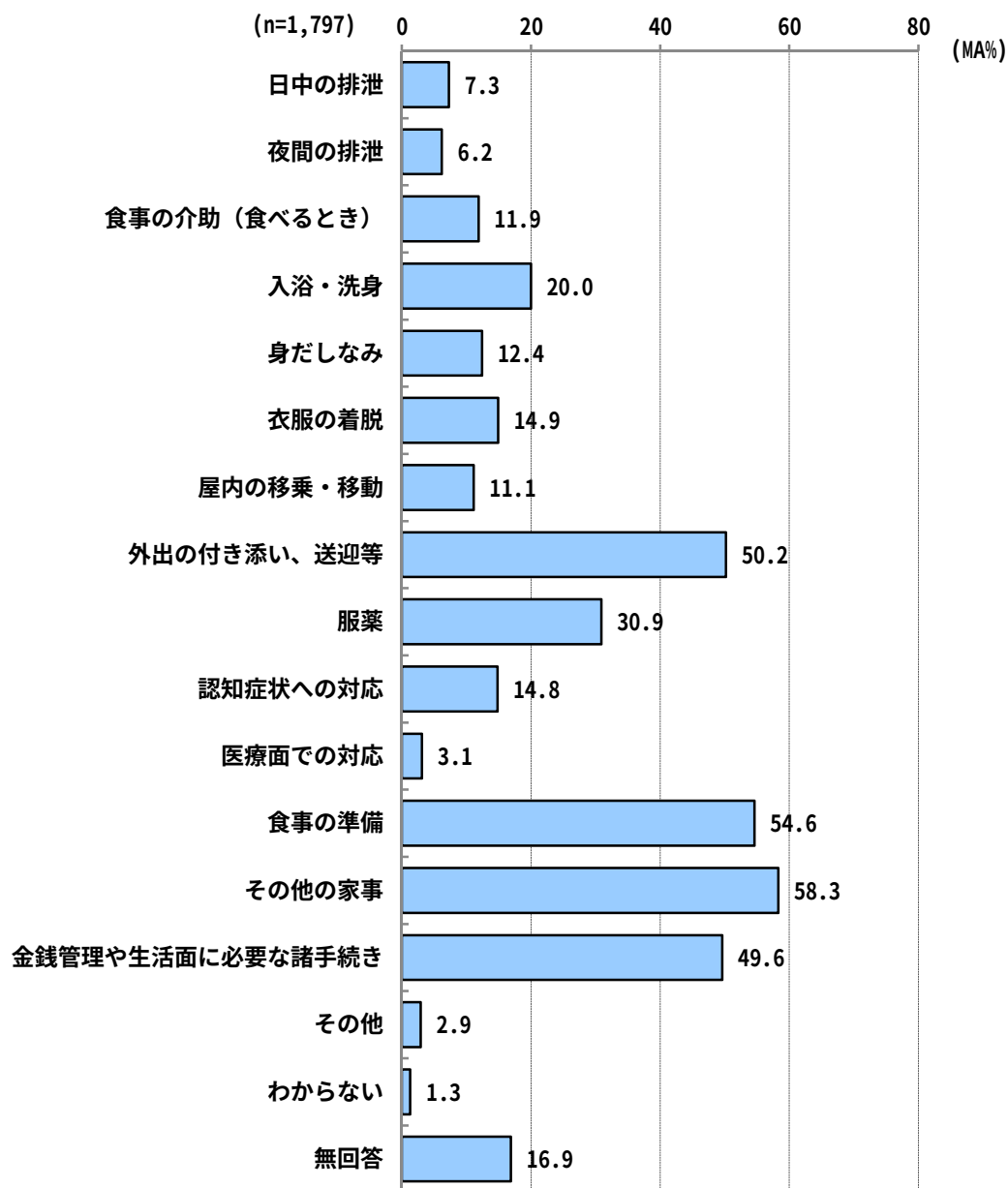
【A図44[41]-c 本人に行っている介護内容（本人の認知症の程度別）】



サービス未利用者本人に介護者が行っている介護内容については、「その他の家事」が58.3%で最も多く、次いで「食事の準備」が54.6%、「外出の付き添い、送迎等」が50.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が49.6%となっている。（B図44[41]）

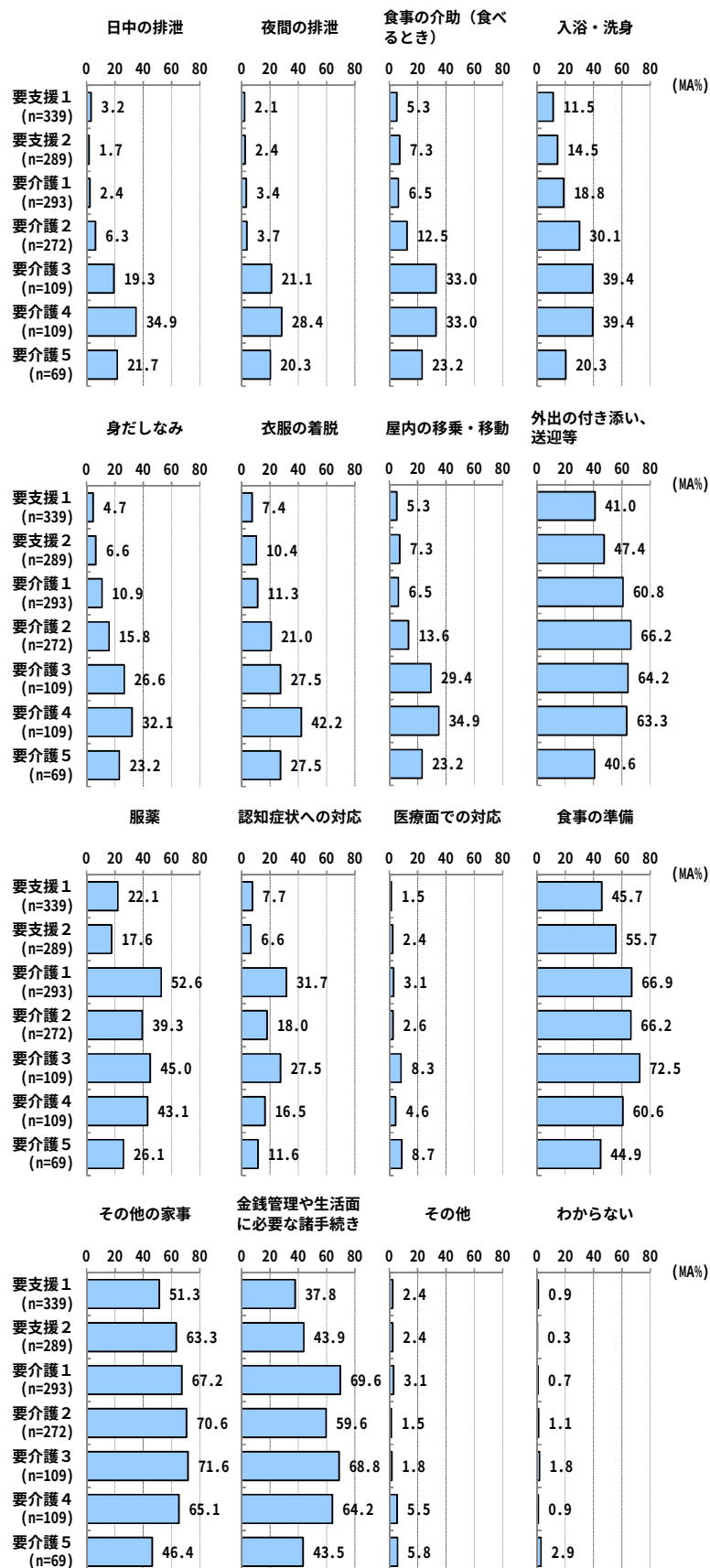
< B. サービス未利用者 >

【B図44[41] 本人に行っている介護内容】



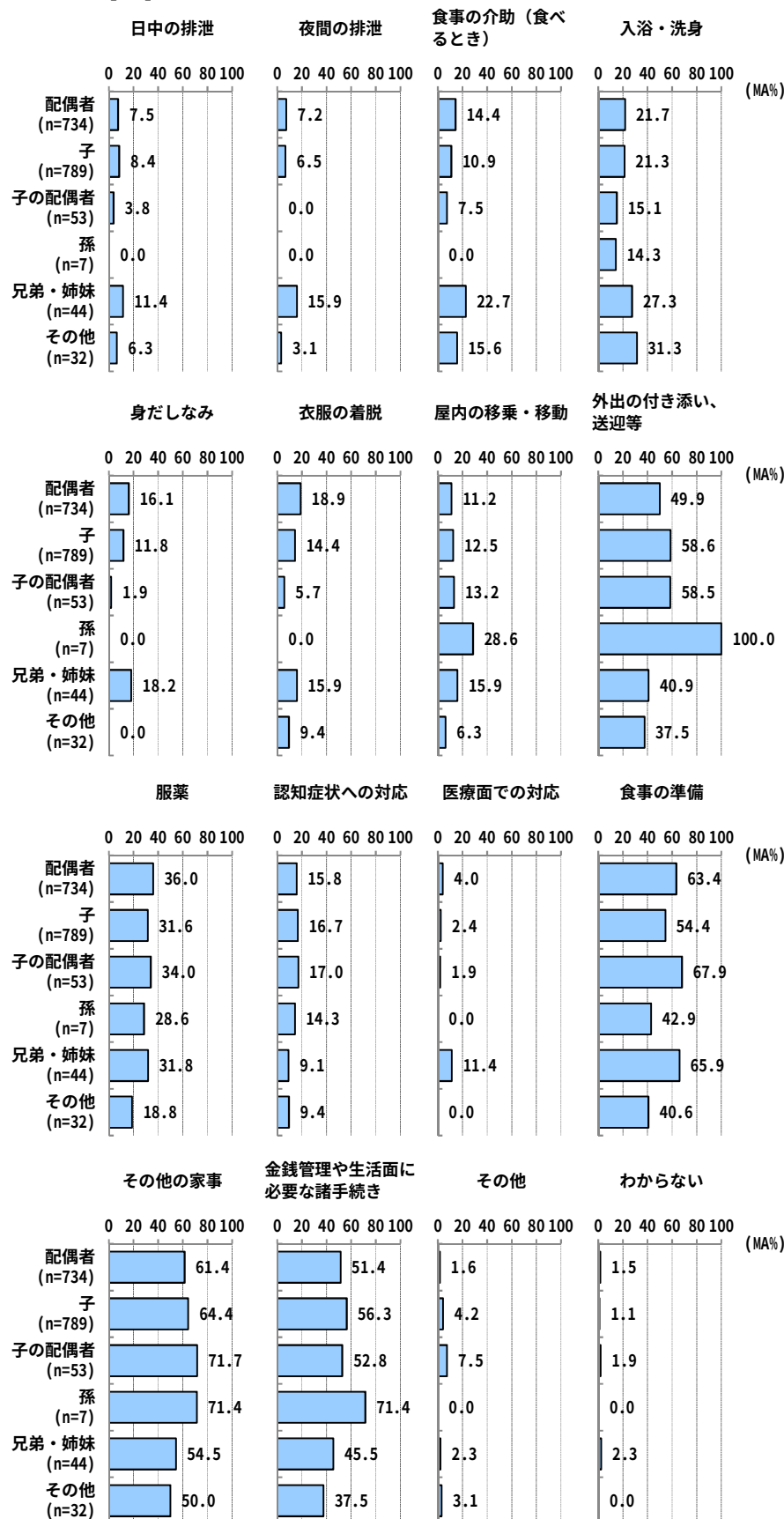
本人の要介護度別でみると、要介護1では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、要介護3では「食事の準備」が最も多いが、それ以外の要介護度では「その他の家事」が最も多くなっている。(B図44[41]-a)

【B図44[41]-a 本人に行っている介護内容（本人の要介護度別）】



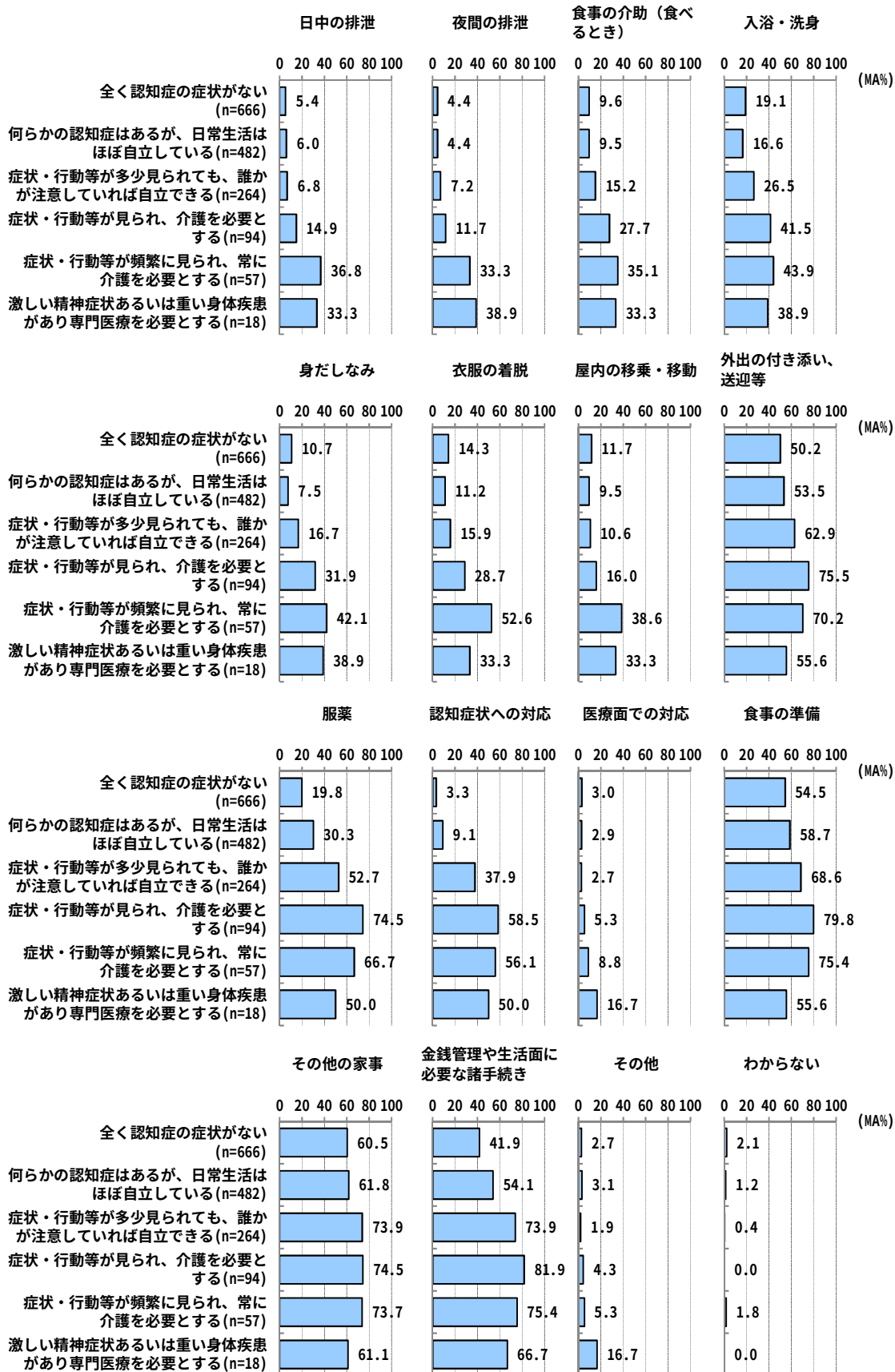
本人との関係別でみると、配偶者、兄弟・姉妹の介護者では「食事の準備」が最も多く、子、子の配偶者、その他の介護者では「その他の家事」が最も多くなっている。(B図44[41]-b)

【B図44[41]-b 本人に行っている介護内容（本人との関係別）】



本人の認知症の程度別でみると、いずれの介護内容の割合も、認知症の重度化に伴って割合が高くなる傾向にある。(B図44[41]-c)

【B図44[41]-c 本人に行っている介護内容（本人の認知症の程度別）】



問45[42] 自宅での介護で毎月もっとも必要とするもの

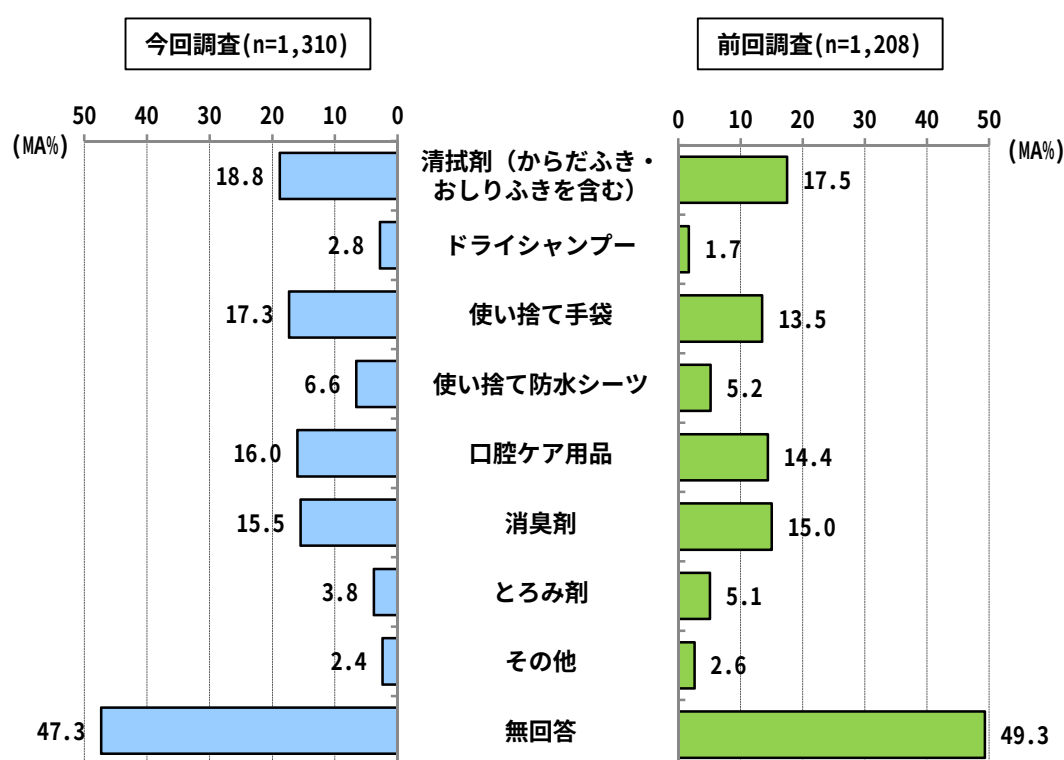
あなたは、ご本人に対し、どのような介護を行っていますか。(○はいくつでも)

サービス利用者本人に対し、在宅介護で毎月最も必要とするものについては、「清拭剤（からだふき・おしりふきを含む）」が18.8%で最も多く、次いで「使い捨て手袋」が17.3%、「口腔ケア用品」が16.0%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図45[42])

<A. サービス利用者>

【A図45[42] 自宅での介護で毎月もっとも必要とするもの（経年比較）】

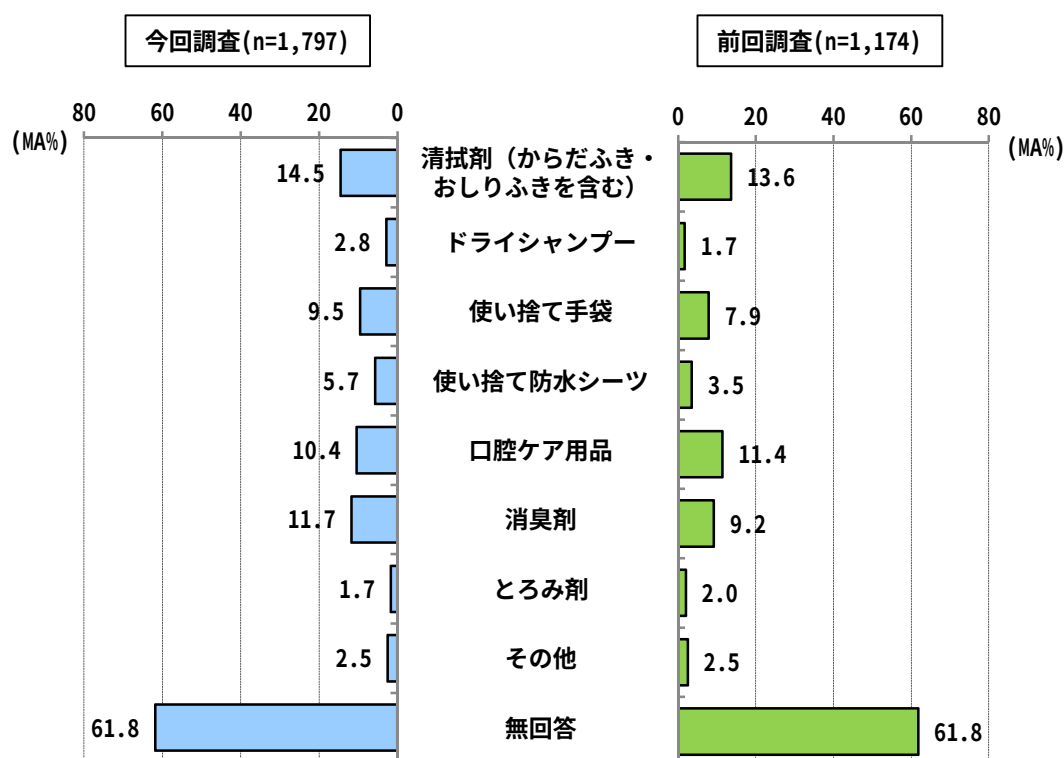


サービス未利用者本人に対し、在宅介護で毎月最も必要とするものについては、「清拭剤(からだふき・おしりふきを含む)」が14.5%で最も多く、次いで「消臭剤」が11.7%、「口腔ケア用品」が10.4%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図45[42])

< B. サービス未利用者 >

【B図45[42] 自宅での介護で毎月もっとも必要とするもの（経年比較）】



(3) 介護上の問題

問46[43] 自宅での介護で困っていること

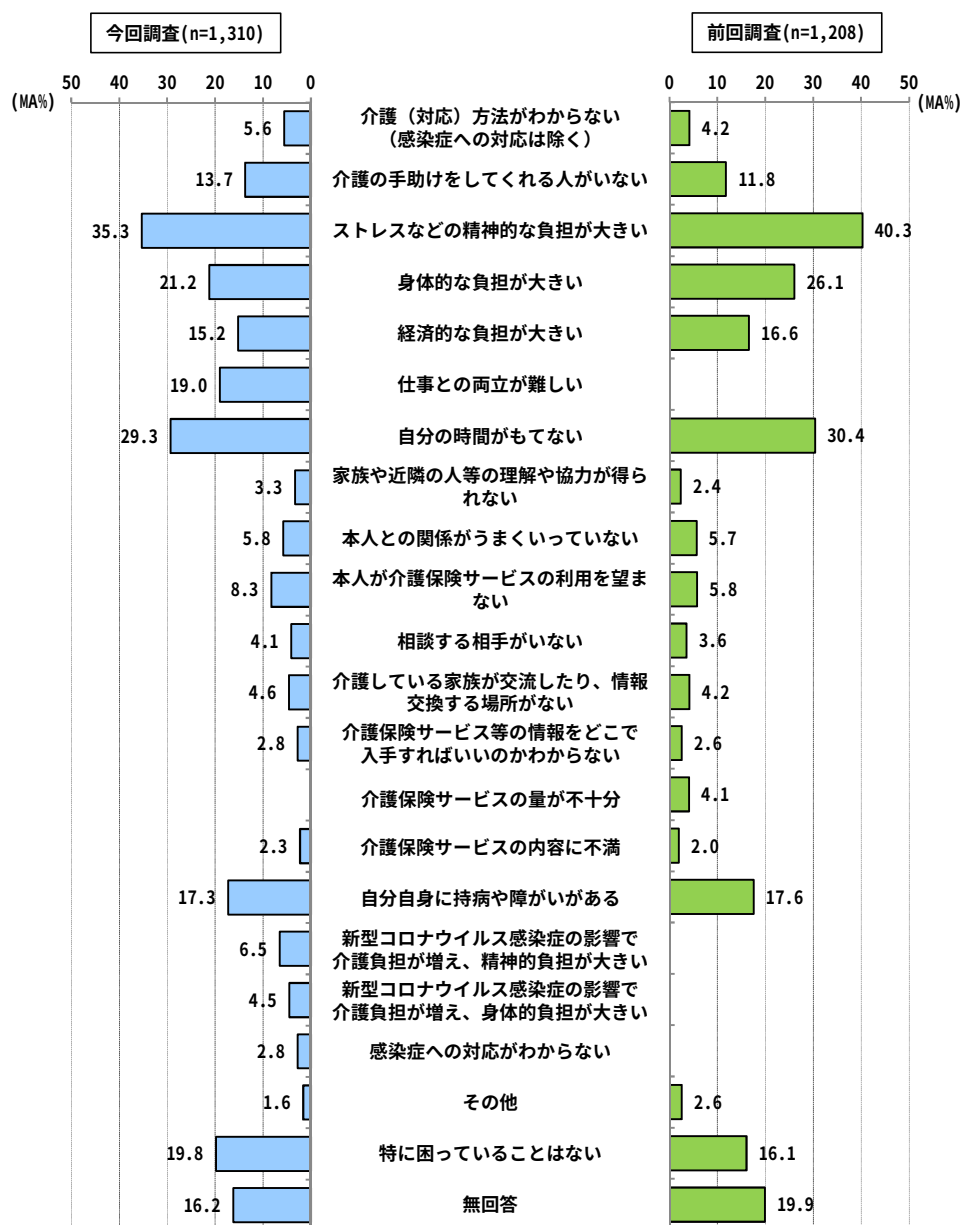
あなたが、自宅での介護を行ううえで困っていることはどのようなことですか。
(○はいいくつでも)

自宅でのサービス利用者の介護で困っていることについては、「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が35.3%で最も多く、次いで「自分の時間がもてない」が29.3%、「身体的な負担が大きい」が21.2%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図46[43])

< A. サービス利用者 >

【A図46[43] 自宅での介護で困っていること（経年比較）】

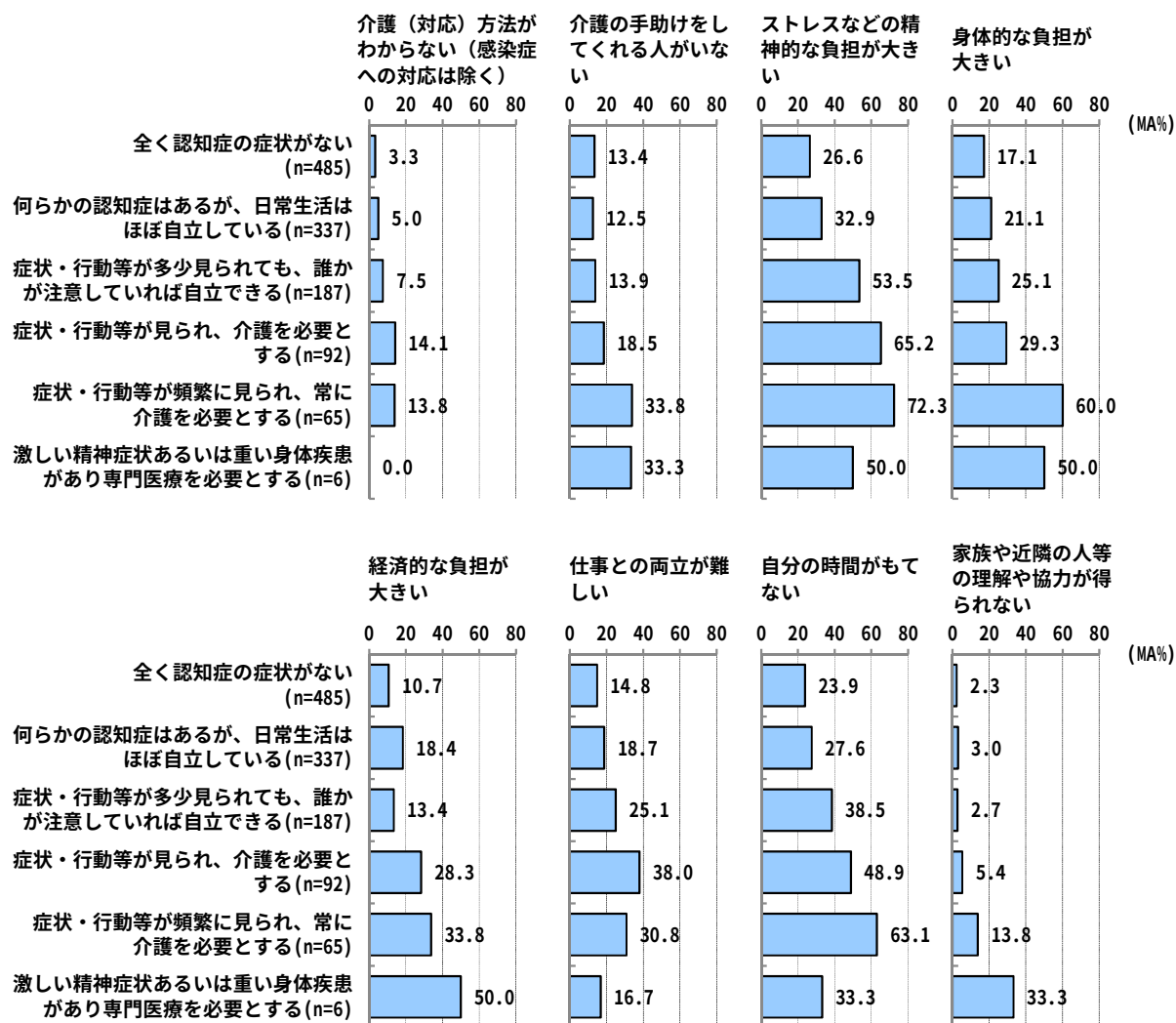


※前回調査の「介護保険サービスの量が不十分」は、今回調査では設けていない。

※「仕事との両立が難しい」「新型コロナウイルス感染症の影響で介護負担が増え、精神的負担が大きい」「新型コロナウイルス感染症の影響で介護負担が増え、身体的負担が大きい」「感染症への対応がわからない」は、今回調査の新規項目である。

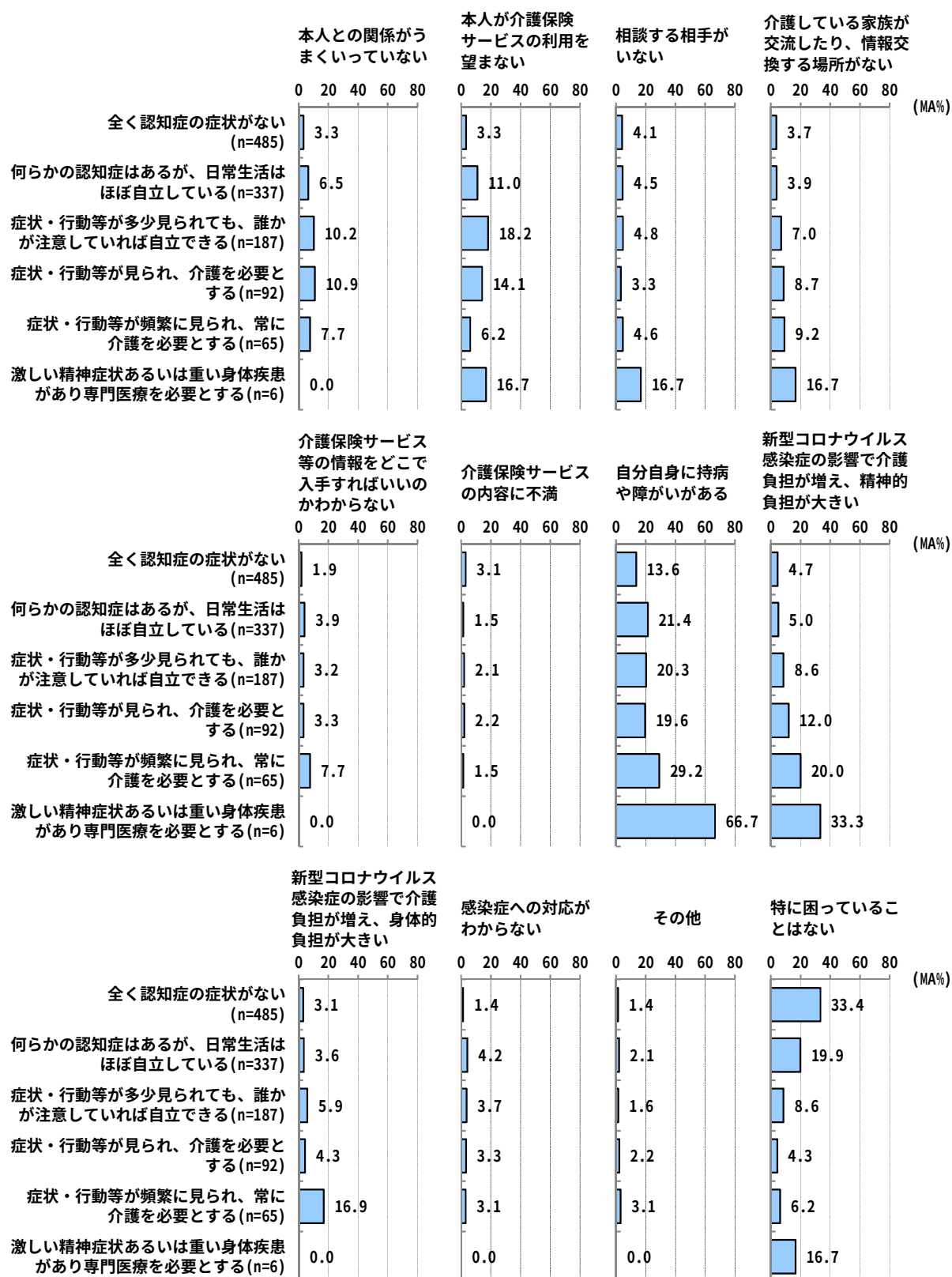
本人の認知症の程度別でみると、認知症を有しない人は「特に困っていることはない」が33.4%で最も多くなっている。一方、認知症の症状が少しでも見られる人は「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が最も多く、これ以外にも「身体的な負担が大きい」「経済的な負担が大きい」「自分の時間がもてない」「新型コロナウイルス感染症の影響で介護負担が増え、精神的負担が大きい」の割合は、認知症の重度化に伴って割合が高くなる傾向がみられる。(A図46[43]-a)

【A図46[43]-a 自宅での介護で困っていること（本人の認知症の程度別）①】



【介護者調査 編】

【A図46[43]-a 自宅での介護で困っていること（本人の認知症の程度別）②】

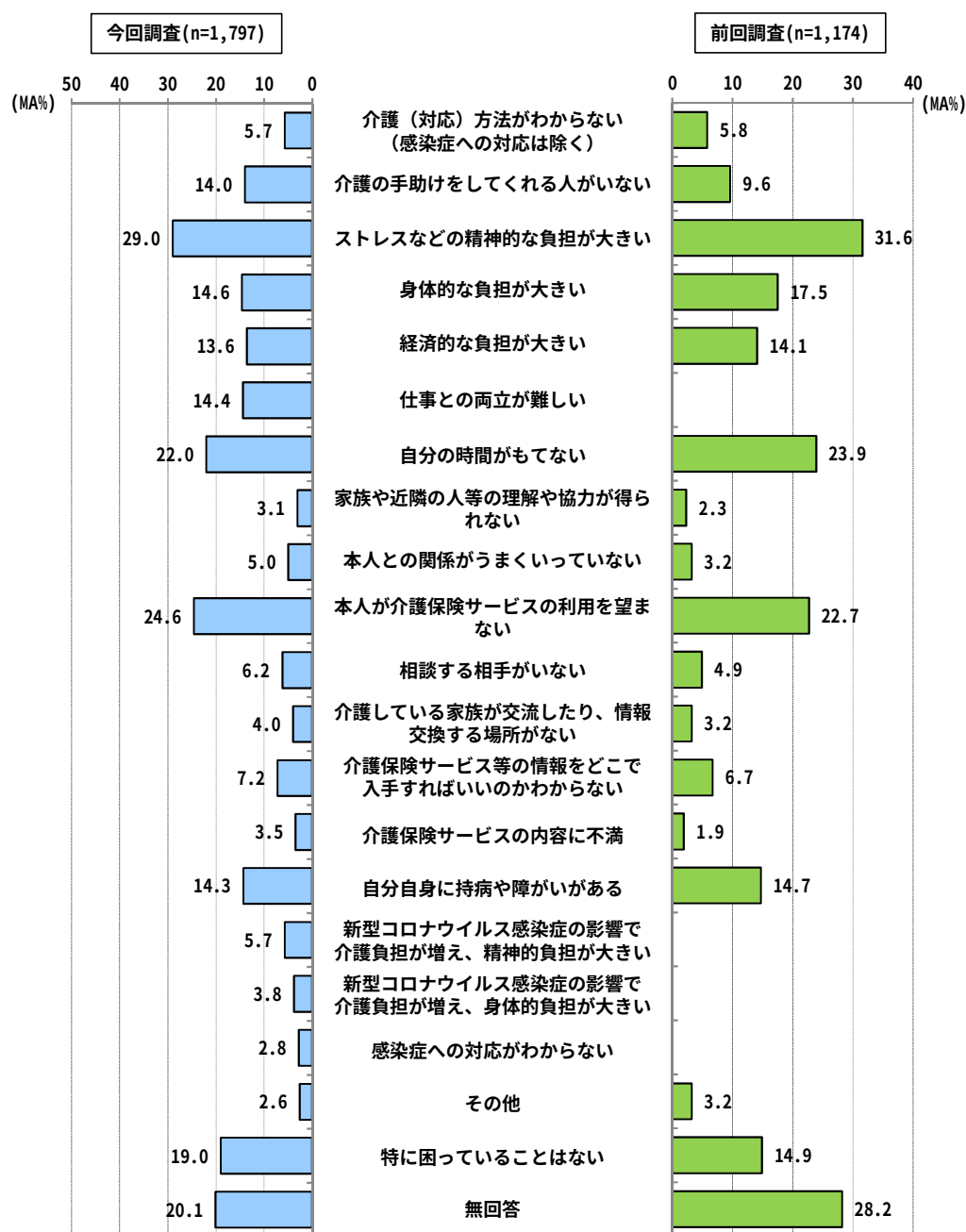


自宅でのサービス未利用者の介護で困っていることについては、「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が29.0%で最も多く、次いで「本人が介護保険サービスの利用を望まない」が24.6%、「自分の時間がもてない」が22.0%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図46[43])

< B. サービス未利用者 >

【B図46[43] 自宅での介護で困っていること（経年比較）】

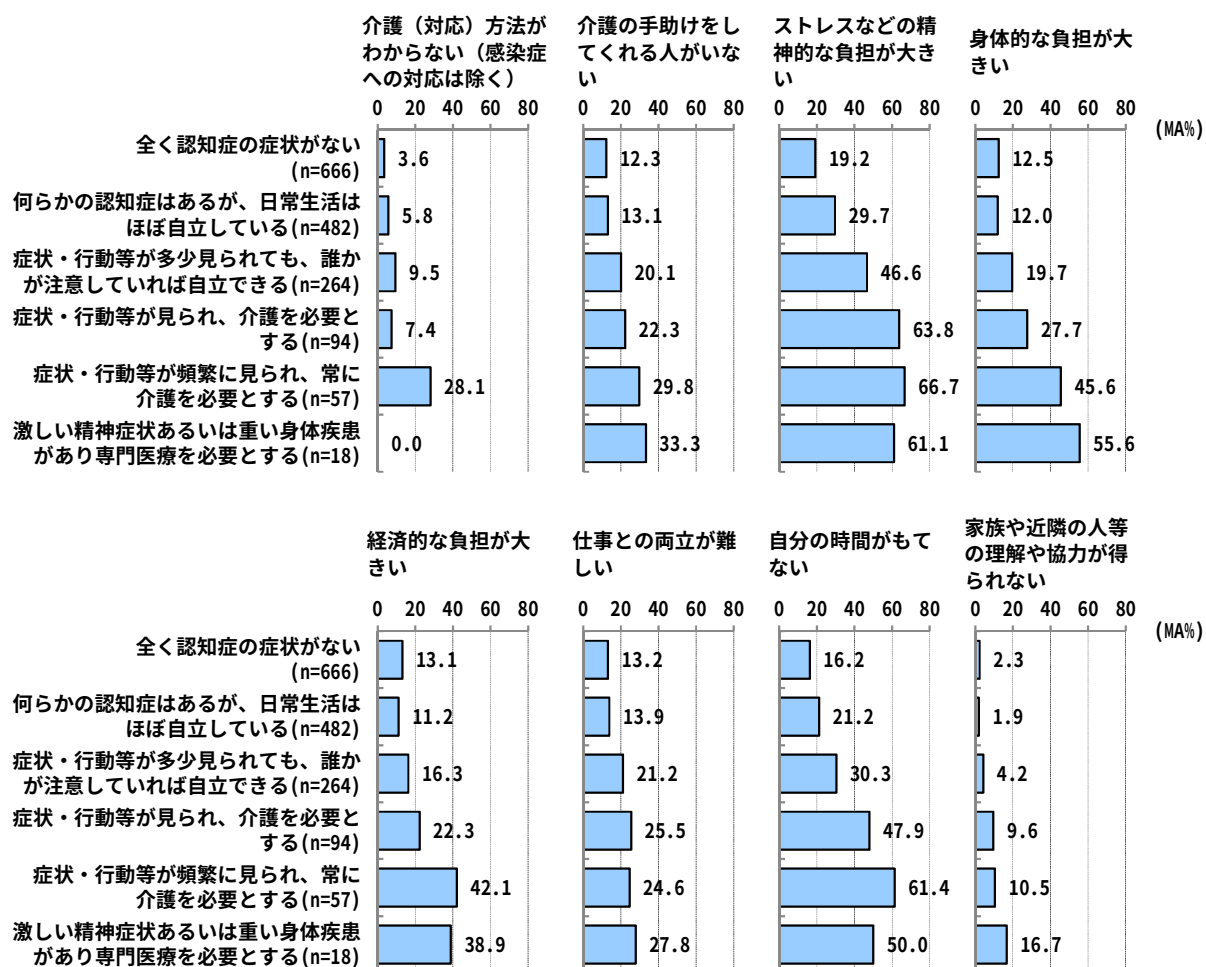


※前回調査の「介護保険サービスの量が不十分」は、今回調査では設けていない。

※「仕事との両立が難しい」「新型コロナウイルス感染症の影響で介護負担が増え、精神的負担が大きい」「新型コロナウイルス感染症の影響で介護負担が増え、身体的負担が大きい」「感染症への対応がわからない」は、今回調査の新規項目である。

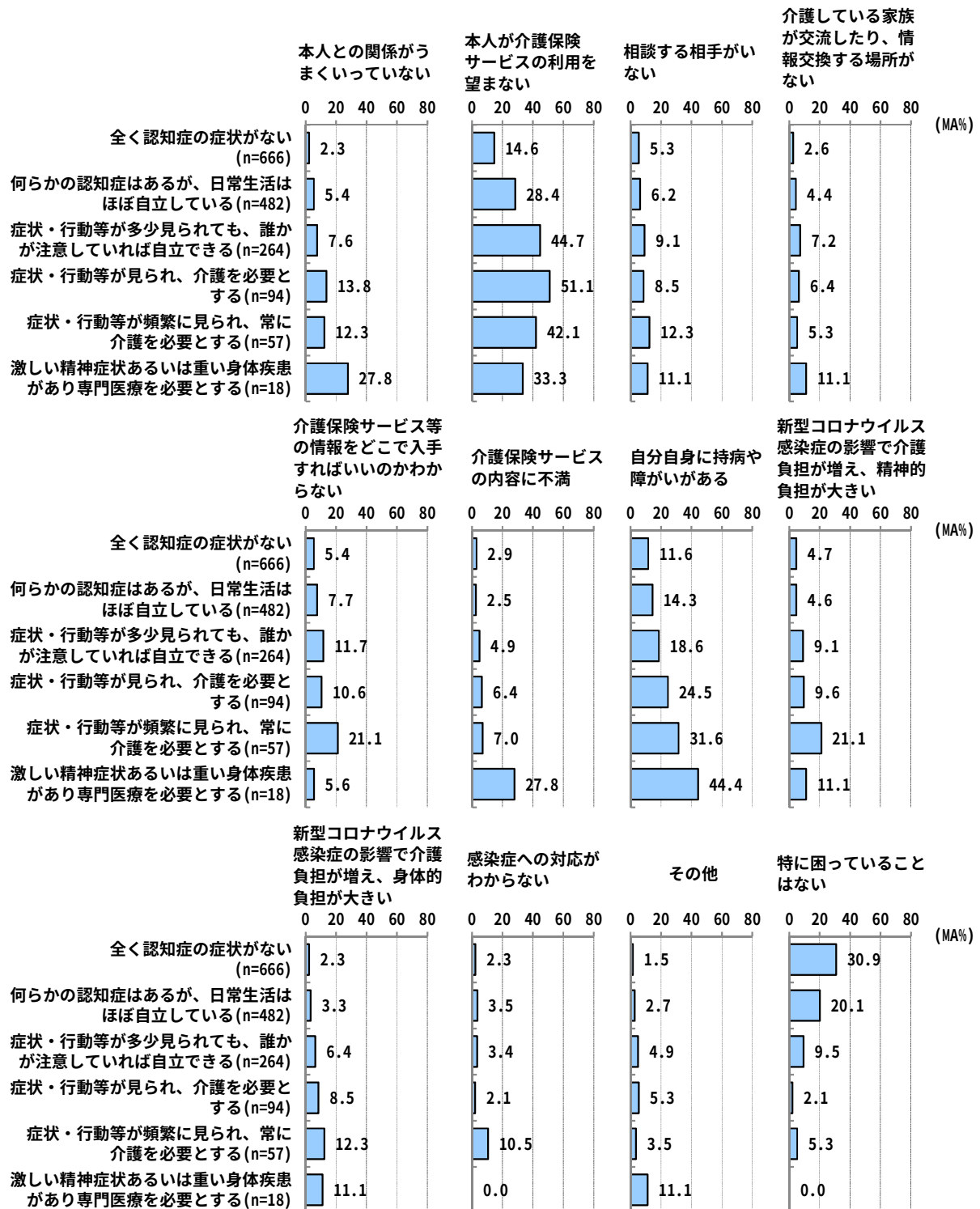
本人の認知症の程度別でみると、認知症を有しない人は「特に困っていることはない」が30.9%で最も多くなっている。一方、認知症の症状が少しでも見られる人は「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が最も多く、いずれの項目においても認知症の重度化に伴って割合が高くなる傾向がみられる。(B図46[43]-a)

【B図46[43]-a 自宅での介護で困っていること（本人の認知症の程度別）①】



【介護者調査 編】

【B図46[43]-a 自宅での介護で困っていること（本人の認知症の程度別）②】



問47[44] 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと

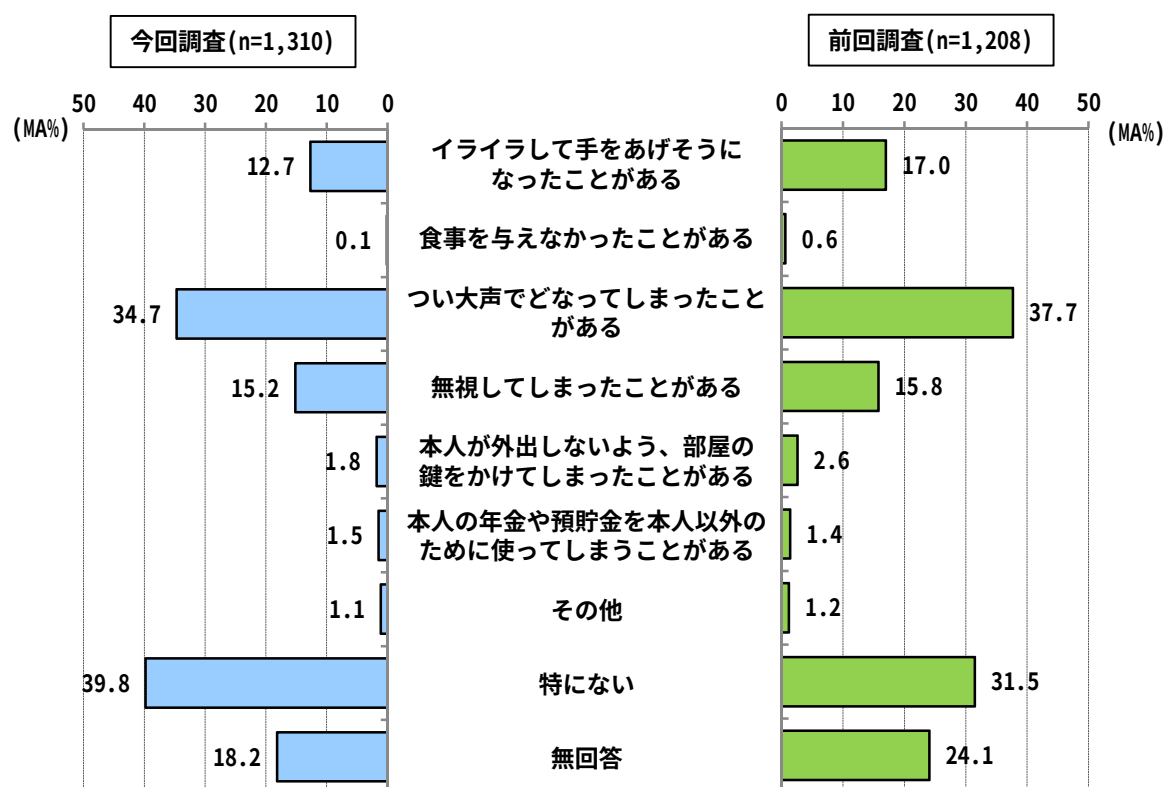
あなたが、自宅での介護を行ううえで、次のような状態になったことがありますか。
(○はいくつでも)

自宅での介護でサービス利用者本人に対して行ってしまったことについては、「つい大声でどなってしまったことがある」が34.7%で最も多く、次いで「無視してしまったことがある」が15.2%、「イライラして手をあげそうになったことがある」が12.7%となっている。また、「特にない」は39.8%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図47[44])

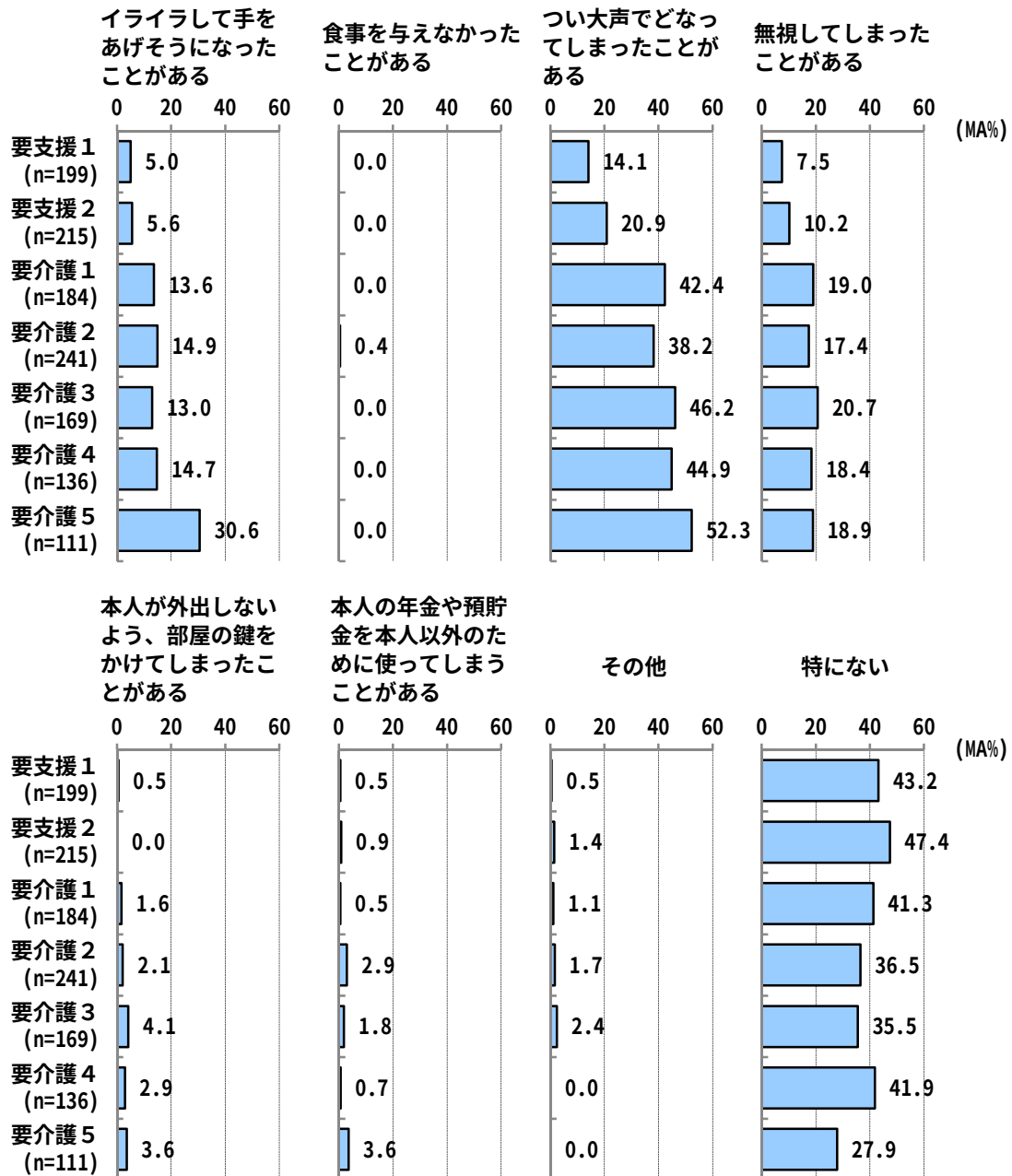
< A. サービス利用者 >

【A図47[44] 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（経年比較）】



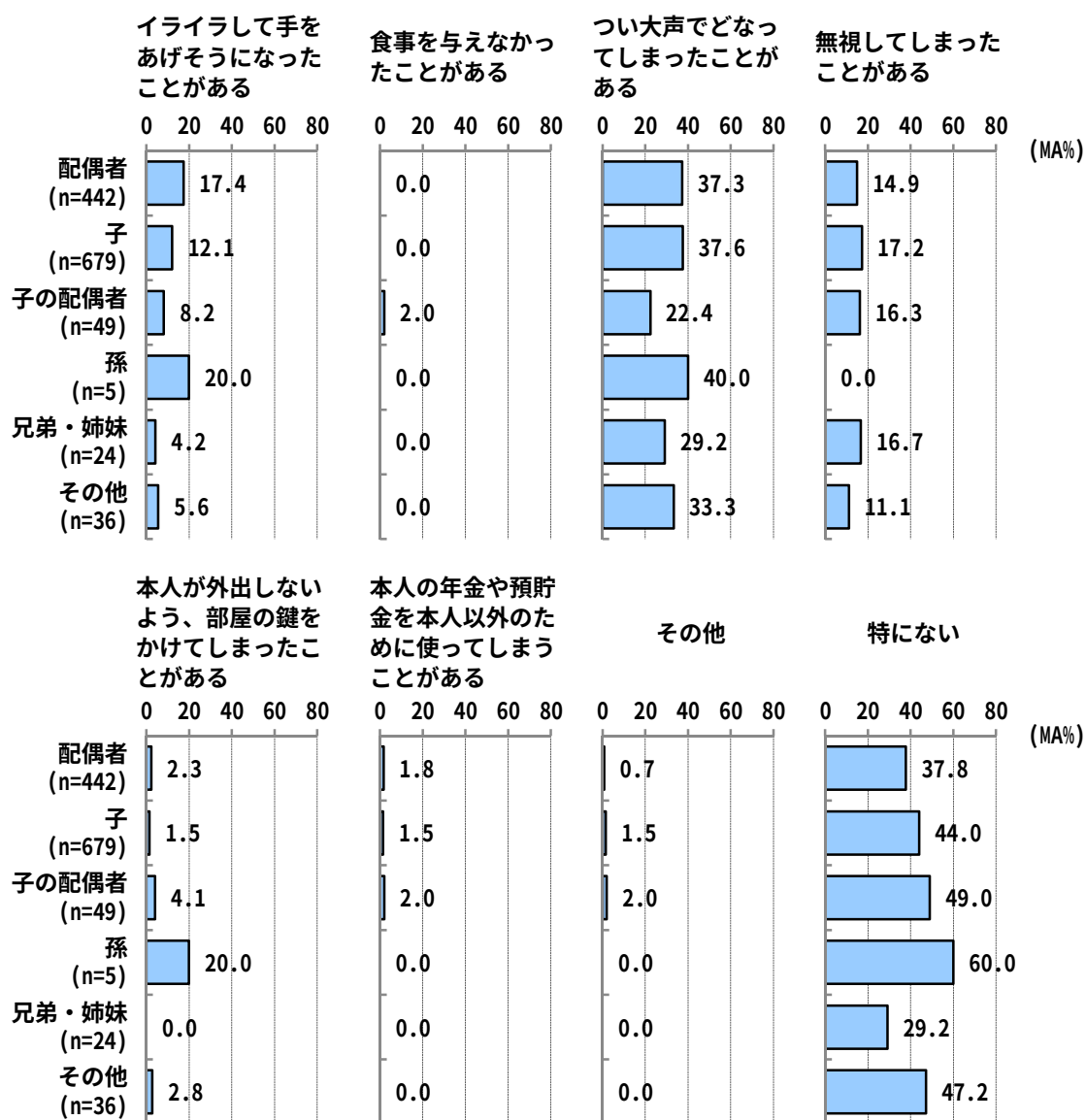
本人の要介護度別でみると、要支援１・２は「特にない」が最も多いが、重度になるほど割合が低くなる傾向がみられる。要介護１～５では「つい大声でどなってしまったことがある」が３～５割台で最も多くなっている。（A図47[44]-a）

【A図47[44]-a 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人の要介護度別）】



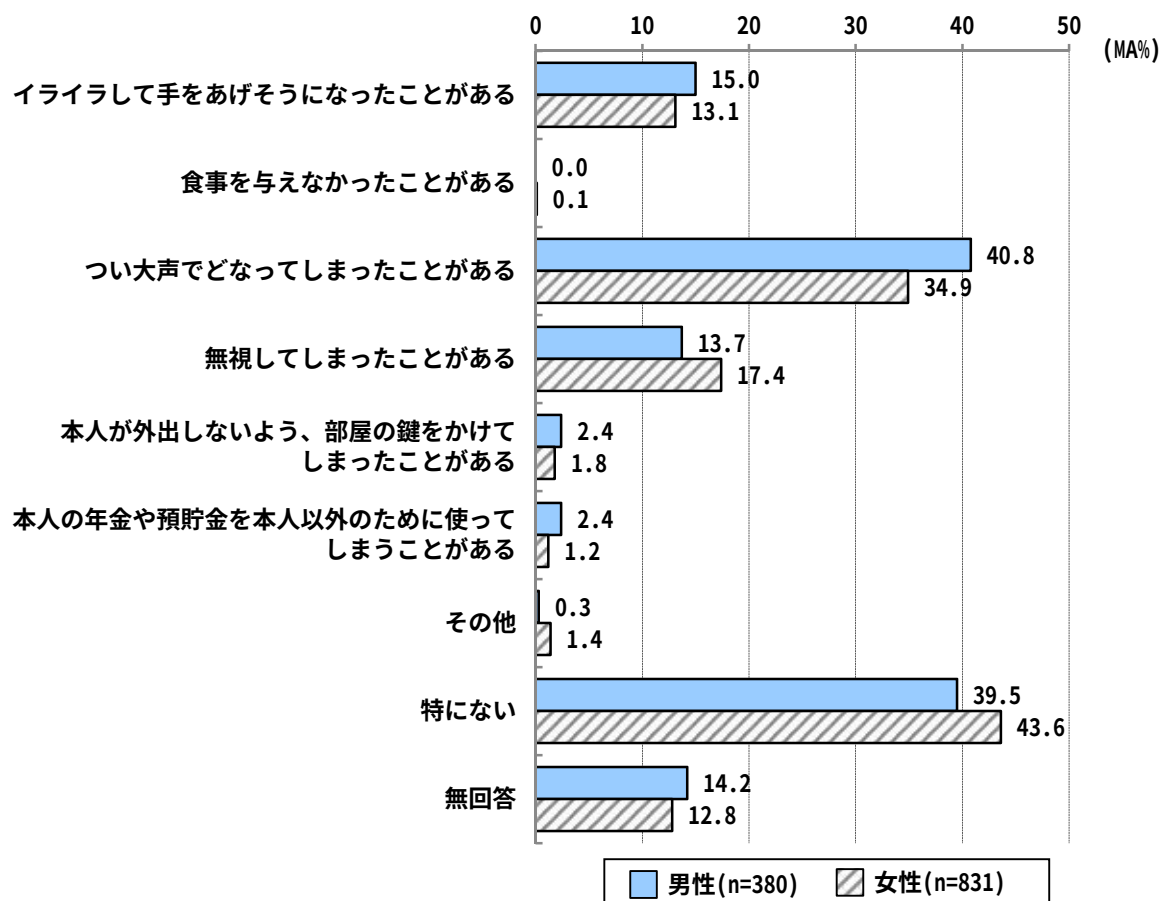
本人との関係別でみると、関係性にかかわらず「特にない」が最も多いが、兄弟・姉妹は同率で「つい大声でどなってしまったことがある」が最も多くなっている。(A図47[44]-b)

【A図47[44]-b 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人との関係別）】



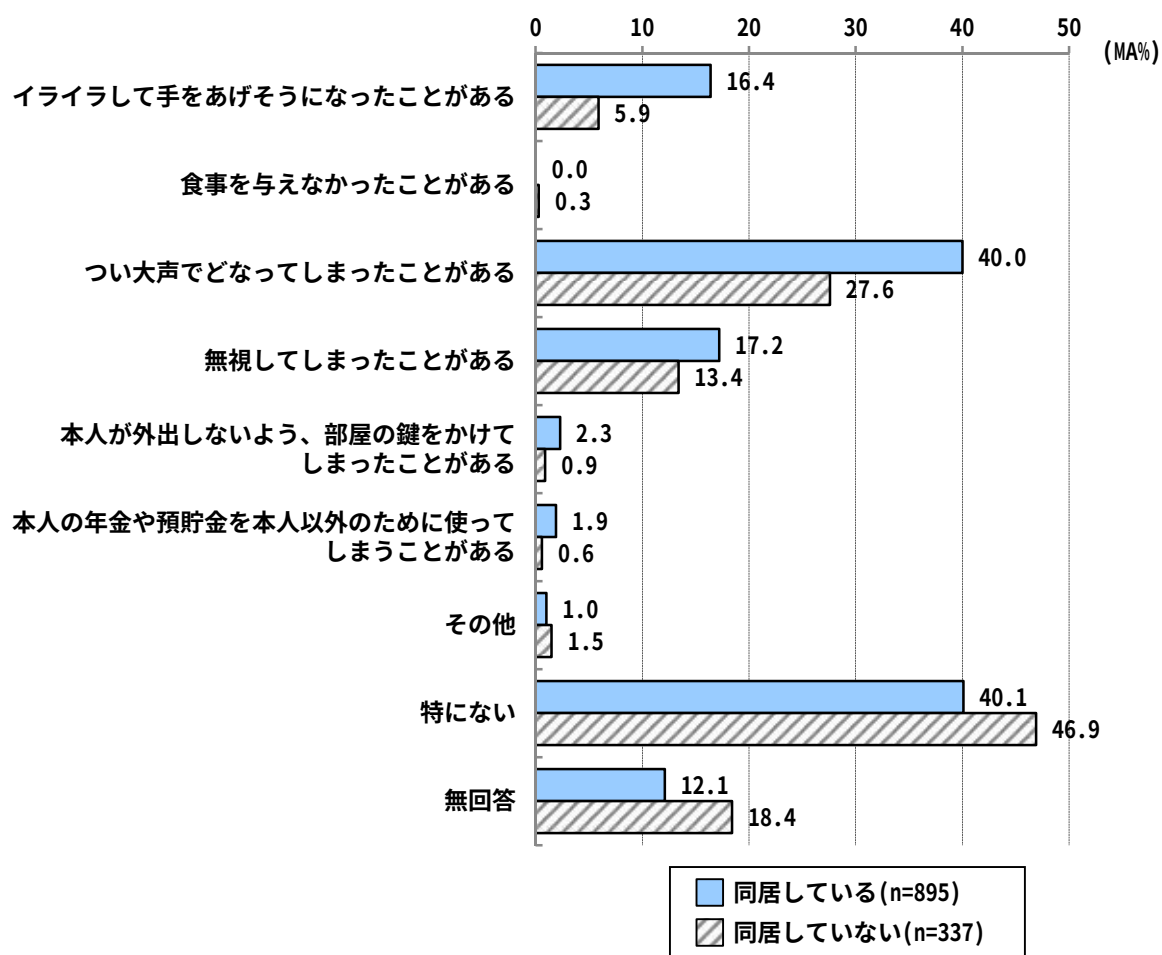
介護者の性別でみると、男性は「つい大声でどなってしまったことがある」が40.8%で最も多く、女性より5.9ポイント高くなっている。女性は「特にない」が43.6%で最も多くなっている。(A図47[44]-c)

【A図47[44]-c 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（介護者の性別）】



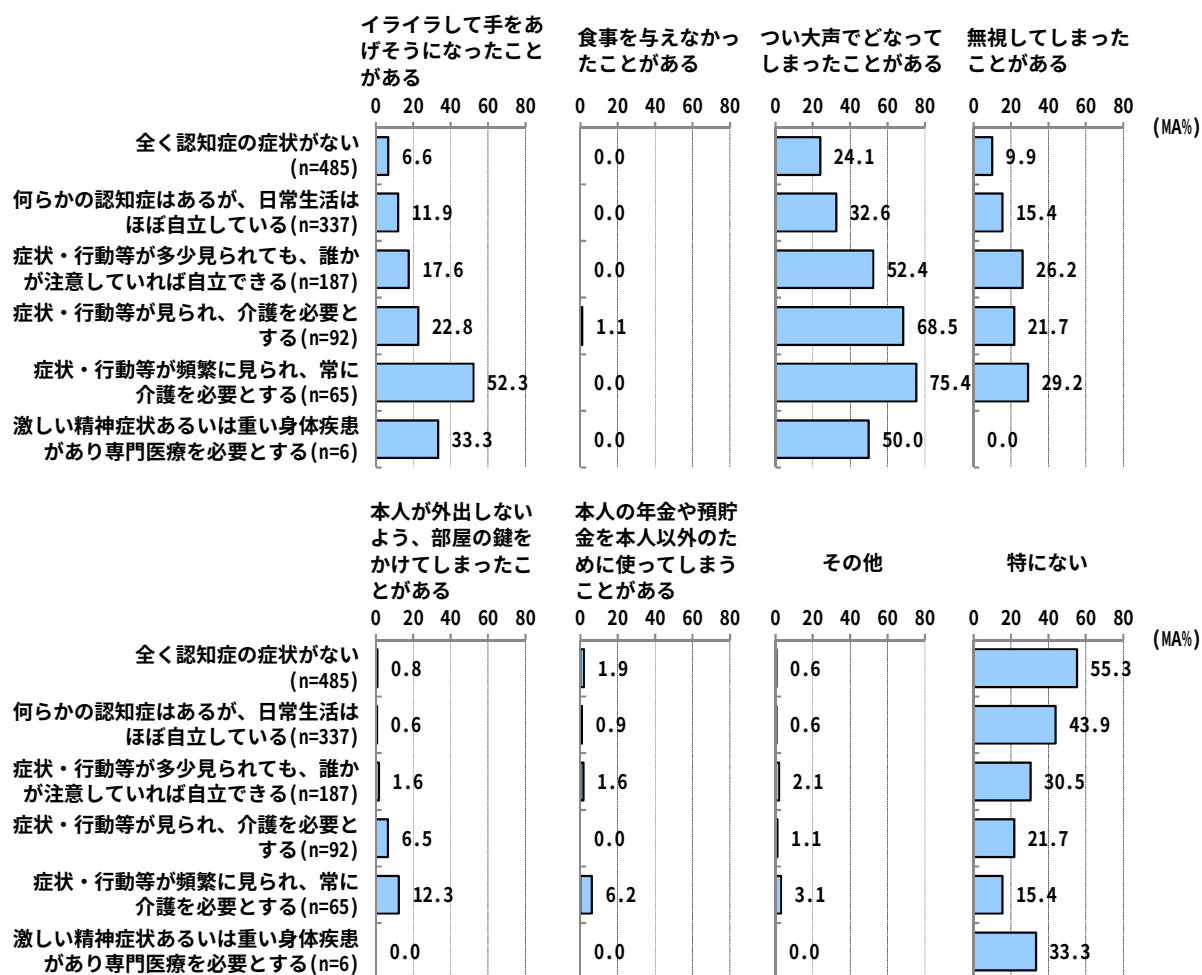
本人との同居の有無別でみると、同居の有無にかかわらず「特にない」が最も多く、次いで「つい大声でどなってしまったことがある」が続いており、同居していない介護者より同居している介護者のほうが12.4ポイント高くなっている。虐待的行為の割合は、同居していない介護者に比べて高い割合になっている。(A図47[44]-d)

【A図47[44]-d 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人との同居の有無別）】



本人の認知症の程度別でみると、認知症を有しない人や何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している人では「特にない」が5割前後で最も多くなっている。一方、認知症の症状が見られる人に対しては「つい大声でどなってしまったことがある」が最も多くなっており、認知症の重度化に伴って虐待的行為の割合は高くなる傾向がみられる。(A図47[44]-e)

【A図47[44]-e 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人の認知症の程度別）】



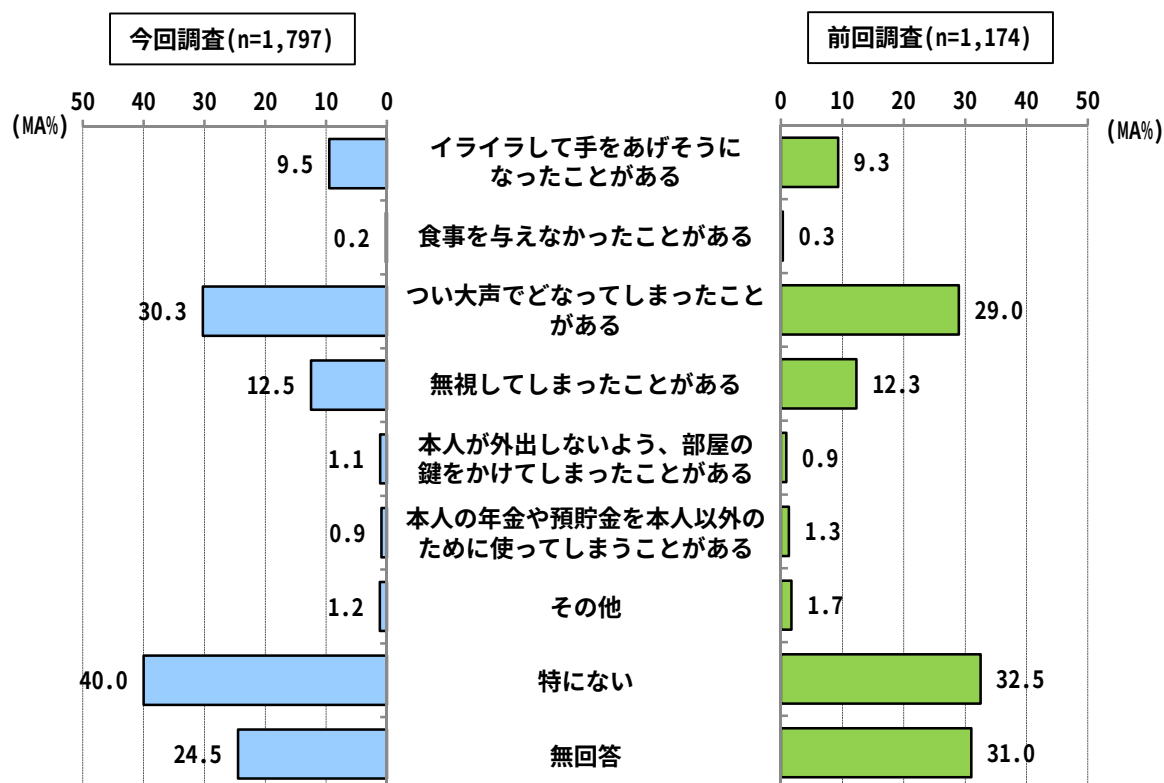
自宅での介護でサービス未利用者本人に対して行ってしまったことについては、「つい大声でどなってしまったことがある」が30.3%で最も多く、次いで「無視してしまったことがある」が12.5%、「イライラして手をあげそうになったことがある」が9.5%となっている。

また、「特にない」は40.0%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図47[44])

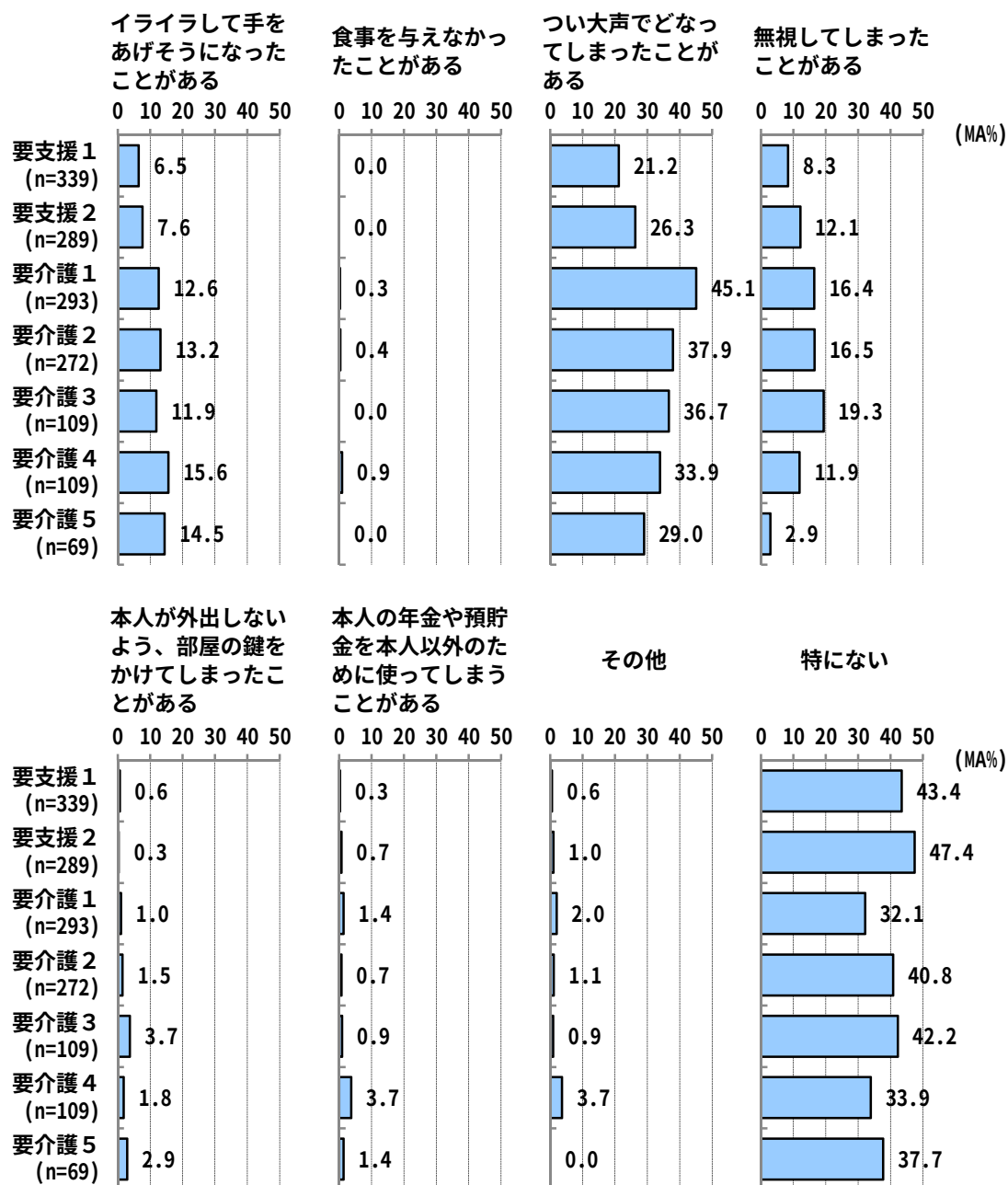
< B. サービス未利用者 >

【B図47[44] 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（経年比較）】



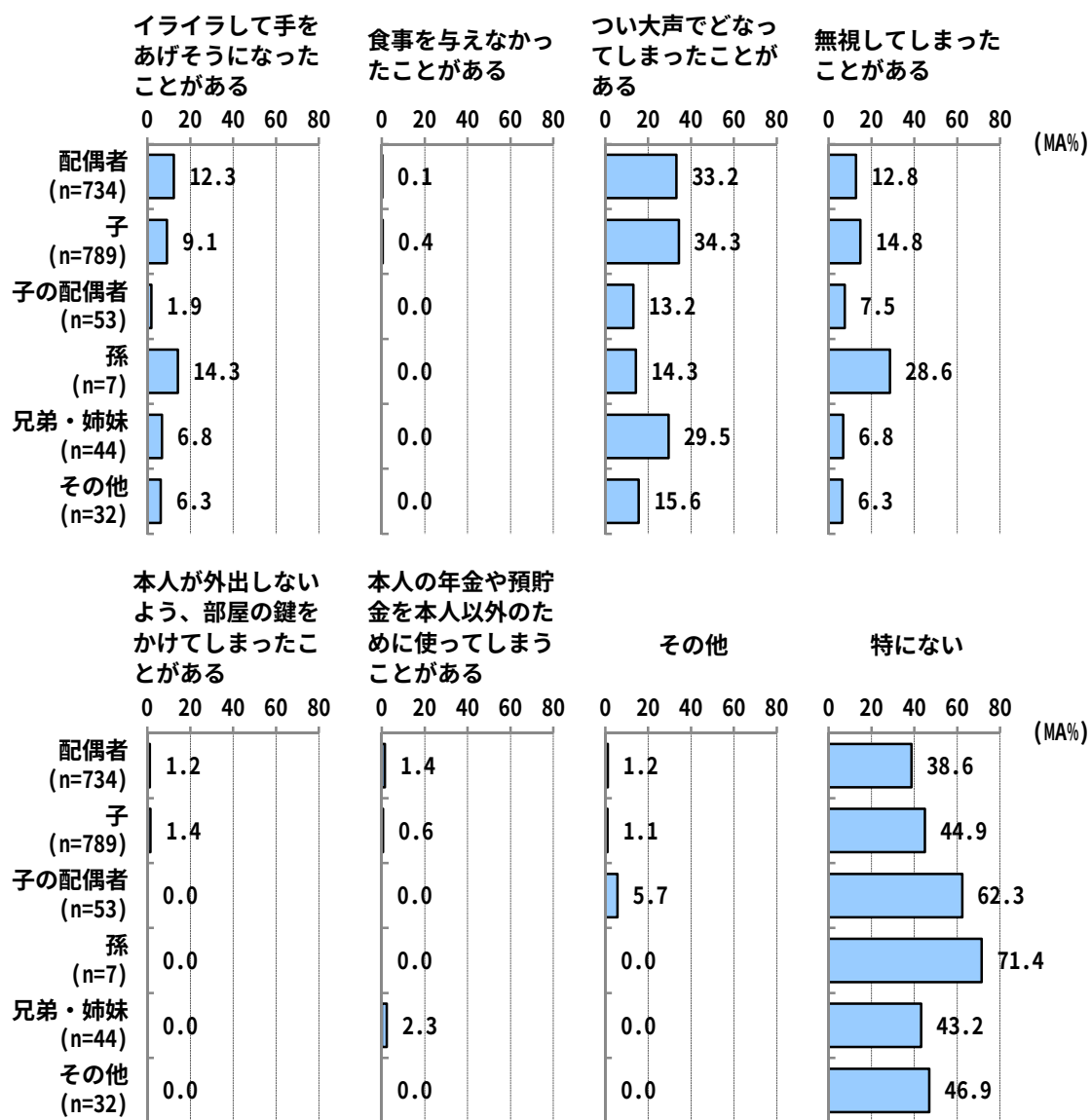
本人の要介護度別でみると、要支援1・2、要介護2以上は「特にない」が最も多い。要介護1では「つい大声でどなってしまったことがある」が45.1%で最も多く、要介護4は「特にない」と同率で「つい大声でどなってしまったことがある」が33.9%で最も多くなっている。(B図47[44]-a)

【B図47[44]-a 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人の要介護度別）】



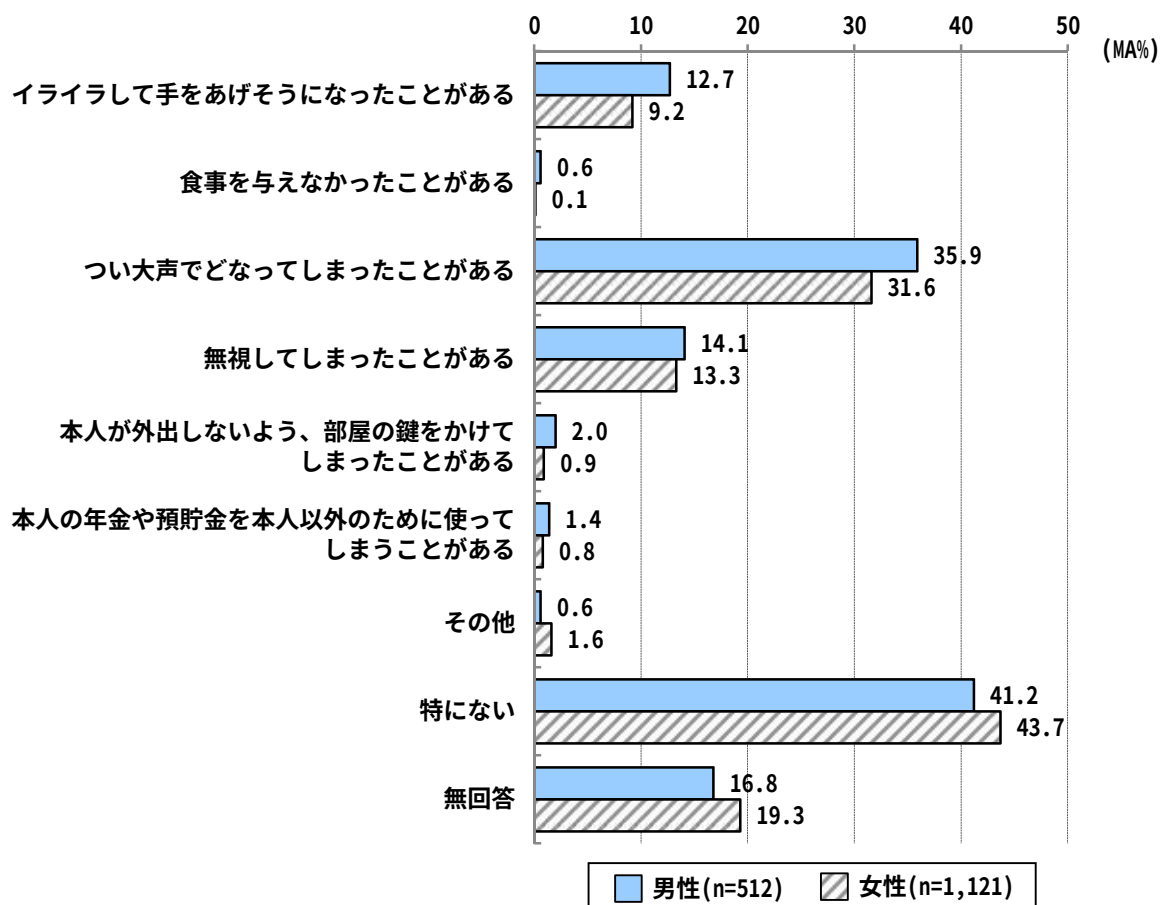
本人との関係別でみると、関係性にかかわらず「特にない」が最も多くなっている。(B図47[44]-b)

【B図47[44]-b 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人との関係別）】



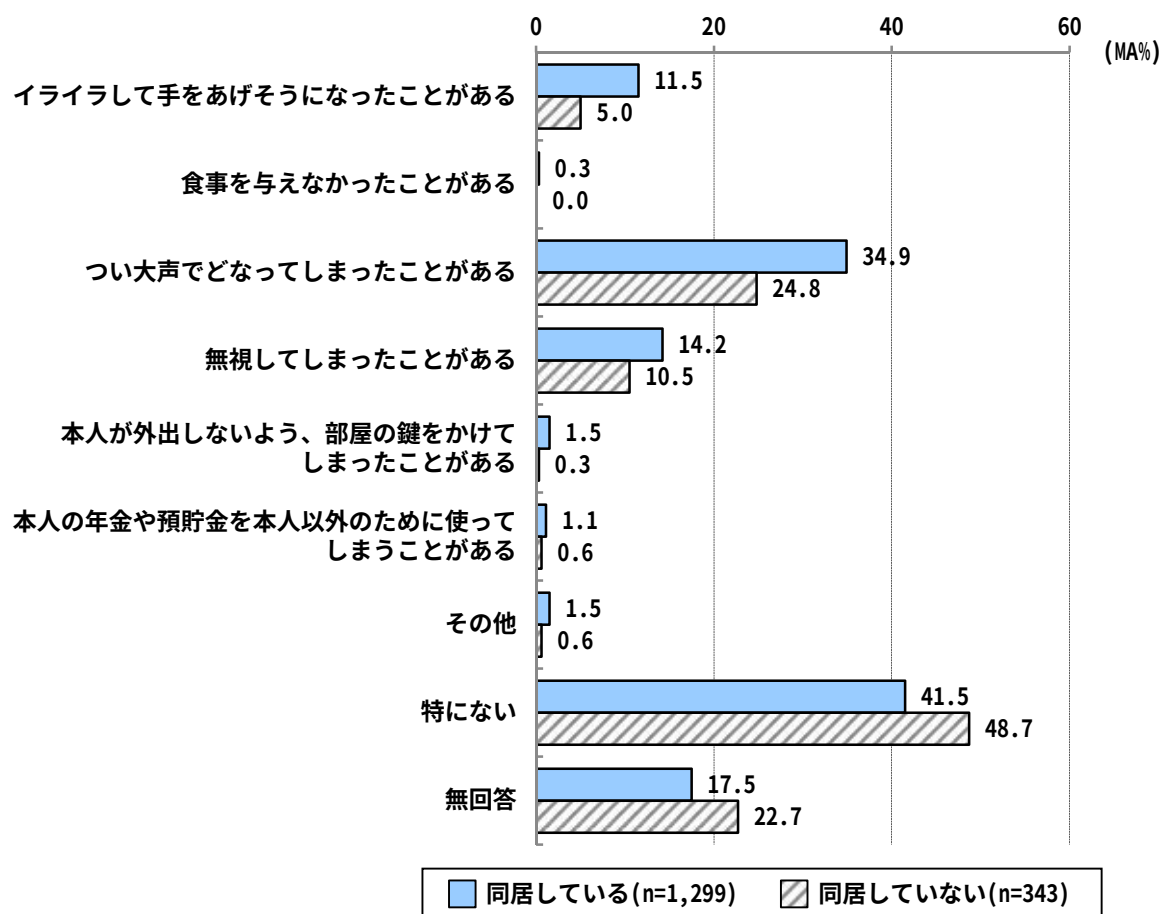
介護者の性別でみると、男女とも「特にない」が4割台で最も多くなっている。次いで男女とも「つい大声でどなってしまったことがある」が3割台で続いている。(B図47[44]-c)

【B図47[44]-c 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（介護者の性別）】



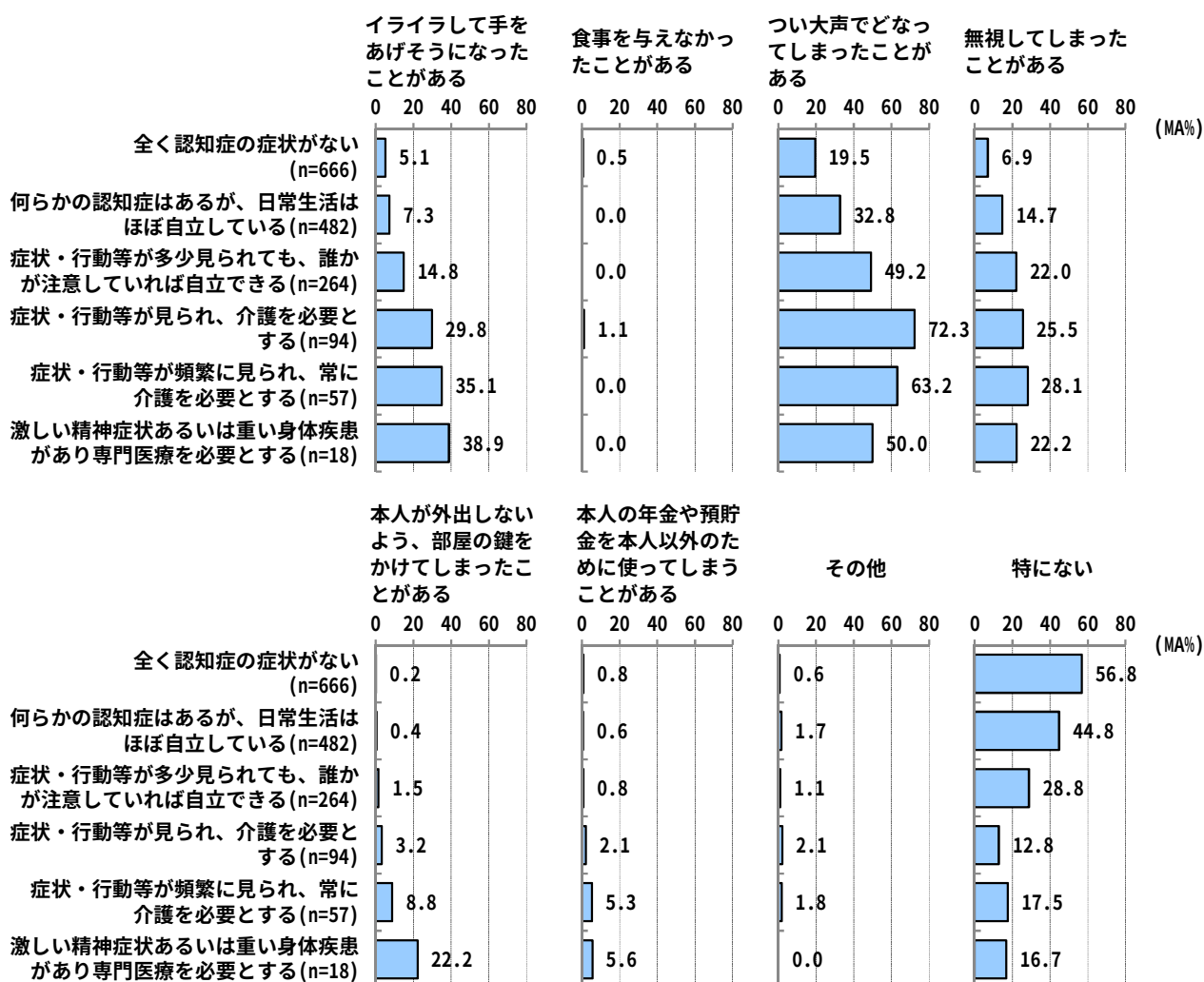
本人との同居の有無別でみると、同居の有無にかかわらず「特にない」が最も多く、次いで「つい大声でどなってしまったことがある」が続いており、虐待的行為の割合は、同居していない介護者に比べて高い割合になっている。（B図47[44]-d）

【B図47[44]-d 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人との同居の有無別）】



本人の認知症の程度別でみると、認知症を有しない人や何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している人では「特になし」が4～5割台で最も多くなっている。一方、認知症の症状が見られる人に対しては「つい大声でどなってしまったことがある」が最も多くなっている。「イライラして手をあげそうになったことがある」「無視してしまったことがある」「本人が外出しないよう、部屋の鍵をかけてしまったことがある」は認知症の重度化に伴って割合が高くなる傾向がみられる。(B図47[44]-e)

【B図47[44]-e 自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人の認知症の程度別）】



問47-1[44-1] 虐待的行為が緩和される支援（自由記述）

どのような支援があれば、問47のような状態が緩和されますか。ご意見などありましたら、次の欄に記入してください。

<A. サービス利用者>

161人の意見が挙がっている。

【主な意見】

- ・ショートステイに行ってほしい。
- ・自分の時間が持てるようなサービスがほしい。
- ・別居している家族の協力。
- ・介護者の悩みを聞いてもらえる場が必要である。
- ・介護者の要望に応じた掃除や家事をしてほしい。
- ・経済的支援。
- ・低料金の施設。

<B. サービス未利用者>

189人の意見が挙がっている。

【主な意見】

- ・通院・外出などの付き添い。
- ・要介護者本人が進んで行くデイサービス。
- ・自分ひとりの時間がとれたり、自分が信頼できる人との交流や外出。
- ・24時間、悩みや不安を聞いてくれる所や相談場所
- ・家族介護に対する経済的な支援。
- ・介護の手助けをしてくれる信頼できるサービスについての情報。

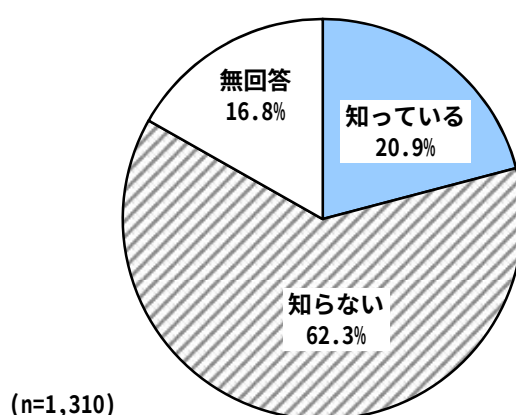
問48[45] 高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先の認知度

あなたは、あなたの周囲の高齢者が身近な人からの暴力や暴言、身体拘束や閉じ込め、介護や世話の放棄、年金の使い込みといった「高齢者虐待」を受けた場合の通報・相談先をご存じですか。(○はひとつ)

サービス利用者本人の介護者の、高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先の認知度については、「知っている」が20.9%、「知らない」が62.3%となっている。(A図48[45])

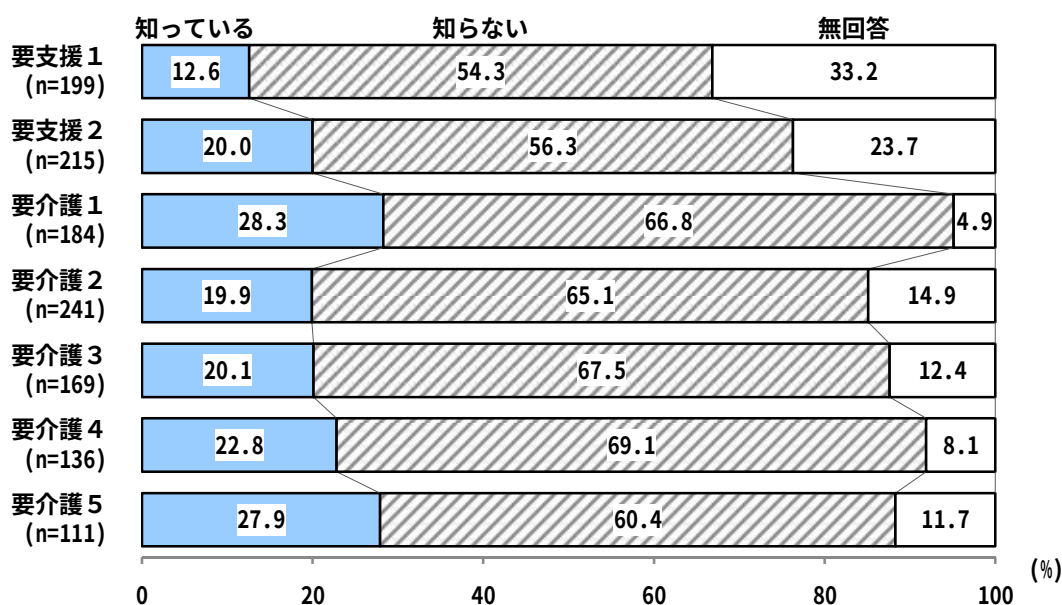
< A. サービス利用者 >

【A図48[45] 高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先の認知度】



本人の要介護度別でみると、「知っている」は要介護1が28.3%で最も高く、次いで要介護5が27.9%となっている。(A図48[45]-a)

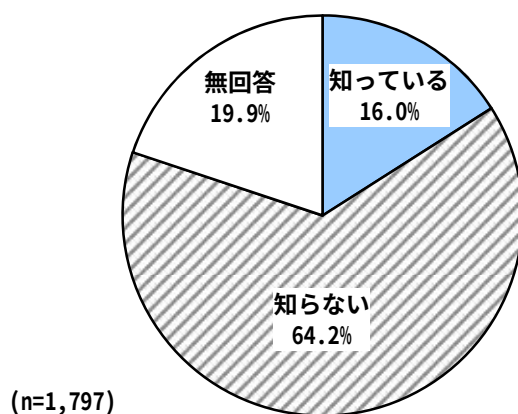
【A図48[45]-a 高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先の認知度（本人の要介護度別）】



サービス未利用者本人の介護者の、高齢者虐待に対する通報・相談先の認知度については、「知っている」が16.0%、「知らない」が64.2%となっている。(B図48[45])

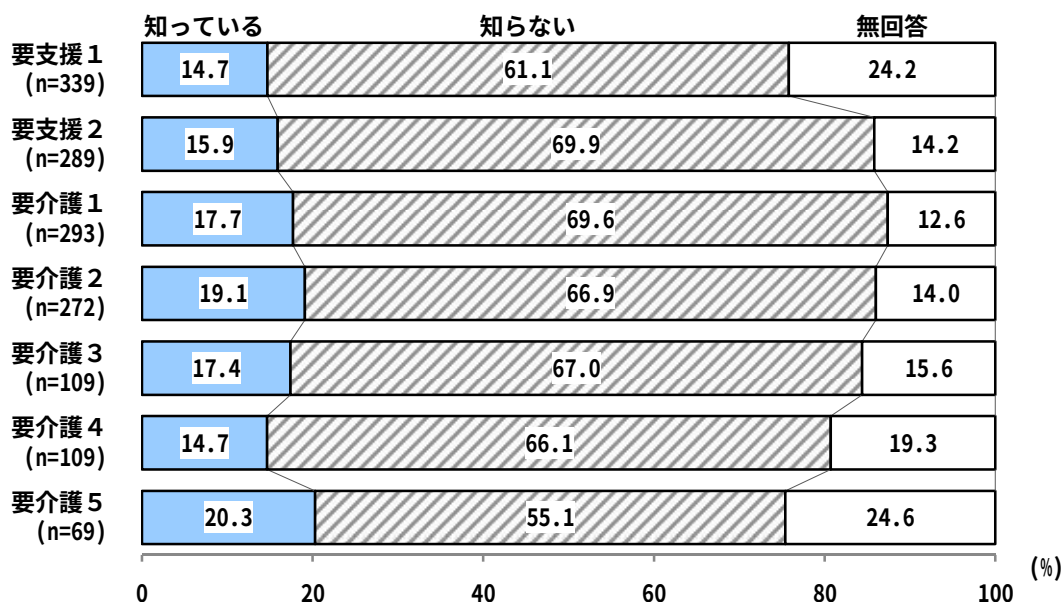
< B. サービス未利用者 >

【B図48[45] 高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先の認知度】



本人の要介護度別でみると、「知っている」は要介護5が20.3%で最も多く、次いで要介護2が19.1%となっている。(B図48[45]-a)

【B図48[45]-a 高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先の認知度（本人の要介護度別）】



問49 本人が介護保険サービスを利用することによる介護者の変化

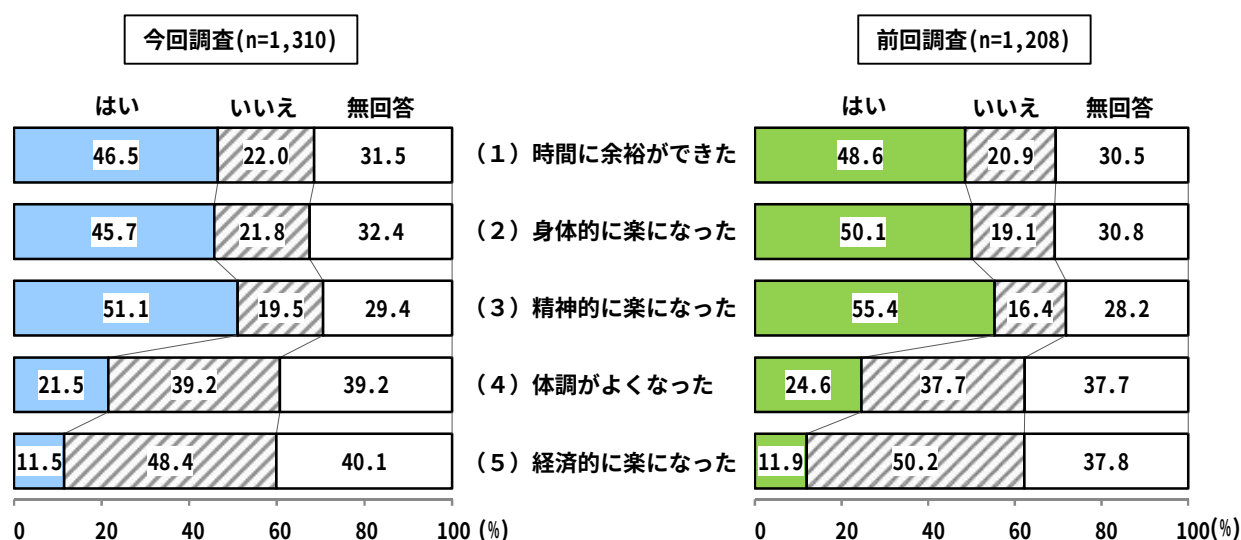
ご本人が介護保険サービスを利用することによって、あなたにどのような変化がありましたか。それぞれ「はい・いいえ」のどちらかに○をつけてください。

サービス利用者本人が介護保険サービスを利用することで、介護者にどのような変化があったかについては、「はい」が最も多いのは“(3) 精神的に楽になった”(51.1%)で、次いで“(1) 時間に余裕ができた”(46.5%)、“(2) 身体的に楽になった”(45.7%)が続く。一方、“(4) 体調がよくなった”と“(5) 経済的に楽になった”は「はい」より「いいえ」のほうが多くなっている。

前回調査と比較すると、「はい」の順位は多少違うものの概ね前回と同様の傾向となっている。(A図49)

< A. サービス利用者のみ >

【A図49 本人が介護保険サービスを利用することによる介護者の変化（経年比較）】



問50 本人が利用している介護保険サービスに対する介護者の満足度

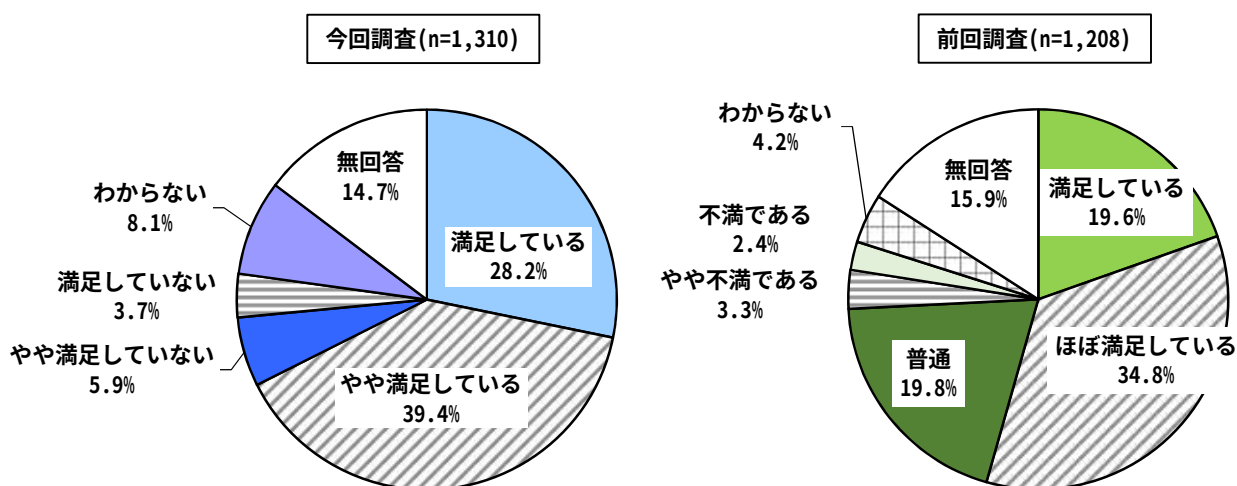
ご本人が利用している介護保険サービスについて、主な介護者の方は満足していますか。
(○はひとつ)

サービス利用者本人が利用している介護保険サービスに対する介護者の満足度については、「やや満足している」が39.4%で最も多く、次いで「満足している」が28.2%となっており、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた67.6%が満足と回答している。(A図50)

選択肢が異なるため一概には比較できないが、満足と回答した人は前回調査より13.2ポイント高くなっている。(A図50)

< A. サービス利用者のみ >

【A図50 本人が利用している介護保険サービスに対する介護者の満足度（経年比較）】



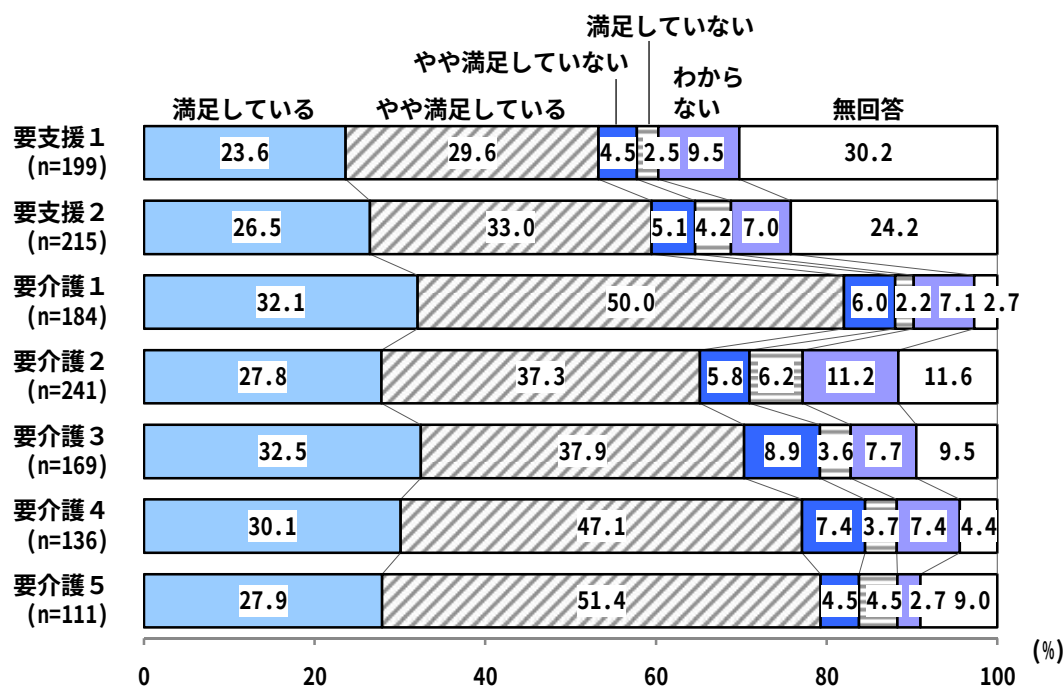
※前回調査の「普通」は、今回調査では設けていない。

※前回調査の「ほぼ満足している」は、今回調査では「やや満足している」に変更している。

※前回調査の「やや不満である」「不満である」は、今回調査では「やや満足していない」「満足していない」に変更している。

本人の要介護度別でみると、満足と回答した人の割合は要介護1が82.1%で最も高い。満足と回答した人は要介護度にかかわらず、いずれも過半数を占めており、特に要介護1以上の満足度は高くなっている。(A図50-a)

【A図50-a 本人が利用している介護保険サービスに対する介護者の満足度（本人の要介護度別）】



問50-1 本人利用の介護保険サービスに対する介護者の満足度の理由（自由記述）

上記を選択した具体的な理由等についてご記入ください。

< A. サービス利用者のみ >

357人の意見が挙がっている。

【主な意見】

< 満足理由 >

- ・困ったことがあれば、丁寧に相談にのってくれる。
- ・ケアマネジャーが補足してくれる。
- ・デイサービスに行くことが楽しみになっている様子であるため。
- ・デイサービスに行っている間は、徘徊を心配しなくて良いから。
- ・週一回だけだが、本人は2回行きたいと言っている。
- ・ヘルパーさんとの会話等、訪問を楽しみにしている。
- ・私自身の精神的、身体的負担が軽減され、本人は以前に比べ元気になっているから。
- ・時間的に余裕ができた事。
- ・入浴介助が助かっている。又、自宅でリハビリ、相談出来るので心強い。
- ・本人の気分転換になっている。

< 不満理由 >

- ・デイサービスの食事の充実と入浴時間の少し多めの確保。
- ・要介護者本人が嫌がるので長時間のデイサービスが利用できない。
- ・要介護者本人が楽しそうでない。
- ・本人は、ショートステイは出来たら行きたくないと言っている。
- ・経済的に家計を圧迫している。

問[46] 本人に対する介護保険サービスの利用意向

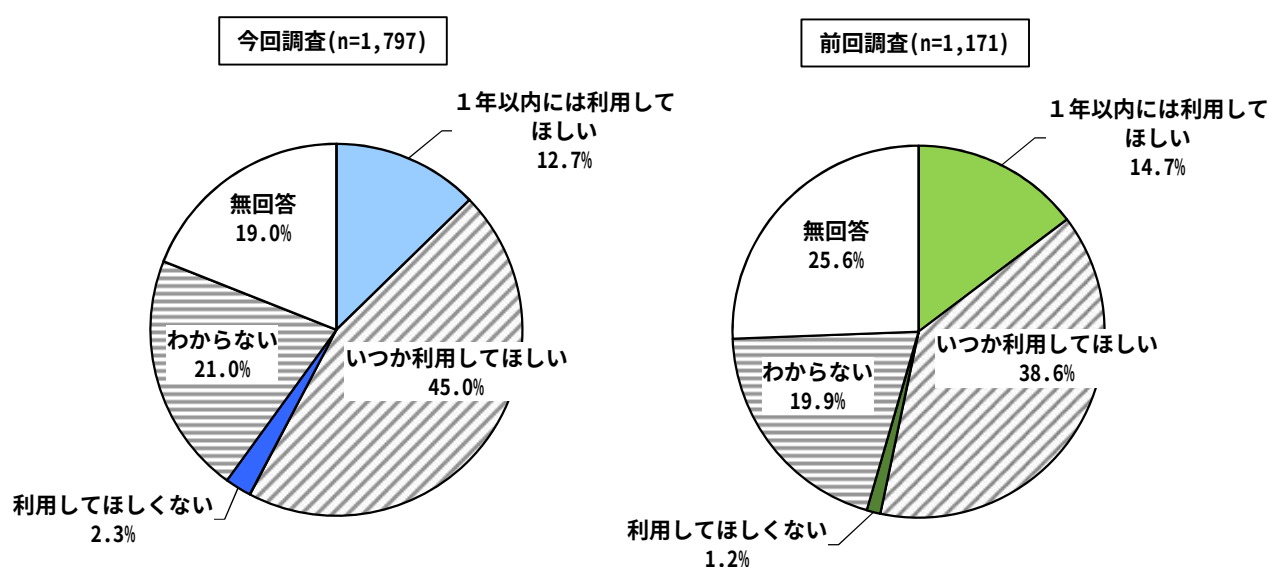
今後、ご本人に介護保険サービスの利用をしてほしいですか。（○はひとつ）

サービス未利用者本人に介護保険サービスを利用してほしいかについては、「いつか利用してほしい」が45.0%で最も多く、次いで「1年以内には利用してほしい」が12.7%、「利用してほしくない」が2.3%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。（B図[46]）

< B. サービス未利用者のみ >

【B図[46] 本人に対する介護保険サービスの利用意向（経年比較）】



問[47] 介護保険サービスを利用しようと思う本人の状態

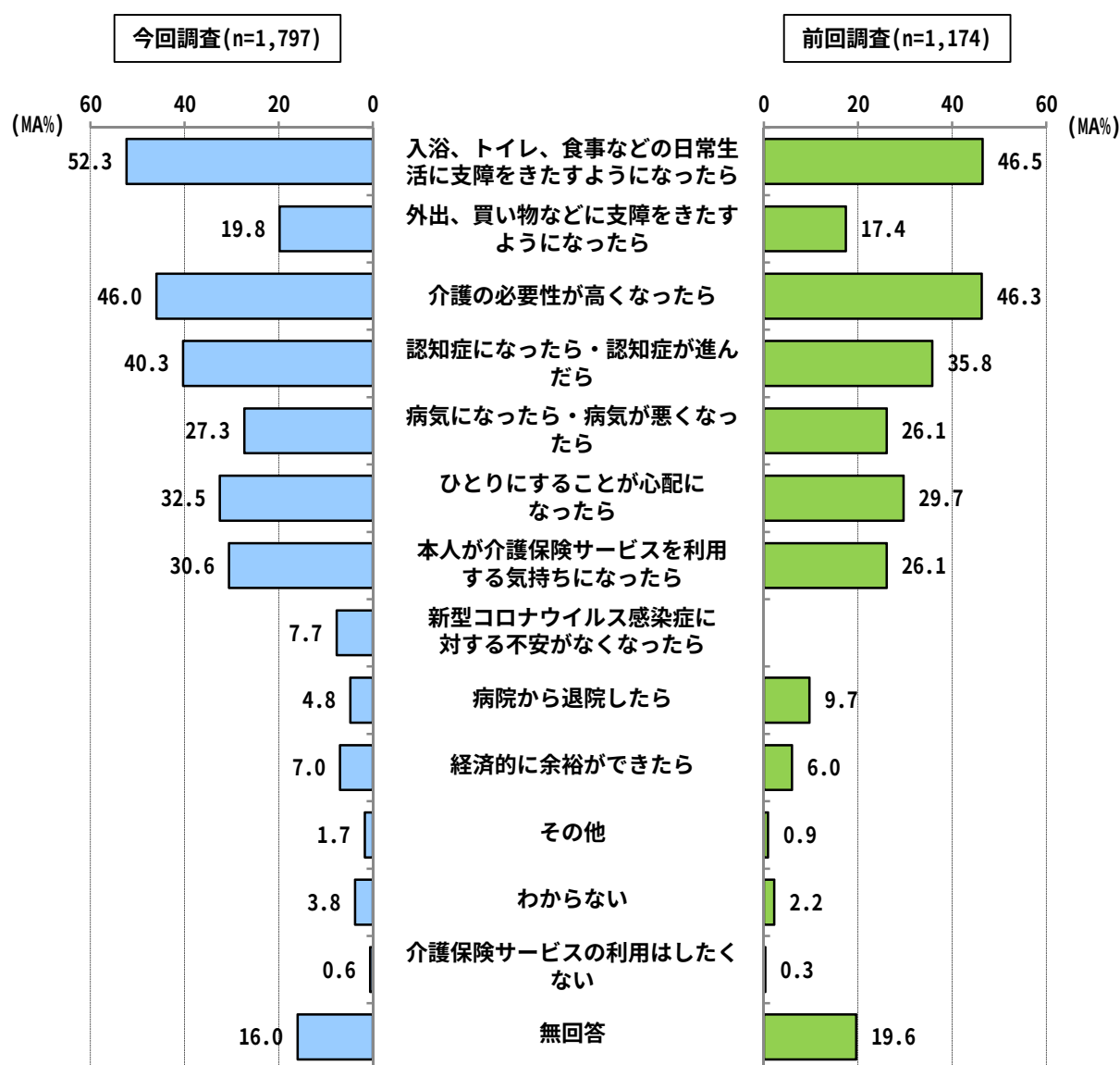
ご本人は、現在、介護保険サービスを利用していませんが、ご本人がどのような状態になれば介護保険サービスを利用しますか。(〇はいくつでも)

介護保険サービスを利用しようと思うサービス未利用者本人の状態については、「入浴、トイレ、食事などの日常生活に支障をきたすようになったら」が52.3%で最も多く、次いで「介護の必要性が高くなったら」が46.0%、「認知症になったら・認知症が進んだら」が40.3%となっている。

前回調査と比較すると、「入浴、トイレ、食事などの日常生活に支障をきたすようになったら」の割合が5.8ポイント高くなっている。(B図[47])

< B. サービス未利用者のみ >

【B図[47] 介護保険サービスを利用しようと思う本人の状態（経年比較）】



※「新型コロナウイルス感染症に対する不安がなくなったら」は、今回調査の新規項目である。

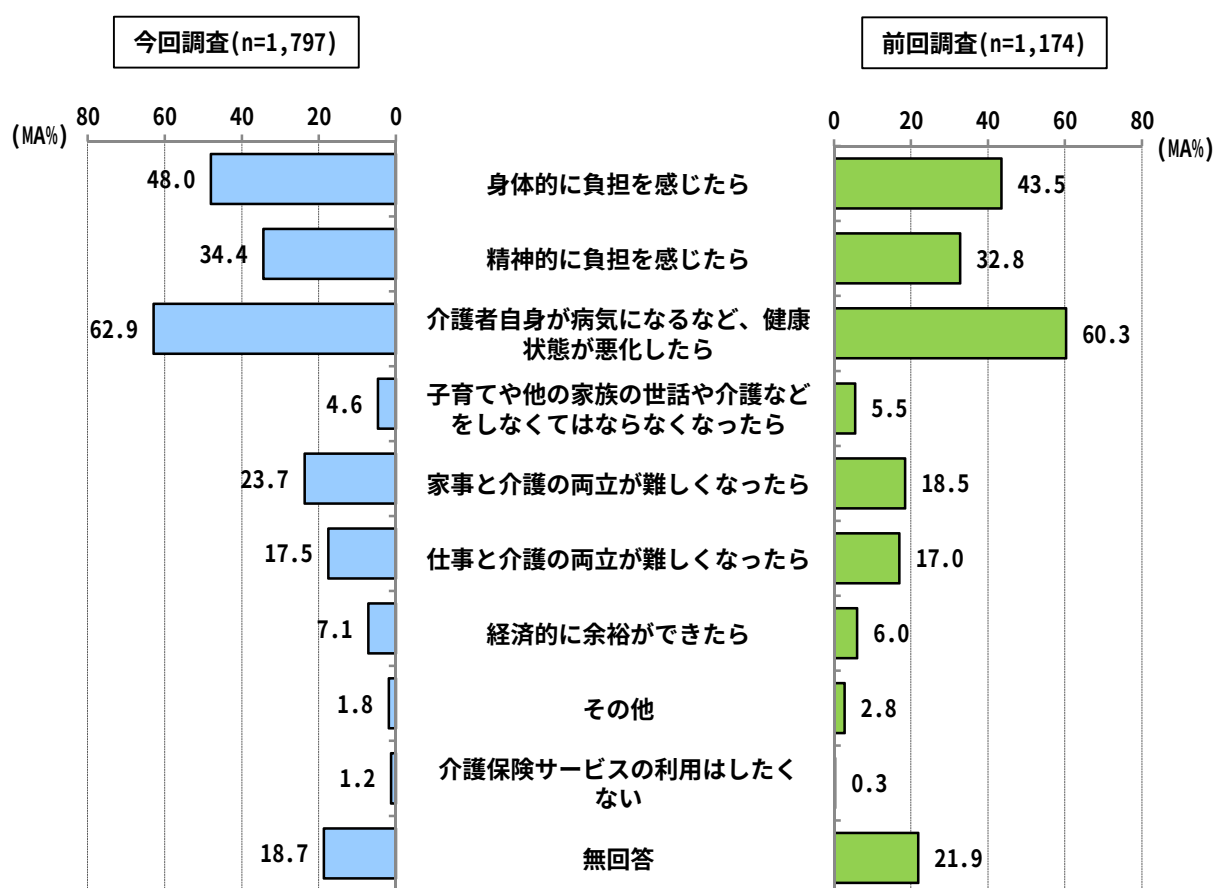
問[48] 介護保険サービスを利用しようと思う介護者の状態

ご本人は、現在、介護保険サービスを利用していませんが、あなたがどのような状態になれば、介護保険サービスを利用しますか。(〇はいくつでも)

サービス未利用者本人に介護保険サービスを利用しようと思う介護者の状態については、「介護者自身が病気になるなど、健康状態が悪化したら」が62.9%で最も多く、次いで「身体的に負担を感じたら」が48.0%、「精神的に負担を感じたら」が34.4%となっている。
前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図[48])

< B. サービス未利用者のみ >

【B図[48] 介護保険サービスを利用しようと思う介護者の状態（経年比較）】



問51[49] 自宅での介護で重要なこと

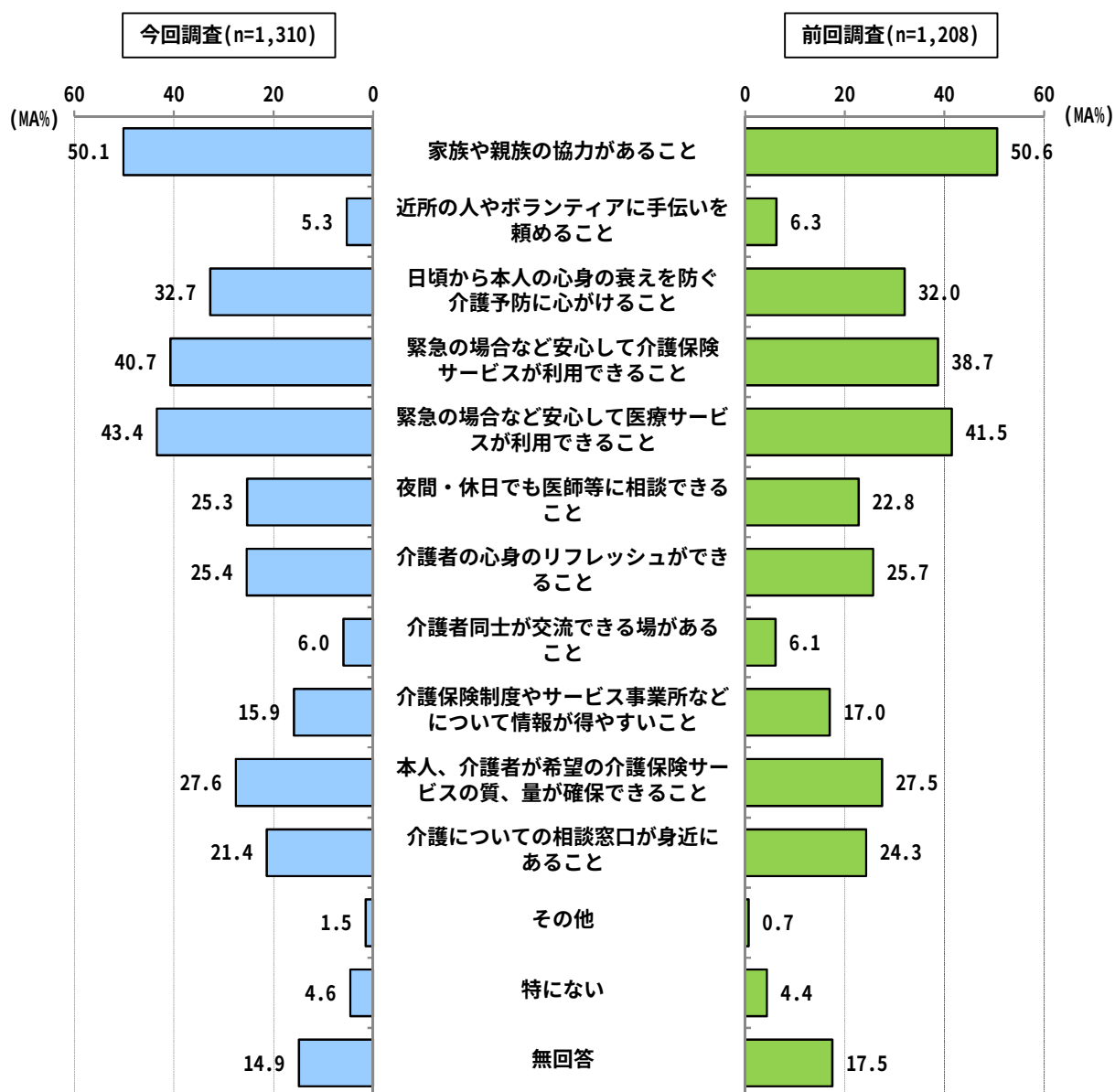
あなたにとって、自宅での介護にあたって重要なことは何ですか。(○はいくつでも)

自宅でのサービス利用者の介護で重要なことについては、「家族や親族の協力があること」が50.1%で最も多く、次いで「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」が43.4%、「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」が40.7%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図51[49])

< A. サービス利用者 >

【A図51[49] 自宅での介護で重要なこと（経年比較）】

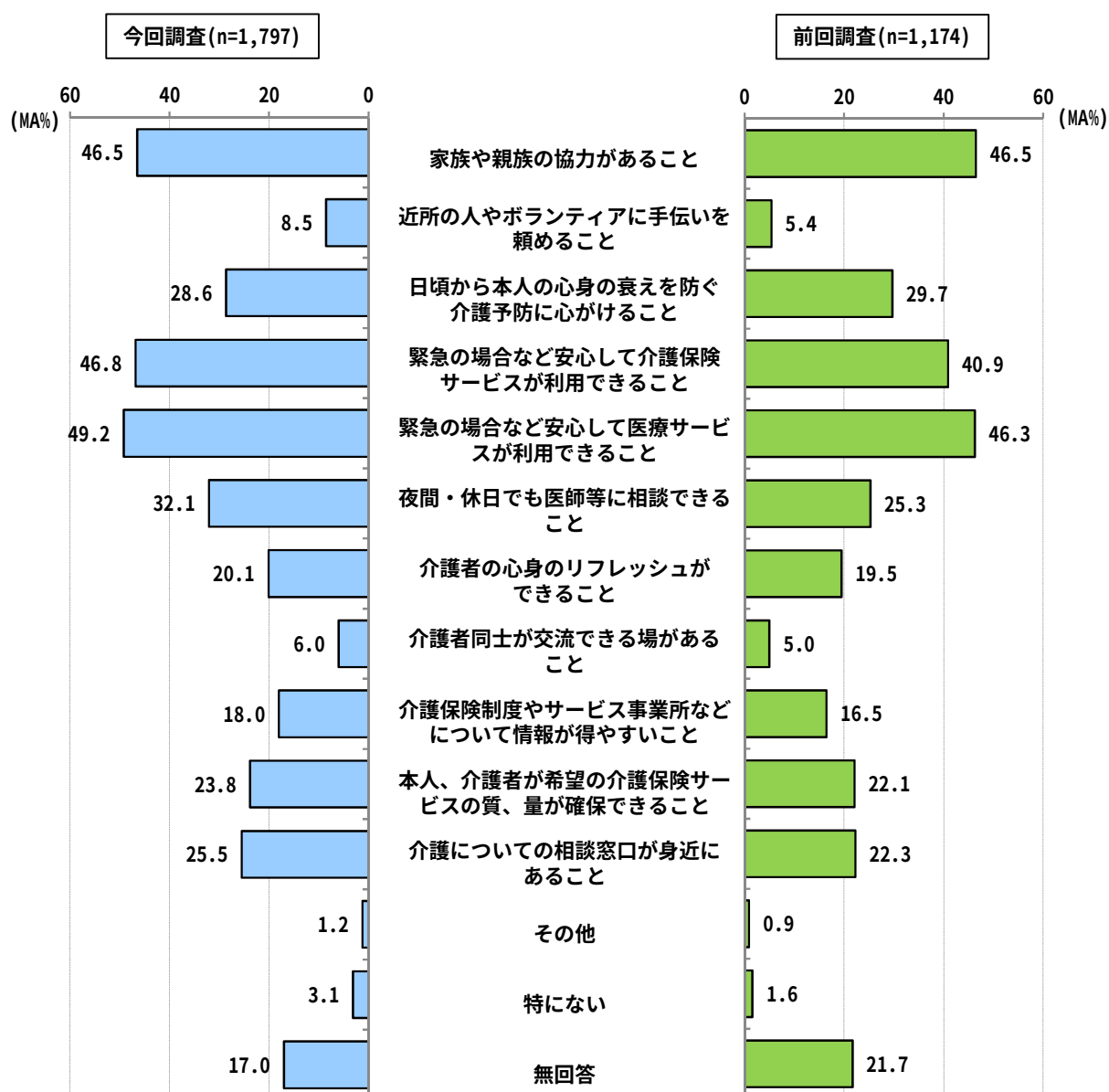


自宅でのサービス未利用者の介護で重要なことについては、「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」が49.2%で最も多く、次いで「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」が46.8%、「家族や親族の協力があること」が46.5%となっている。

前回調査と比較すると、「夜間・休日でも医師等に相談できること」の割合が6.8ポイント、「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」の割合が5.9ポイントそれぞれ高くなっている。(B図51[49])

< B. サービス未利用者 >

【B図51[49] 自宅での介護で重要なこと（経年比較）】



（４）介護離職に関する問題

問52[50] 介護者の就業状況

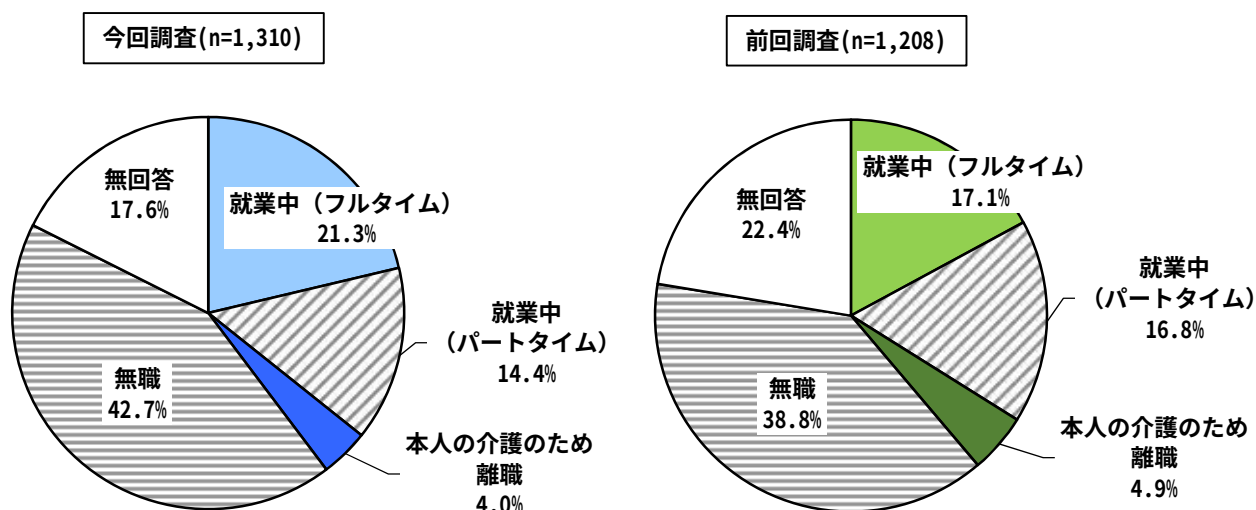
あなたの現在の就業状況についておたずねします。（○はひとつ）

サービス利用者の介護者の就業状況については、「無職」が42.7%で最も多くなっている。これに次いで「就業中（フルタイム）」が21.3%、「就業中（パートタイム）」が14.4%となっており、両者を合わせた就業者の割合は35.7%を占めている。また、「本人の介護のため離職」は4.0%となっている。

前回調査と比較すると、「就業中（フルタイム）」の割合が4.2ポイント高くなっている。（A図52[50]）

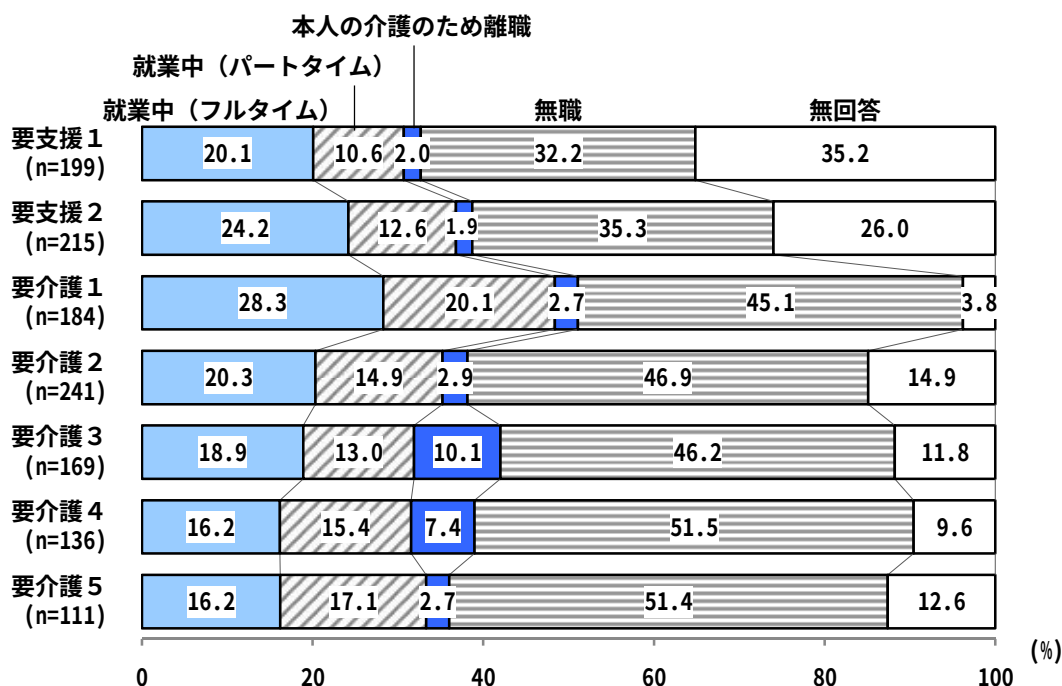
< A．サービス利用者 >

【A図52[50] 介護者の就業状況（経年比較）】



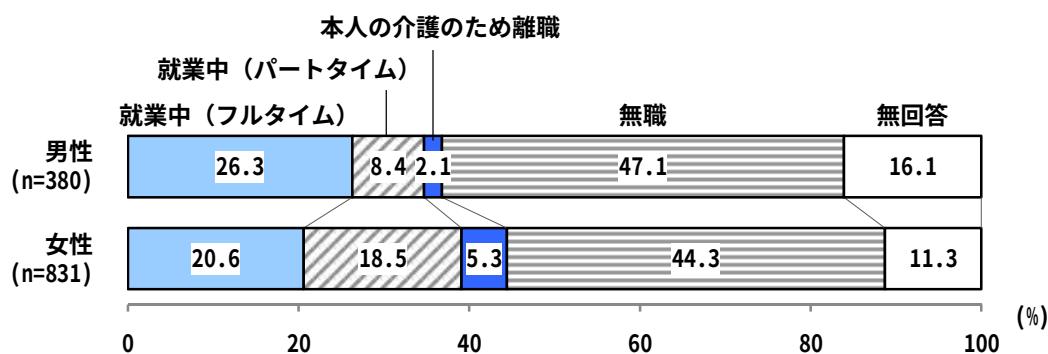
本人の要介護度別でみると、本人の要介護度にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。就業している介護者の割合では、要介護1が48.4%で最も高く、それ以外の要介護度ではいずれも3割台となっている。(A図52[50]-a)

【A図52[50]-a 介護者の就業状況（本人の要介護度別）】



介護者の性別でみると、男女とも「無職」が4割台で最も多くなっている。就業している介護者では、男女とも3割台を占めているが、男性（34.7%）より女性（39.1%）のほうが4.4ポイント高い割合になっている。(A図52[50]-b)

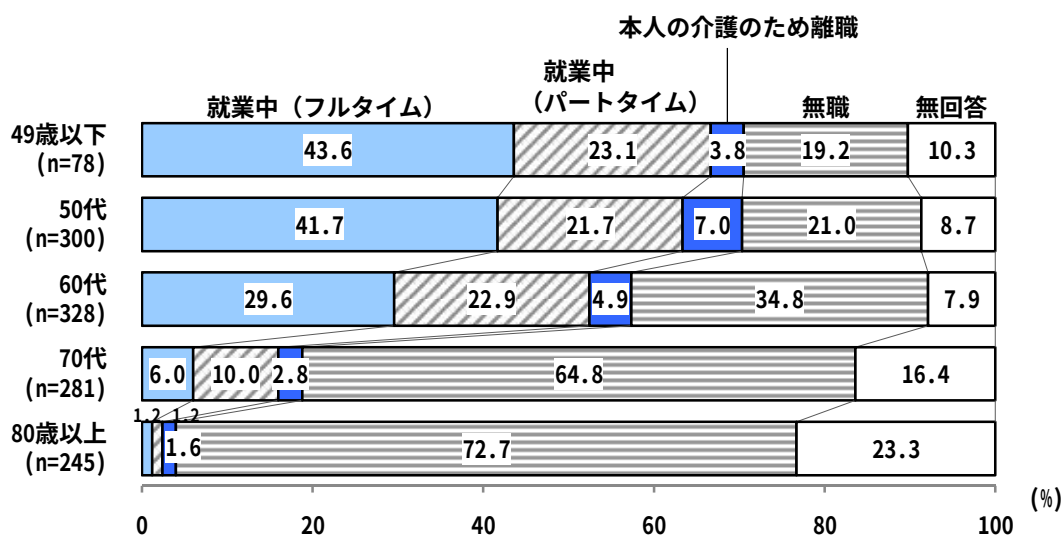
【A図52[50]-b 介護者の就業状況（介護者の性別）】



介護者の年齢別でみると、50代以下の介護者は「就業中（フルタイム）」が4割台を占め、就業している介護者の割合が6割台となっている。

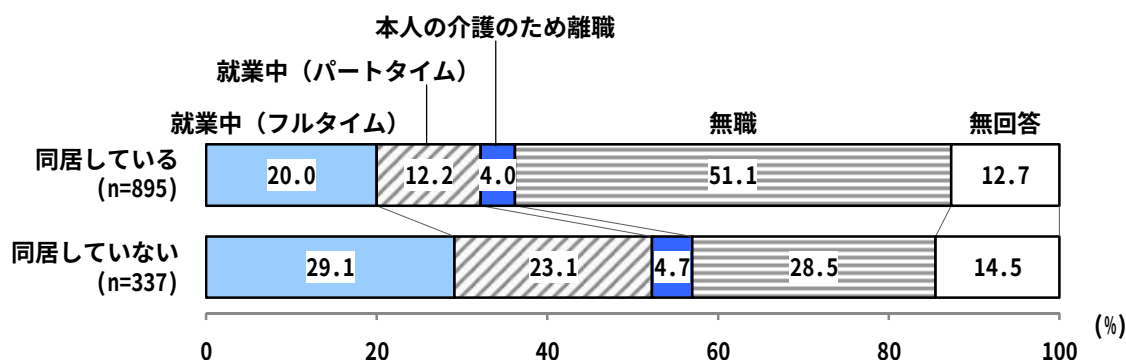
60代以上の介護者は「無職」が最も多く、高齢になるほど割合が高くなっている。（A図52[50]-c）

【A図52[50]-c 介護者の就業状況（介護者の年齢別）】



本人との同居の有無別でみると、同居している介護者は「無職」が51.1%で最も多く、就業している割合は32.2%となっている。同居していない介護者は「就業中（フルタイム）」が29.1%で最も多く、就業している割合は52.2%となっている。（A図52[50]-d）

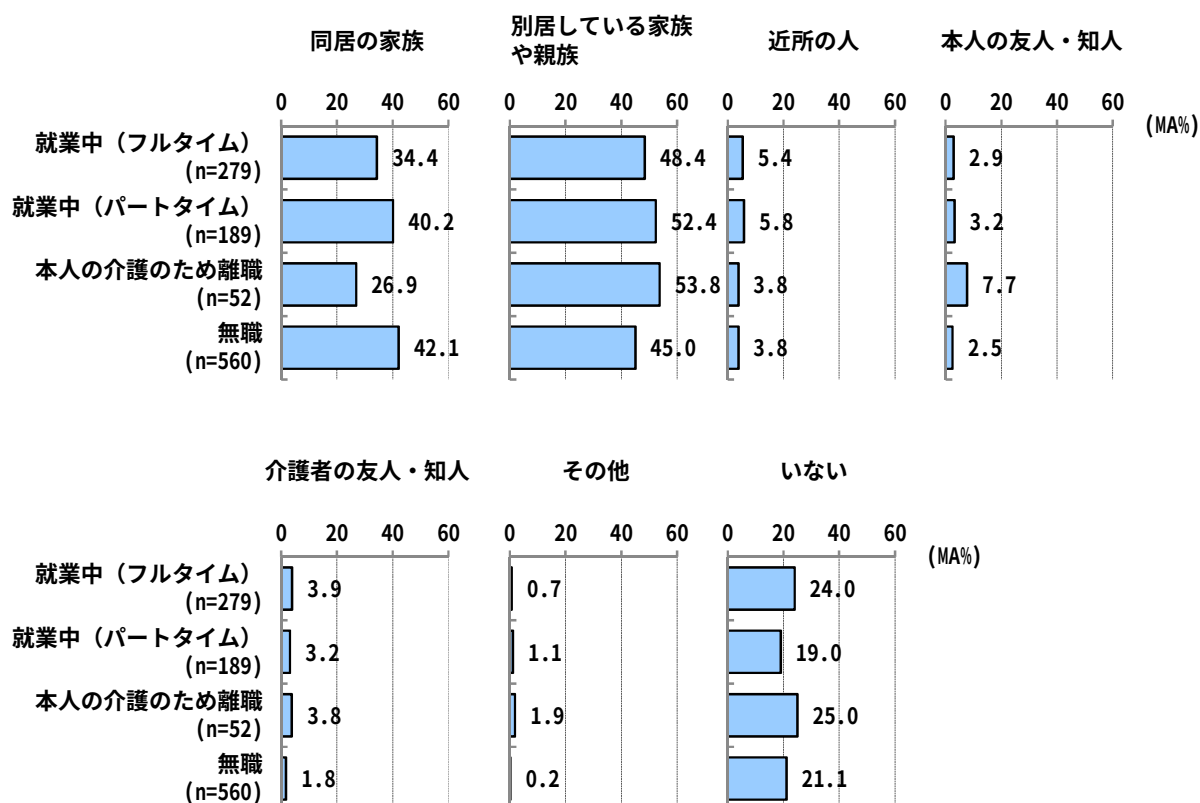
【A図52[50]-d 介護者の就業状況（本人との同居の有無別）】



【介護者調査 編】

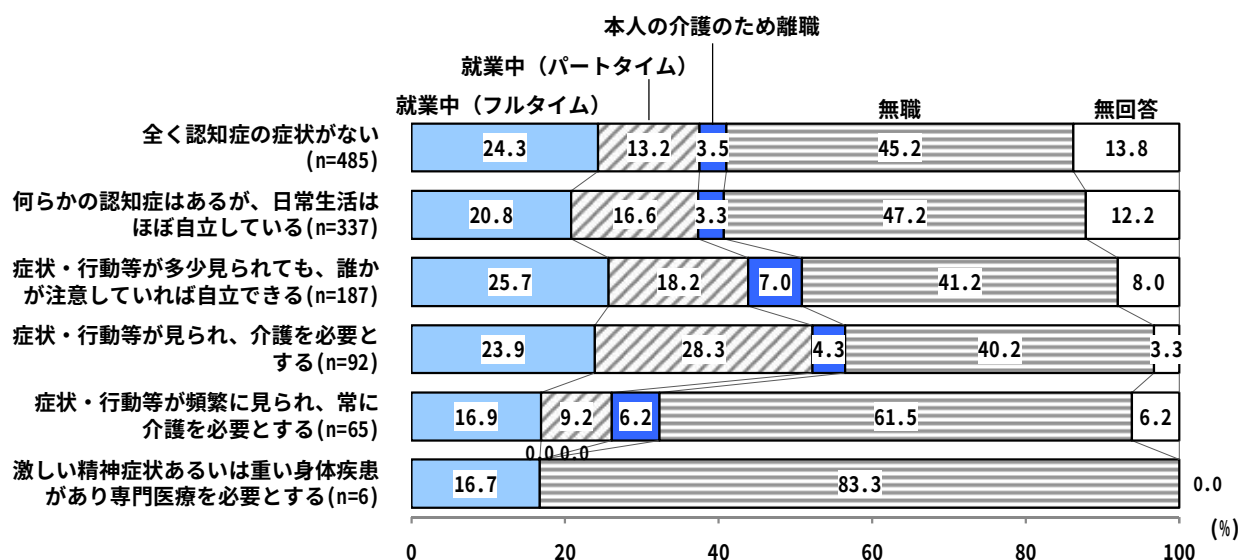
介護を手助けしてくれる人の有無を、介護者の就業状況別でみると、就業状況にかかわらず「別居している家族や親族」が最も多く、4～5割台を占めている。(A図52[50]-e)

【A図52[50]-e 介護を手助けしてくれる人の有無（介護者の就業状況別）】



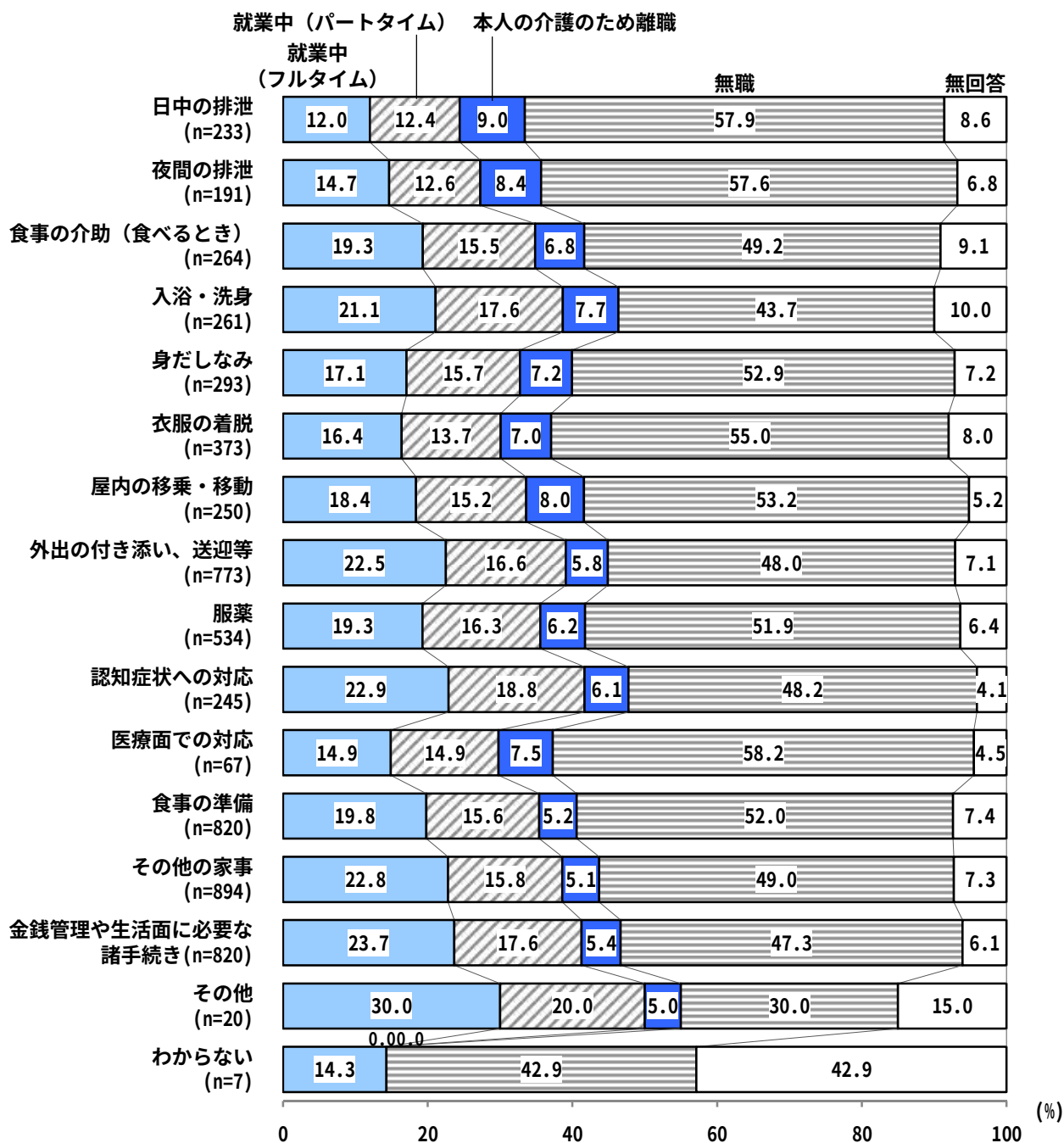
本人の認知症の程度別でみると、認知症の程度にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。(A図52[50]-f)

【A図52[50]-f 介護者の就業状況（本人の認知症の程度別）】



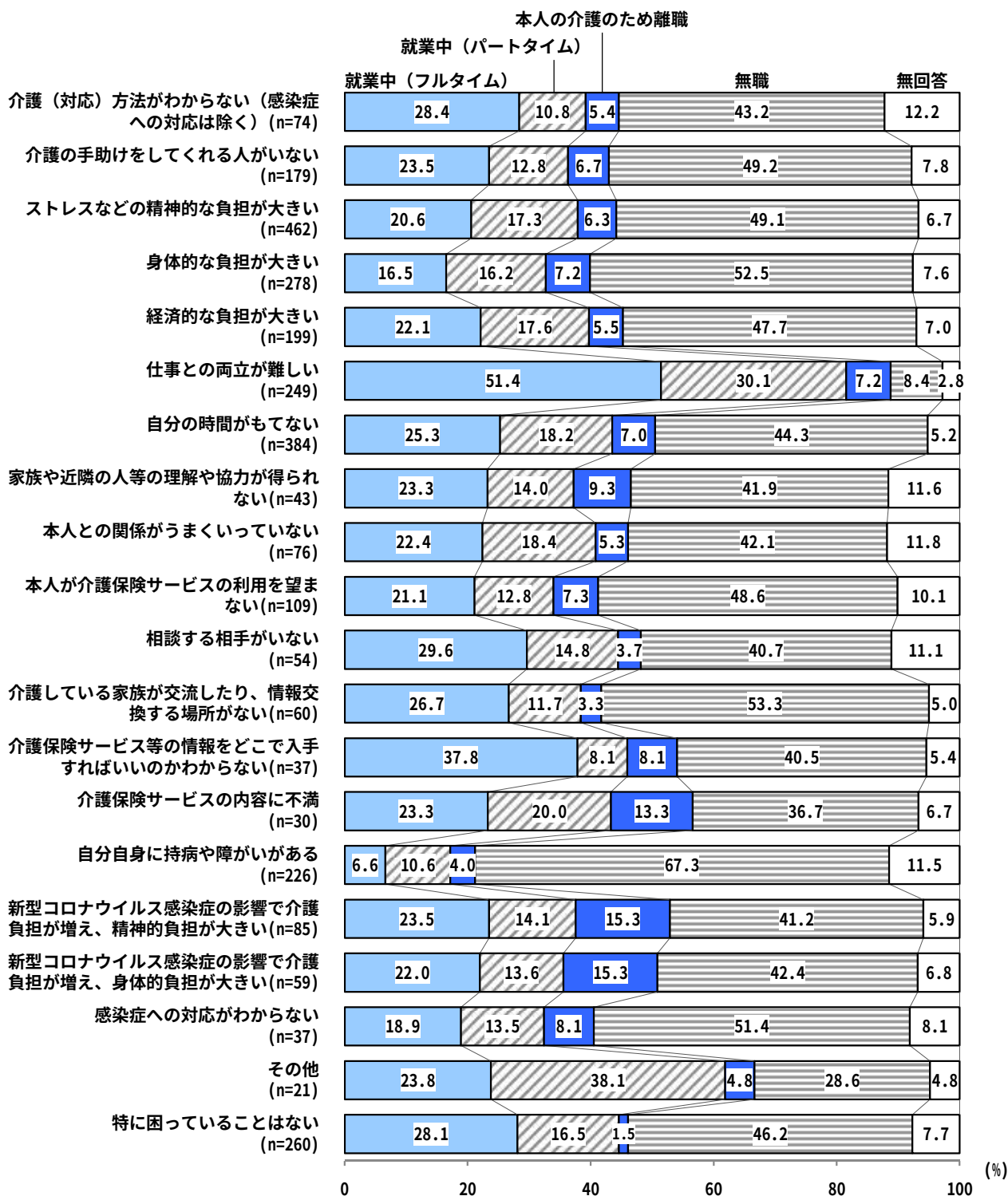
本人に行っている介護内容別でみると、介護内容にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。「本人の介護のため離職」では、“日中の排泄”の介助をしている介護者が9.0%で最も高く、次いで“夜間の排泄”の介助をしている介護者が8.4%、“屋内の移乗・移動”の介助をしている介護者が8.0%となっている。(A図52[50]-g)

【A図52[50]-g 介護者の就業状況（本人に行っている介護内容別）】



自宅での介護で困っていること別でみると、「無職」が高いのは、“自分自身に持病や障がいがある”介護者が67.3%で、“介護している家族が交流したり、情報交換する場所がない”、“身体的な負担が大きい”、“感染症への対応がわからない”介護者が5割台となっている。就業している介護者は“仕事との両立が難しい”介護者の割合が8割を占めて高くなっている。(A図52[50]-h)

【A図52[50]-h 介護者の就業状況（自宅での介護で困っていること別）】

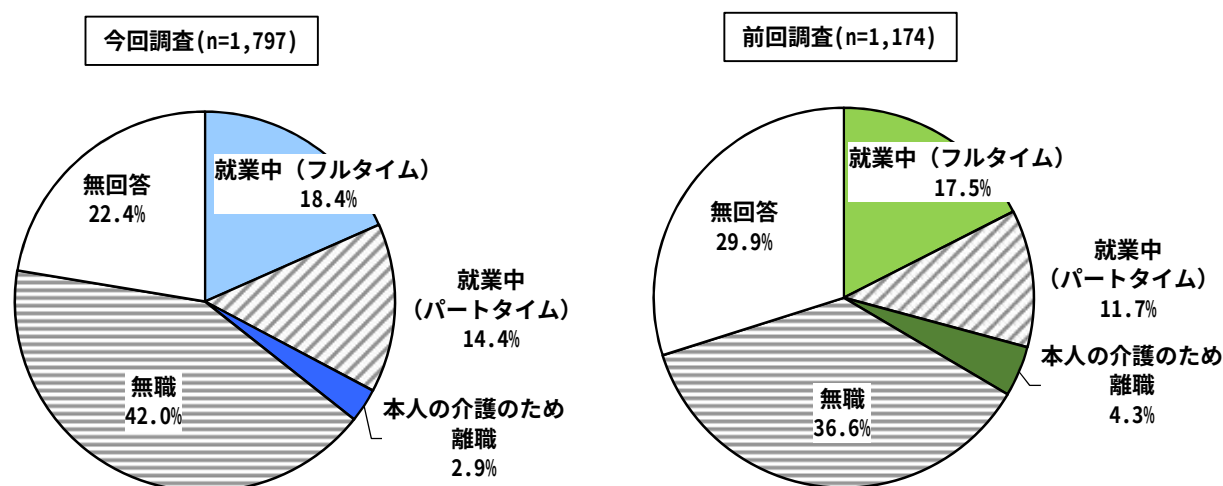


サービス未利用者の介護者の就業状況については、「無職」が42.0%で最も多く、次いで「就業者（フルタイム）」が18.4%、「就業者（パートタイム）」が14.4%となっている。また、「本人の介護のため離職」は2.9%となっている。

前回調査と比較すると、「無職」が最も多い傾向は変わらない。（B図52[50]）

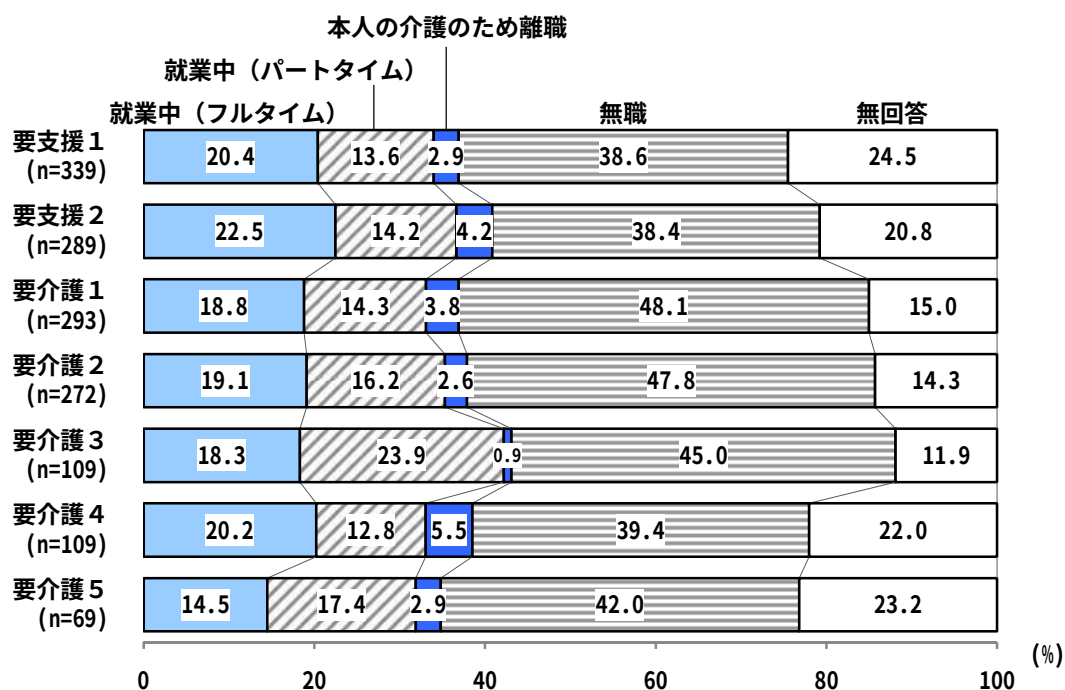
< B. サービス未利用者 >

【B図52[50] 介護者の就業状況（経年比較）】



本人の要介護度別でみると、本人の要介護度にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。就業している介護者の割合では、要介護3を介護している人で4割台となっている。また、要介護4では「本人の介護のため離職」が5.5%と他の要介護度に比べて高い割合になっている。（B図52[50]-a）

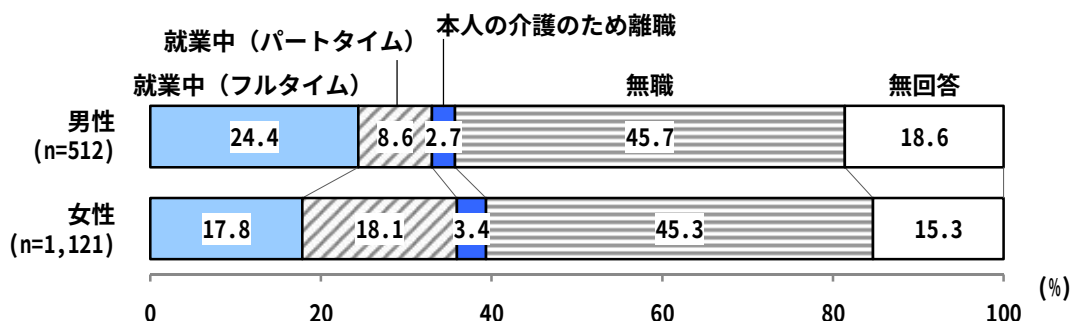
【B図52[50]-a 介護者の就業状況（本人の要介護度別）】



【介護者調査 編】

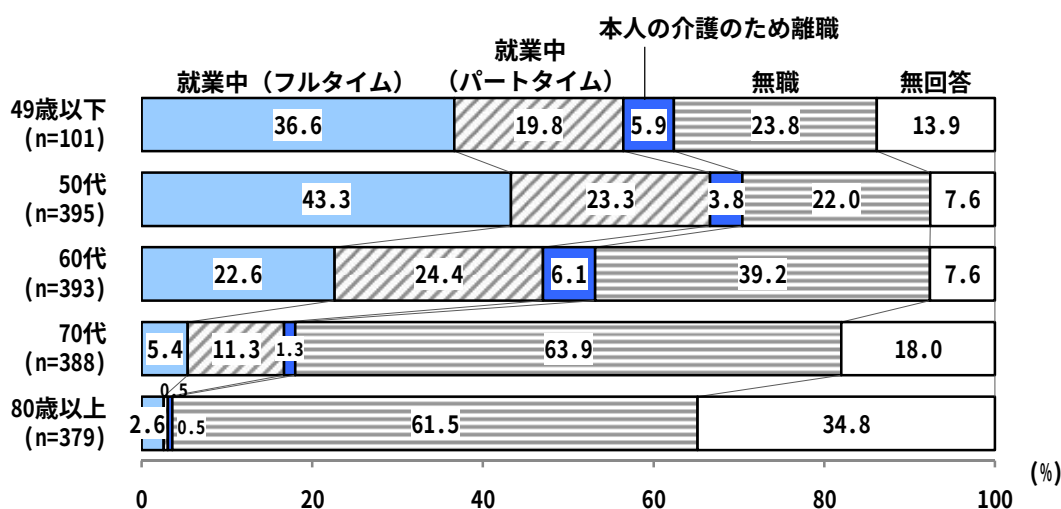
介護者の性別でみると、男女とも「無職」が4割台で最も多くなっている。就業している介護者では、男女とも3割台を占めているが、男性（33.0%）より女性（35.9%）のほうが2.9ポイント高い割合になっている。（B図52[50]-b）

【B図52[50]-b 介護者の就業状況（介護者の性別）】



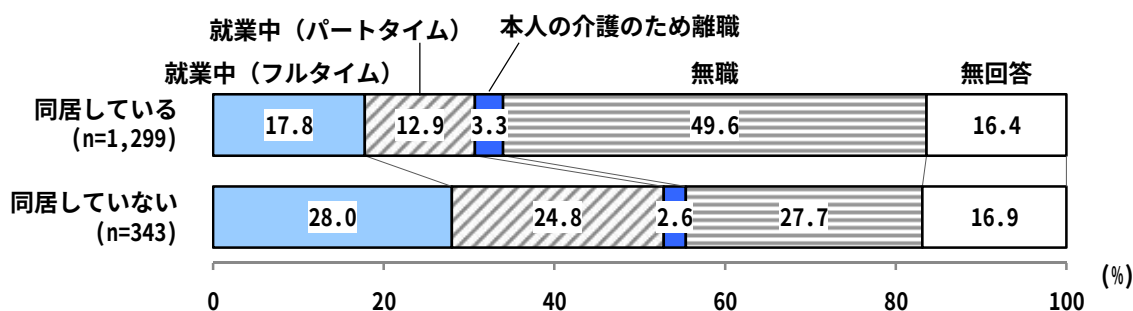
介護者の年齢別でみると、50代以下の介護者は「就業中（フルタイム）」が4割前後を占め、就業している介護者の割合が過半数を占めている。60代以上の介護者は「無職」が最も多く、高齢になるほど割合が高くなっている。（B図52[50]-c）

【B図52[50]-c 介護者の就業状況（介護者の年齢別）】



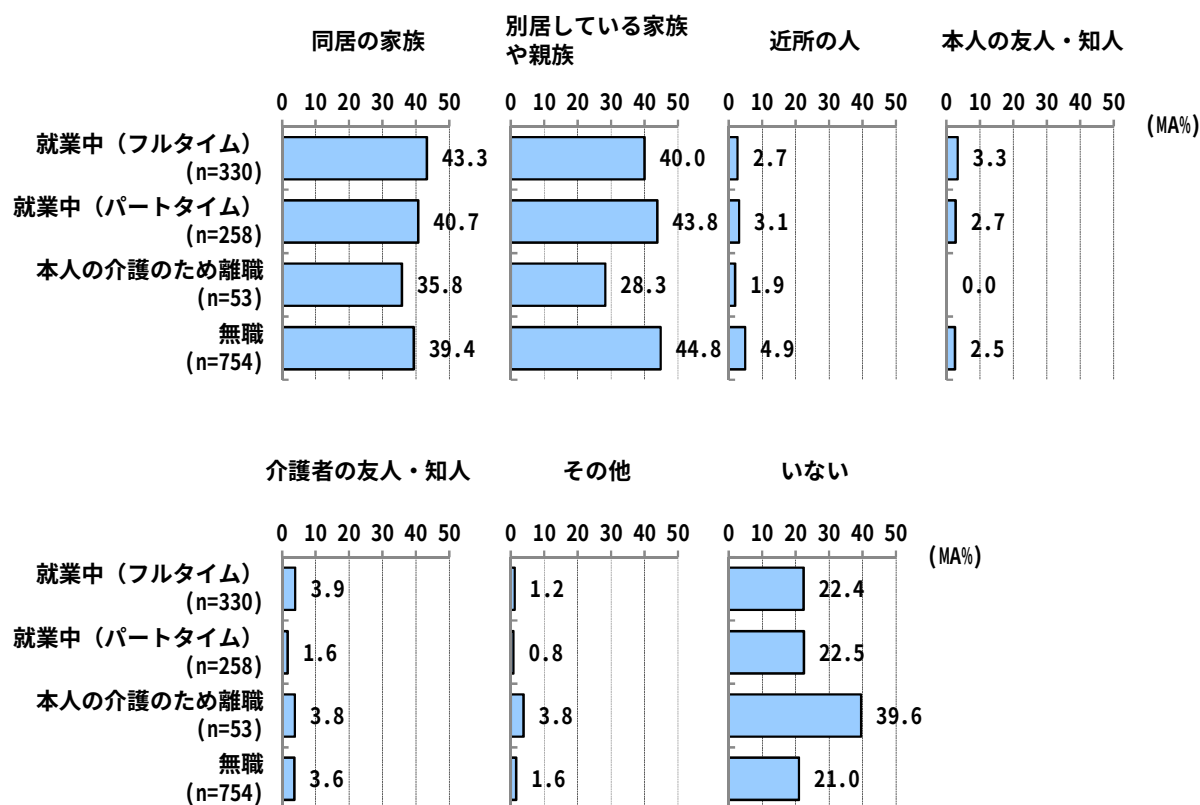
本人との同居の有無別でみると、同居している介護者は「無職」が49.6%で最も多く、就業している割合は30.7%となっている。同居していない介護者は「就業中（フルタイム）」が28.0%で最も多く、就業している割合は52.8%となっている。（B図52[50]-d）

【B図52[50]-d 介護者の就業状況（本人との同居の有無別）】



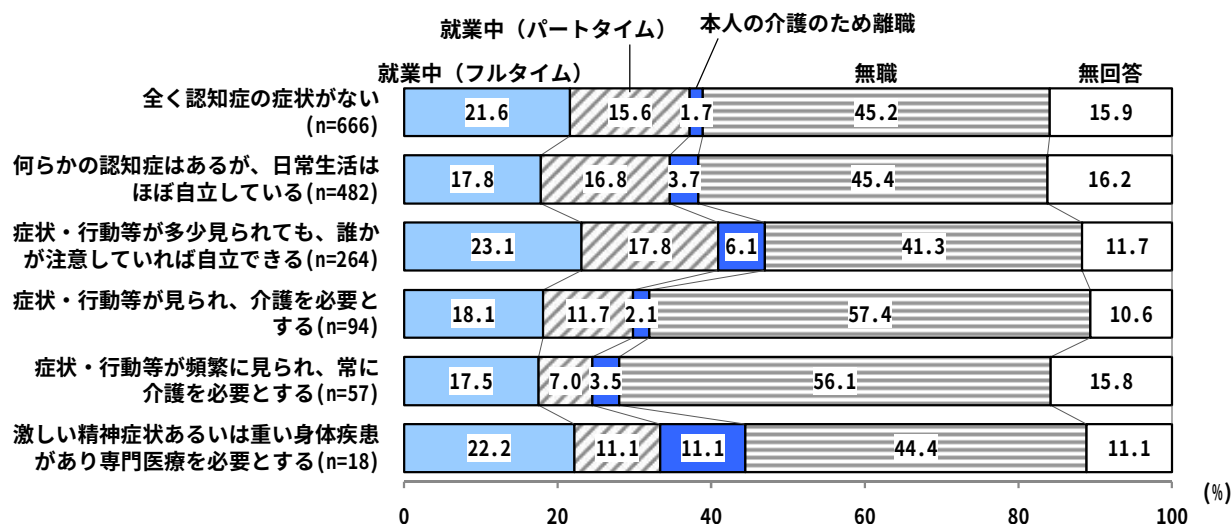
介護を手助けしてくれる人の有無を、介護者の就業状況別でみると、フルタイムで就業している介護者は「同居の家族」が43.3%で最も多く、パートタイムで就業している人や無職の人では「別居している家族や親族」が最も多く、4割台を占めている。一方、離職した人では「いない」が39.6%で最も多くなっている。(B図52[50]-e)

【B図52[50]-e 介護を手助けしてくれる人の有無（介護者の就業状況別）】



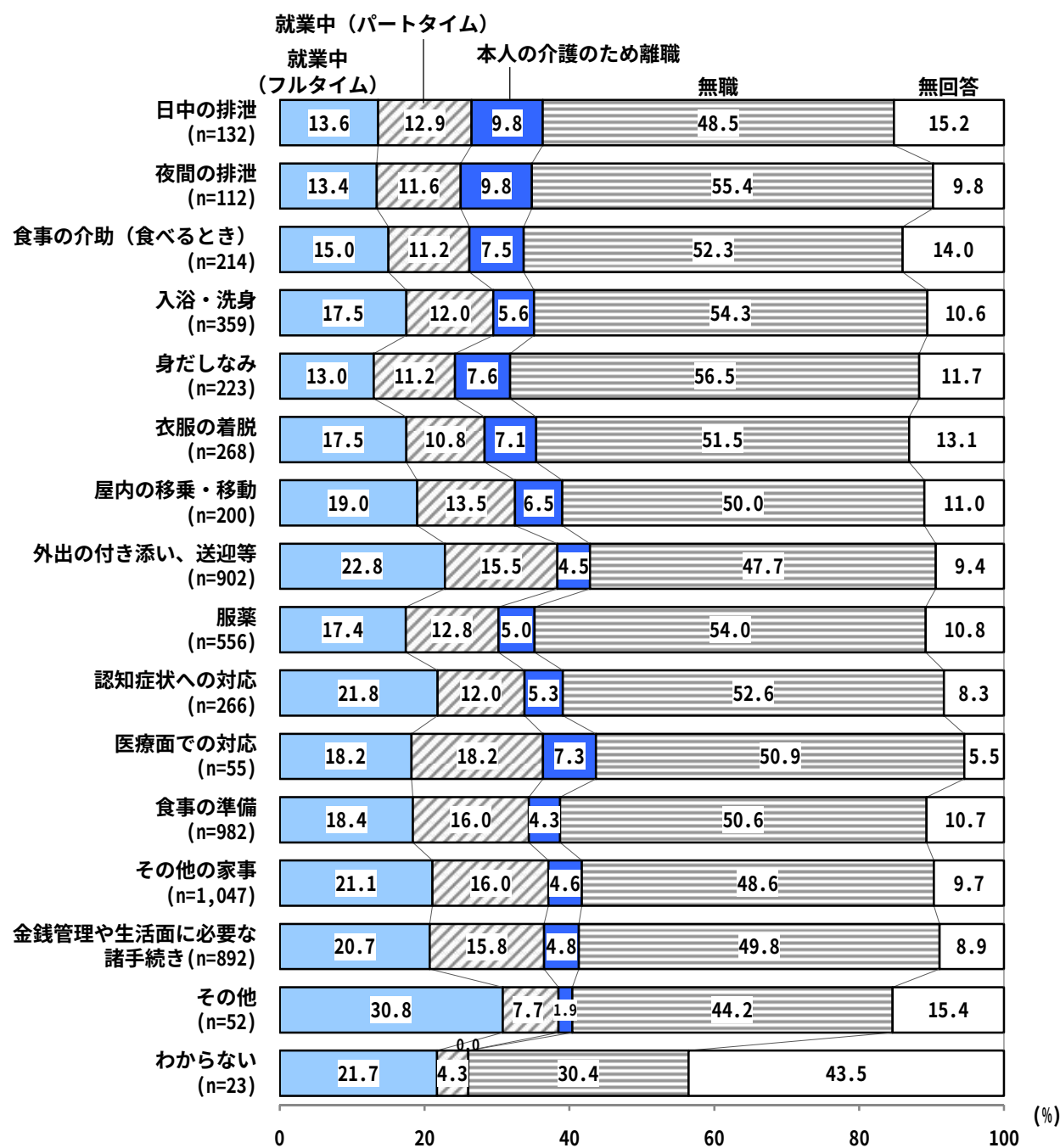
本人の認知症の程度別でみると、認知症の程度にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。(B図52[50]-f)

【B図52[50]-f 介護者の就業状況（本人の認知症の程度別）】



本人に行っている介護内容別でみると、介護内容にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。「本人の介護のため離職」では、“日中の排泄”及び“夜間の排泄”の介助をしている介護者がともに9.8%で最も高くなっている。(B図52[50]-g)

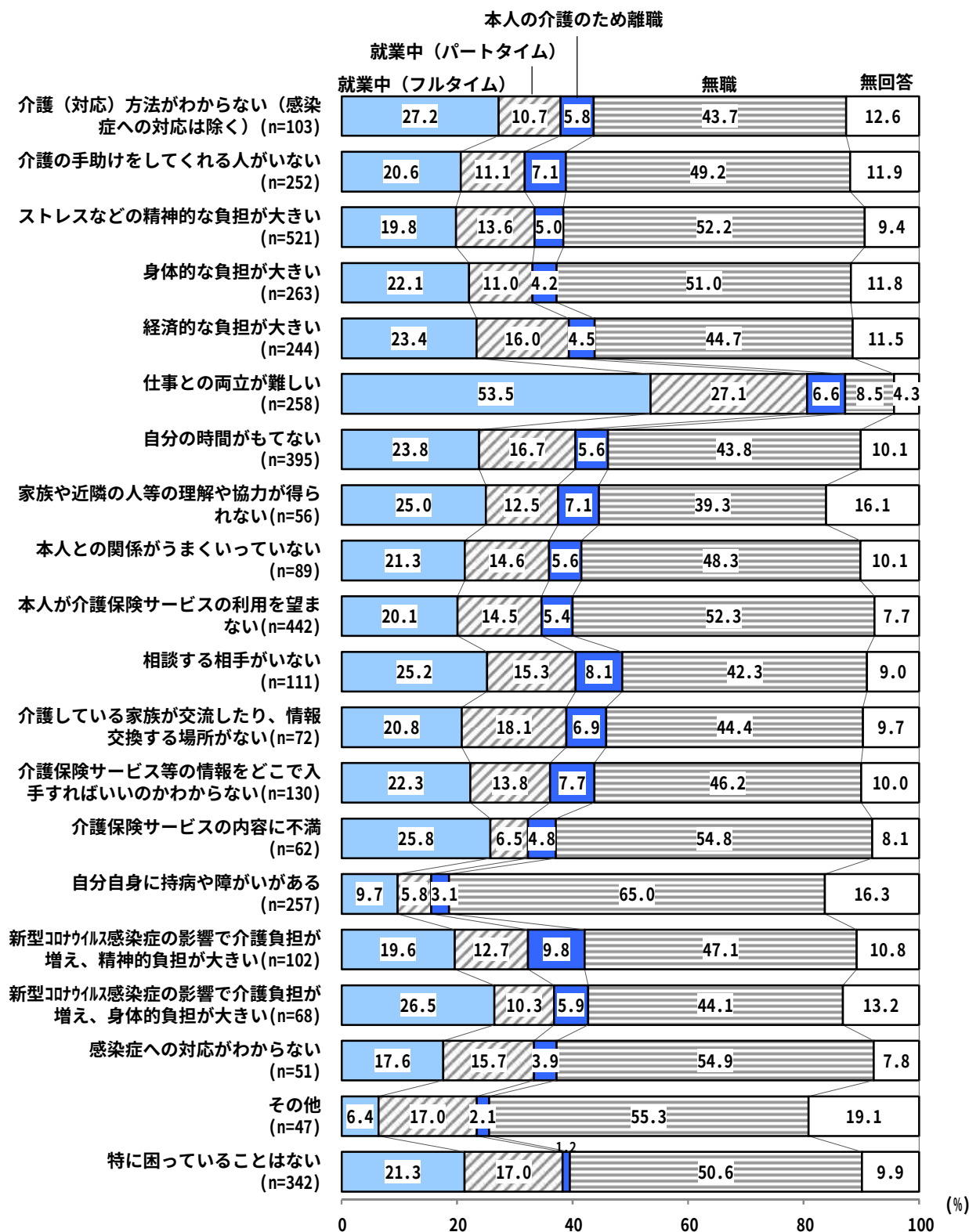
【B図52[50]-g 介護者の就業状況（本人に行っている介護内容別）】



【介護者調査 編】

自宅での介護で困っていること別でみると、「無職」は、“自分自身に持病や障がいがある”介護者が65.0%で最も高くなっている。就業している介護者は“仕事との両立が難しい”介護者の割合が80.6%を占めて最も高くなっている。（B図52[50]-h）

【B図52[50]-h 介護者の就業状況（自宅での介護で困っていること別）】



問52-1[50-1] 介護をするにあたって行っている働き方の調整

問52-1[50-1]は、問52[50]で「1 就業中（フルタイム）」、「2 就業中（パートタイム）」、「3 本人の介護のため離職」と回答された方のみお答えください。

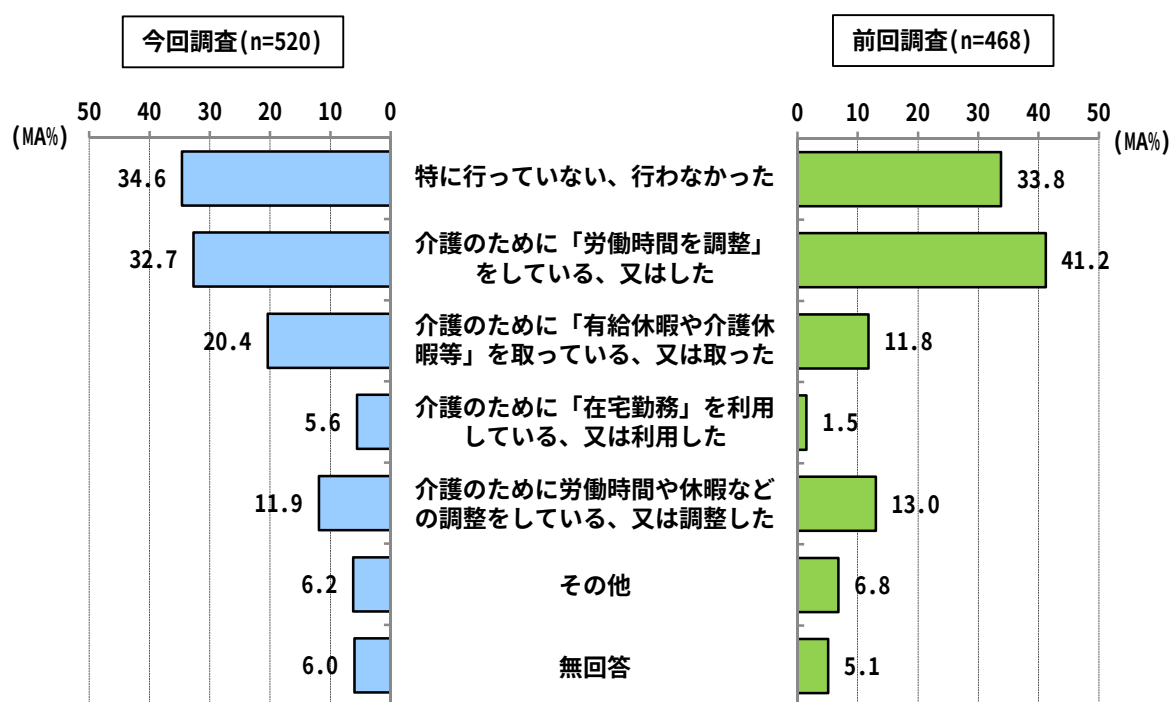
あなたは、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか、または、していましたか。（○はいくつでも）

サービス利用者の介護をするにあたって行っている働き方の調整については、「特に行っていない、行わなかった」が34.6%で最も多く、次いで「介護のために「労働時間を調整」をしている、又はした」が32.7%、「介護のために「有給休暇や介護休暇等」を取っている、又は取った」が20.4%となっている。

前回調査と比較すると、「介護のために「労働時間を調整」をしている、又はした」が8.5ポイント低く、「介護のために「有給休暇や介護休暇等」を取っている、又は取った」の割合が8.6ポイント高くなっている。（A図52-1[50-1]）

< A. サービス利用者 >

【A図52-1[50-1] 介護をするにあたって行っている働き方の調整（経年比較）】

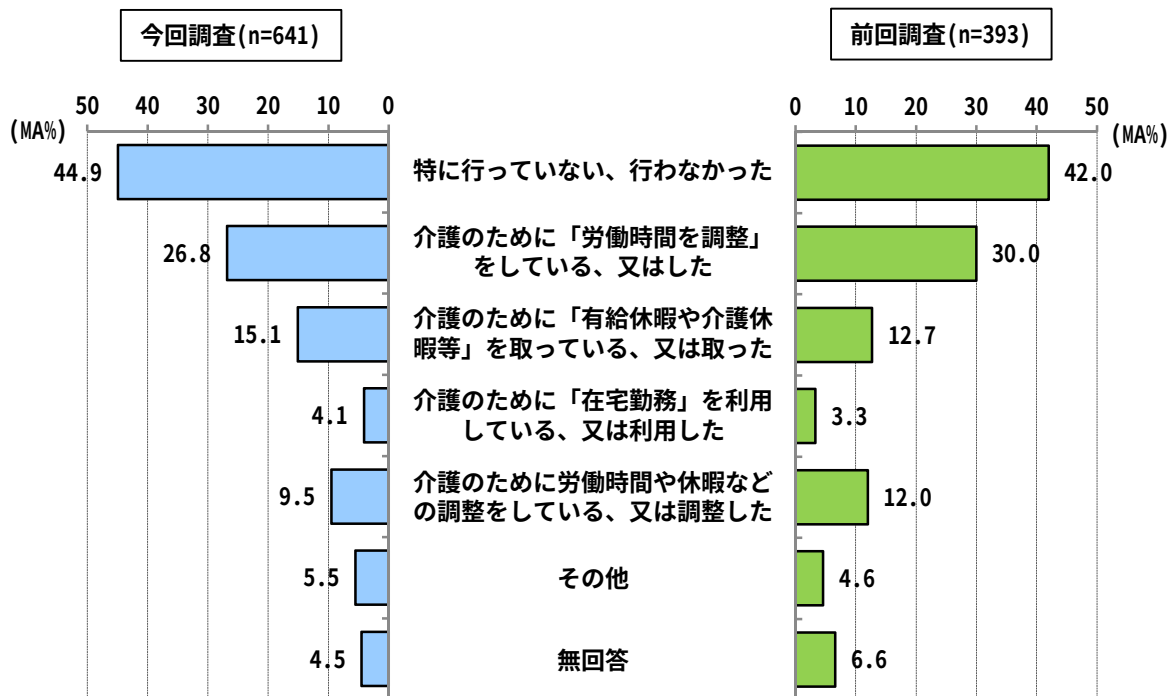


サービス未利用者の介護をするにあたって行っている働き方の調整については、「特に行っていない、行わなかった」が44.9%で最も多く、次いで「介護のために「労働時間を調整」をしている、又はした」が26.8%、「介護のために「有給休暇や介護休暇等」を取っている、又は取った」が15.1%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図52-1[50-1])

< B. サービス未利用者 >

【B図52-1[50-1] 介護をするにあたって行っている働き方の調整（経年比較）】



問52-2[50-2] 働きながら介護を続けることの意向

問52-2[50-2]は、問52[50]で「1 就業中（フルタイム）」、「2 就業中（パートタイム）」と回答された方のみお答えください。

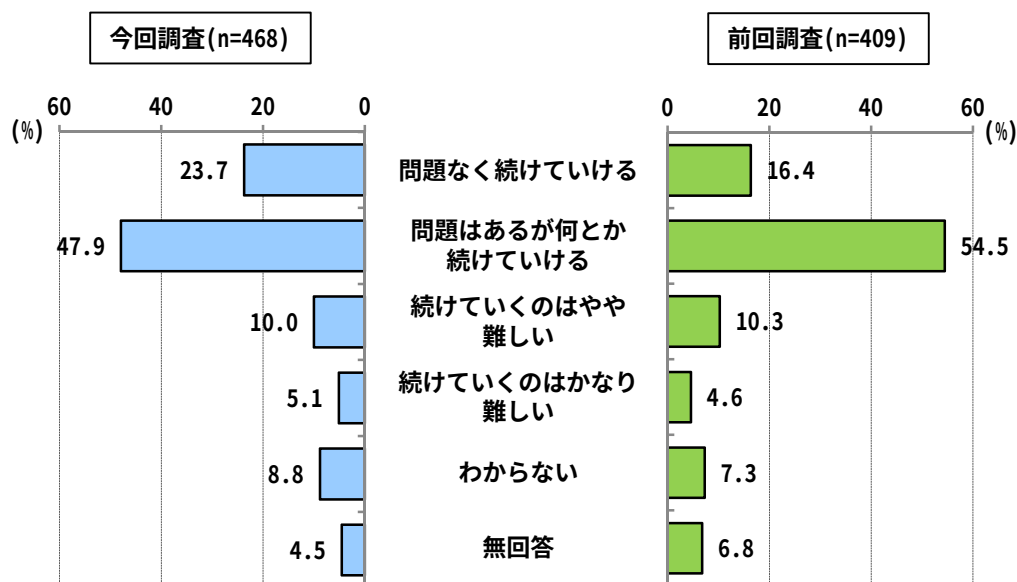
あなたは、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（○はひとつ）

就業中の介護者に、働きながらサービス利用者の介護を続けていけそうかをたずねると、「問題はあるが何とか続けていける」が47.9%で最も多く、次いで「問題なく続けていける」が23.7%、「続けていくのはやや難しい」が10.0%となっている。

前回調査と比較すると、「問題なく続けていける」の割合が7.3ポイント高くなっている。
(A図52-2[50-2])

< A. サービス利用者 >

【A図52-2[50-2] 働きながら介護を続けることの意向（経年比較）】

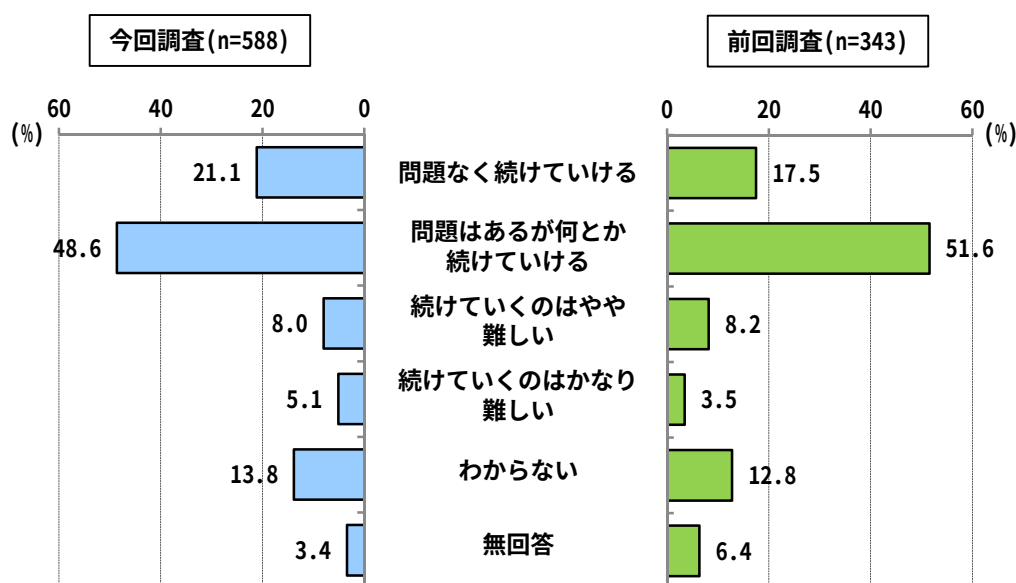


就業中の介護者に、働きながらサービス未利用者の介護を続けていけそうかをたずねると、「問題はあるが何とか続けていける」が48.6%で最も多く、次いで「問題なく続けていける」が21.1%、「続けていくのはやや難しい」が8.0%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図52-2[50-2])

< B. サービス未利用者 >

【B図52-2[50-2] 働きながら介護を続けることの意向（経年比較）】



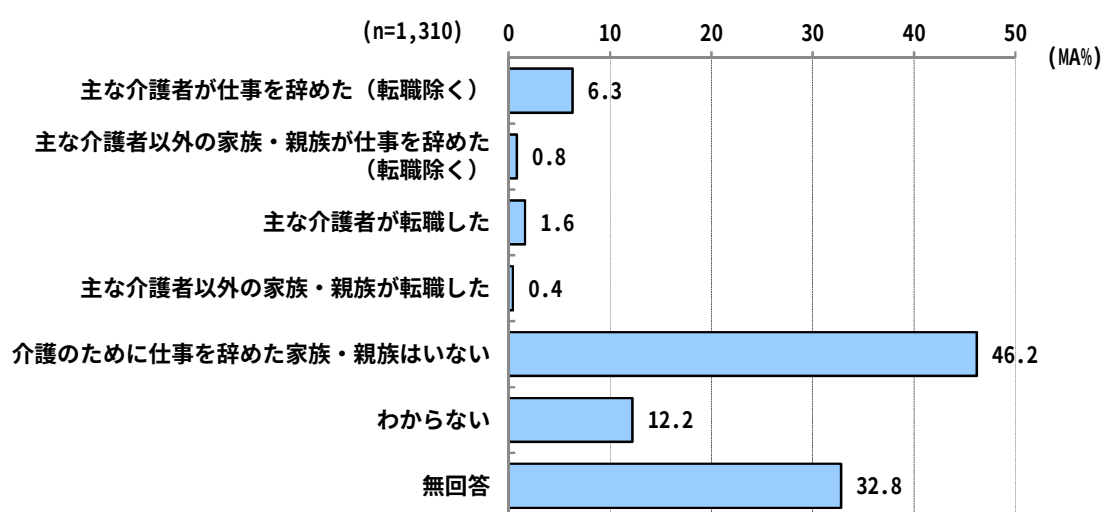
問53[51] 介護を理由に仕事を辞めた人の有無

本人（要介護者）のご家族やご親族の中で、本人の介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた方はいますか。（フルタイム・パートタイマー等の勤務形態は問いません。また、その後再就職等により現在は働いているという方であってもご回答ください。）（○はいくつでも）

サービス利用者の介護を理由に仕事を辞めた人の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が46.2%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が6.3%となっている。（A図53[51]）

< A. サービス利用者 >

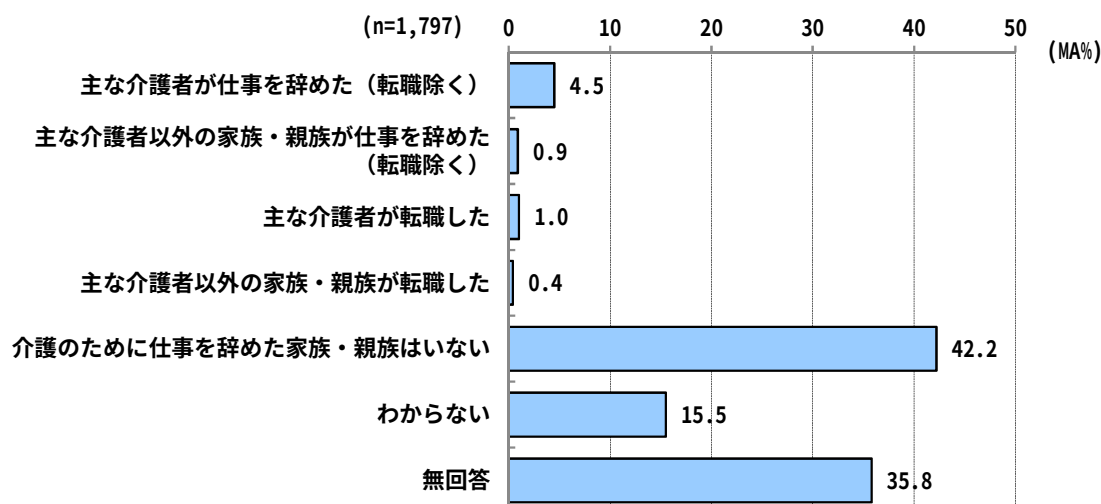
【A図53[51] 介護を理由に仕事を辞めた人の有無】



サービス未利用者の介護を理由に仕事を辞めた人の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が42.2%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が4.5%となっている。（B図53[51]）

< B. サービス未利用者 >

【B図53[51] 介護を理由に仕事を辞めた人の有無】



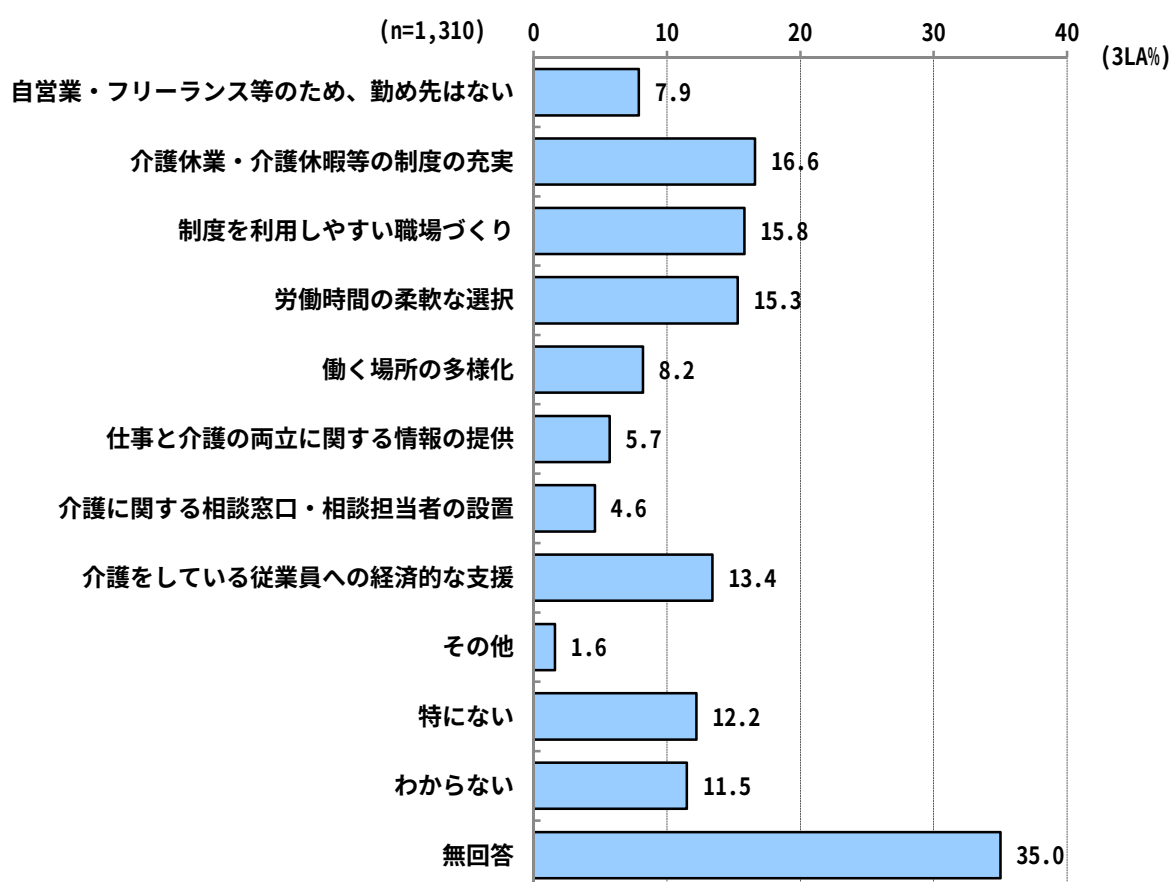
問54[52] 仕事と介護の両立に効果があると思われる勤め先からの支援

あなたは勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思われますか。(○は3つまで)

サービス利用者の介護者の仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が16.6%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が15.8%、「労働時間の柔軟な選択」が15.3%となっている。(A図54[52])

<A. サービス利用者>

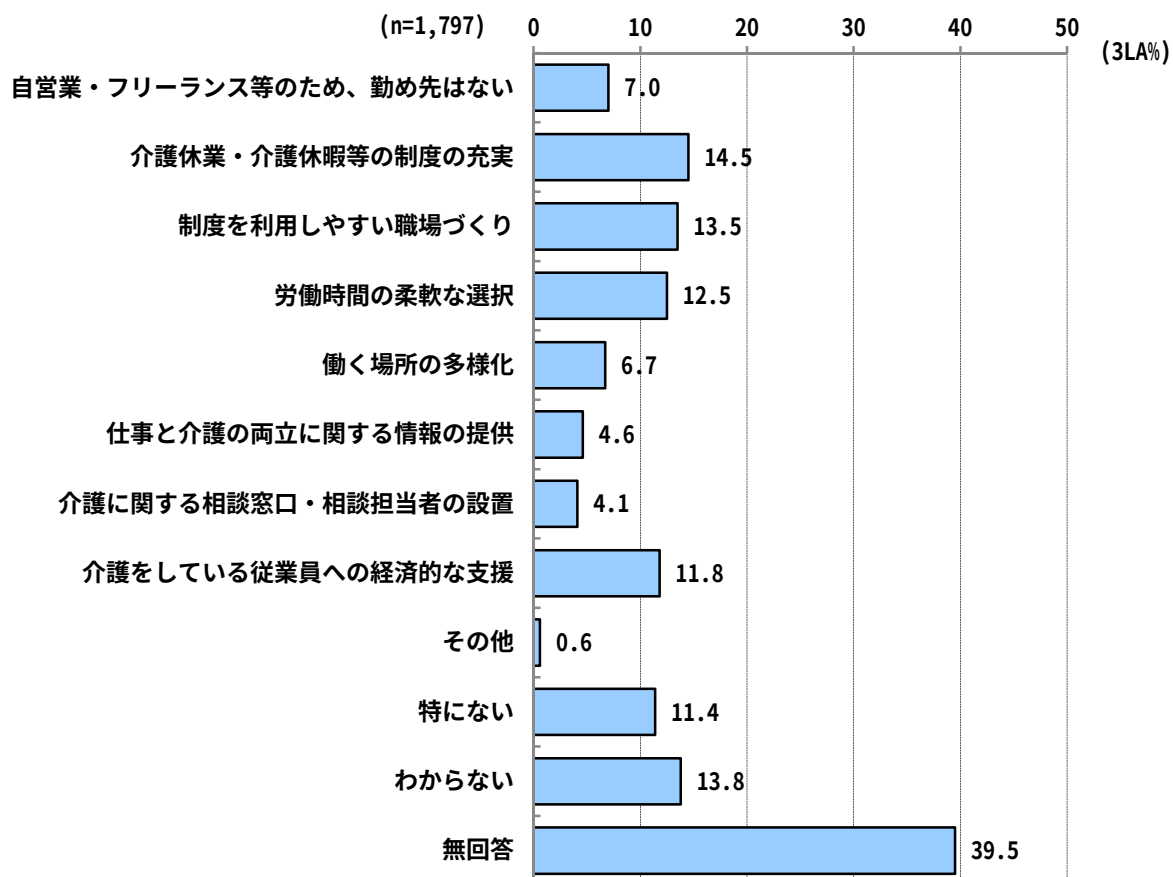
【A図54[52] 仕事と介護の両立に効果があると思われる勤め先からの支援】



サービス未利用者の介護者の仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が14.5%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が13.5%、「労働時間の柔軟な選択」が12.5%となっている。(B図54[52])

< B. サービス未利用者 >

【B図54[52] 仕事と介護の両立に効果があると思われる勤め先からの支援】



問55[53] 現在の生活を継続していくにあたって不安を感じる介護

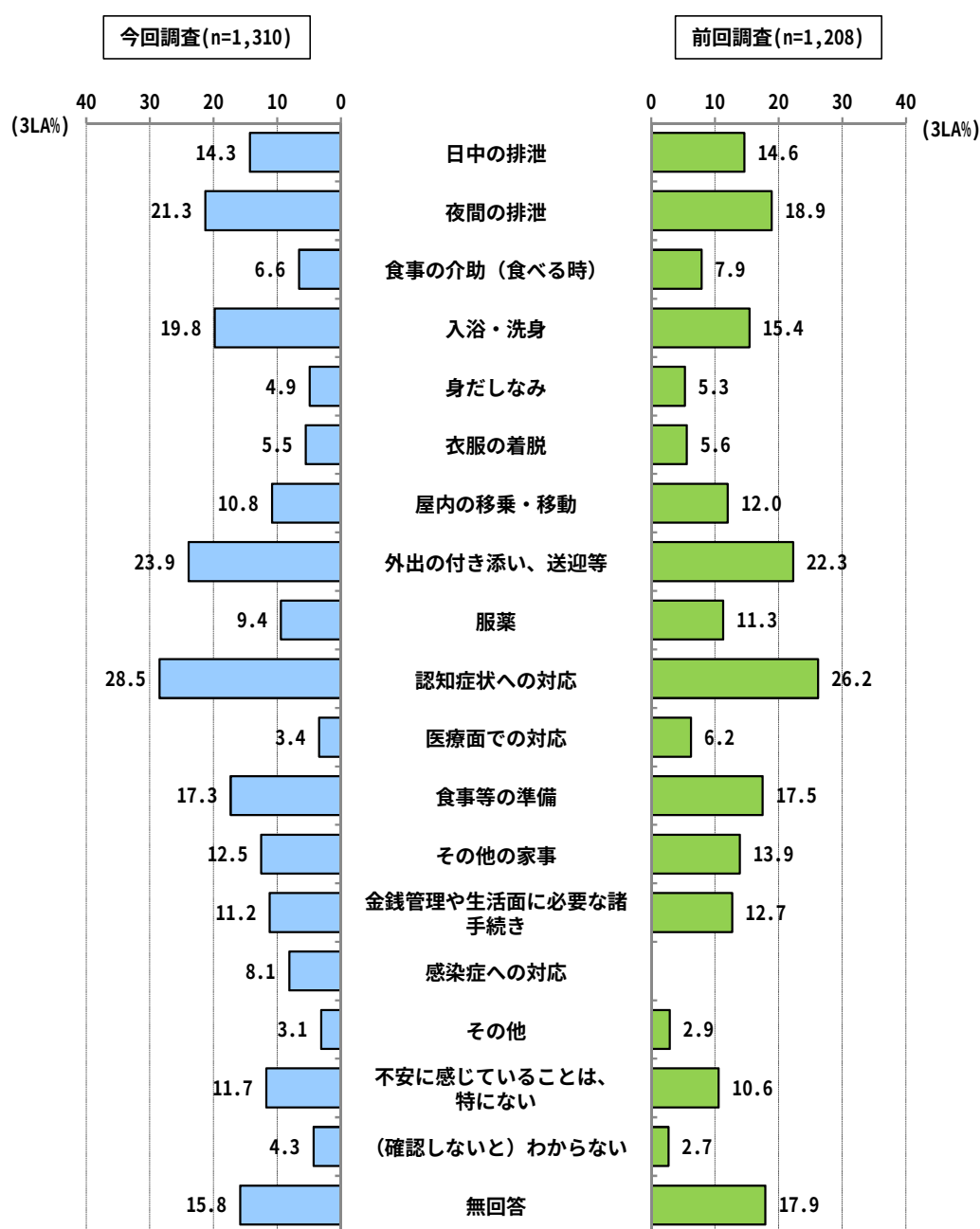
現在の生活を継続していくにあたって、あなたが不安を感じる介護等がありますか。(現状で行っているか否かは問いません) (○は3つまで)

現在の生活を継続していくにあたって不安を感じるサービス利用者本人への介護については、「認知症状への対応」が28.5%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が23.9%、「夜間の排泄」が21.3%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図55[53])

< A. サービス利用者 >

【A図55[53] 現在の生活を継続していくにあたって不安を感じる介護（経年比較）】



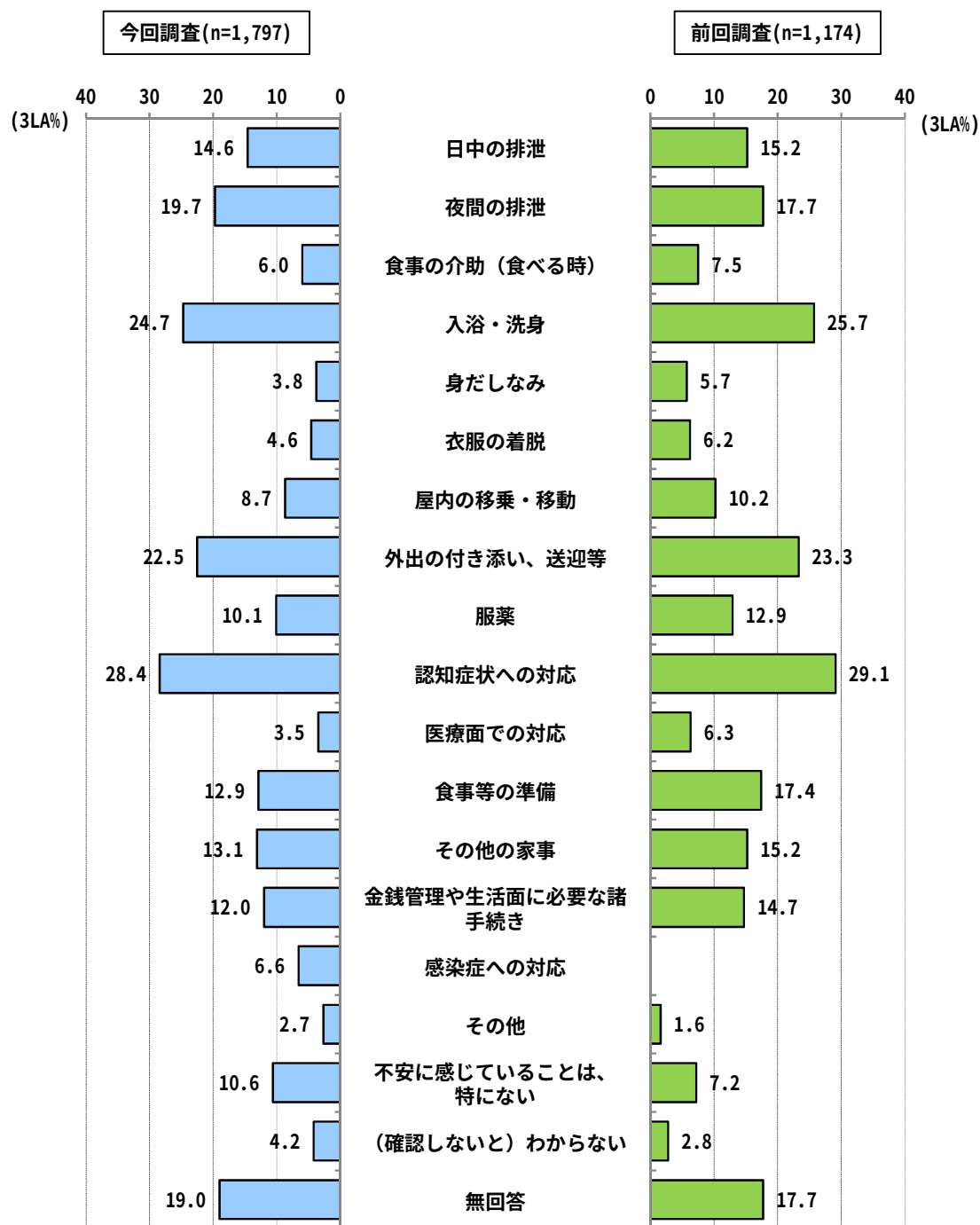
※「感染症への対応」は、今回調査の新規項目である。

現在の生活を継続していくにあたって不安に感じるサービス未利用者本人への介護については、「認知症状への対応」が28.4%で最も多く、次いで「入浴・洗身」が24.7%、「外出の付き添い、送迎等」が22.5%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図55[53])

< B. サービス未利用者 >

【B図55[53] 現在の生活を継続していくにあたって不安に感じる介護（経年比較）】



※「感染症への対応」は、今回調査の新規項目である。

問56[54] 相談窓口の利用状況

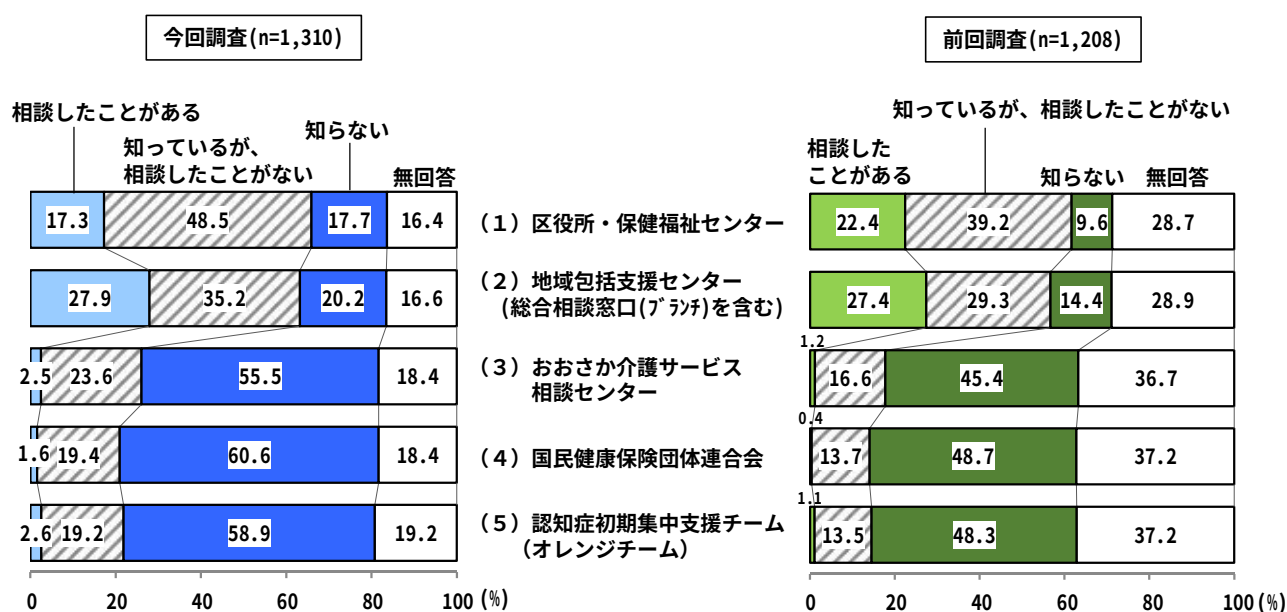
次の相談窓口等について、利用したことがありますか。(1)～(5)の相談窓口の利用状況について、あてはまる番号に○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

サービス利用者の介護者の相談窓口の利用状況については、“(1) 区役所・保健福祉センター”、“(2) 地域包括支援センター（総合相談窓口（ブランチ）を含む）”は「知っているが、相談したことがない」が最も多く、“(3) おおさか介護サービス相談センター”、“(4) 国民健康保険団体連合会”、“(5) 認知症初期集中支援チーム（オレンジチーム）”は「知らない」が最も多くなっている。

前回調査と比較すると、“(1) 区役所・保健福祉センター”の「知っているが、相談したことがない」の割合が9.3ポイント高くなっている。(A図56[54])

< A. サービス利用者 >

【A図56[54] 相談窓口の利用状況（経年比較）】

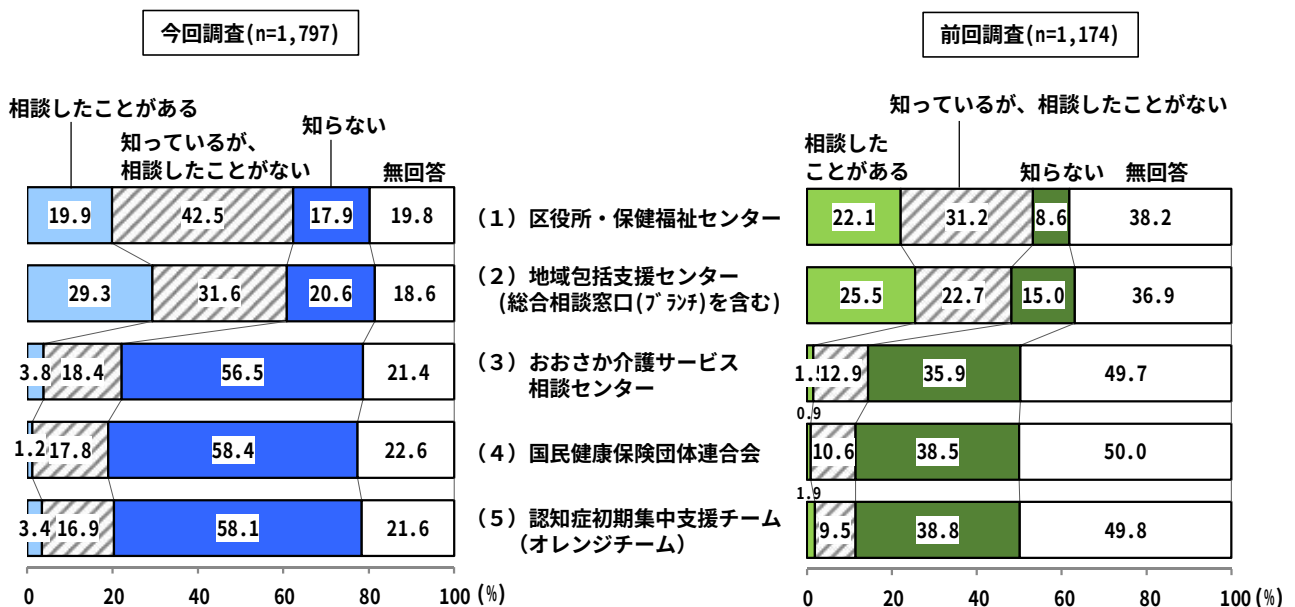


サービス未利用者の介護者の相談窓口の利用状況については、“（１）区役所・保健福祉センター”、“（２）地域包括支援センター（総合相談窓口（ブランチ）を含む）”は「知っているが、相談したことがない」が最も多く、“（３）おおさか介護サービス相談センター”、“（４）国民健康保険団体連合会”、“（５）認知症初期集中支援チーム（オレンジチーム）”は「知らない」が最も多くなっている。

前回調査と比較すると、“（１）区役所・保健福祉センター”の「知っているが、相談したことがない」の割合が11.3ポイント高くなっている。また、“（３）おおさか介護サービス相談センター”、“（４）国民健康保険団体連合会”、“（５）認知症初期集中支援チーム（オレンジチーム）”の「知らない」の割合がいずれも２割程度高くなっている。（B図56[54]）

< B．サービス未利用者 >

【B図56[54] 相談窓口の利用状況（経年比較）】



問56-1[54-1] 自宅での介護で困った時の相談先

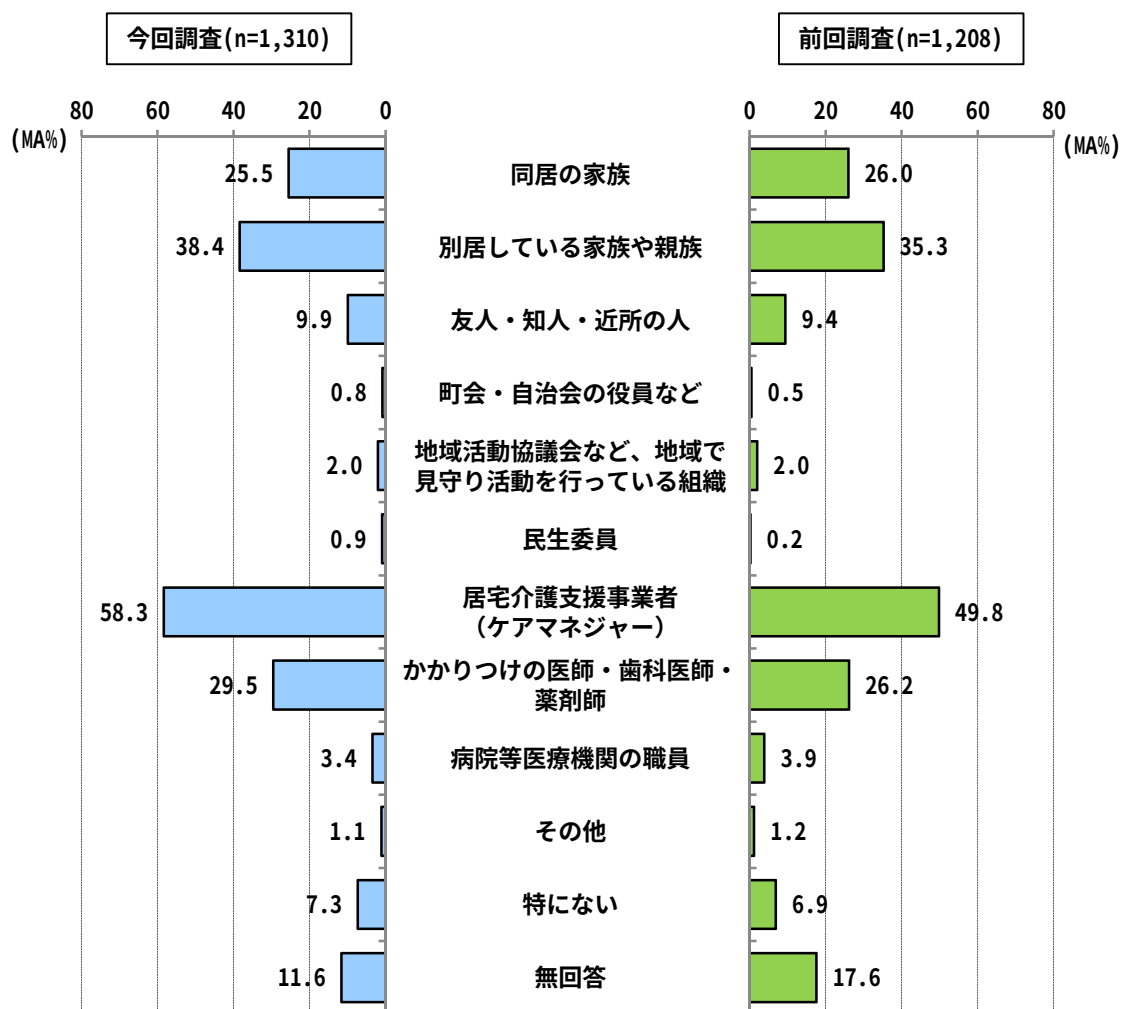
問56[54]の相談窓口以外で、主な介護者が、自宅での介護を行ううえで困った時はどちらに相談していますか。(○はいくつでも)

自宅でのサービス利用者の介護で困った時の相談先については、「居宅介護支援事業者（ケアマネジャー）」が58.3%で最も多く、次いで「別居している家族や親族」が38.4%、「かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」が29.5%となっている。

前回調査と比較すると、「居宅介護支援事業者（ケアマネジャー）」の割合が8.5ポイント高くなっている。(A図56-1[54-1])

< A. サービス利用者 >

【A図56-1[54-1] 自宅での介護で困った時の相談先（経年比較）】

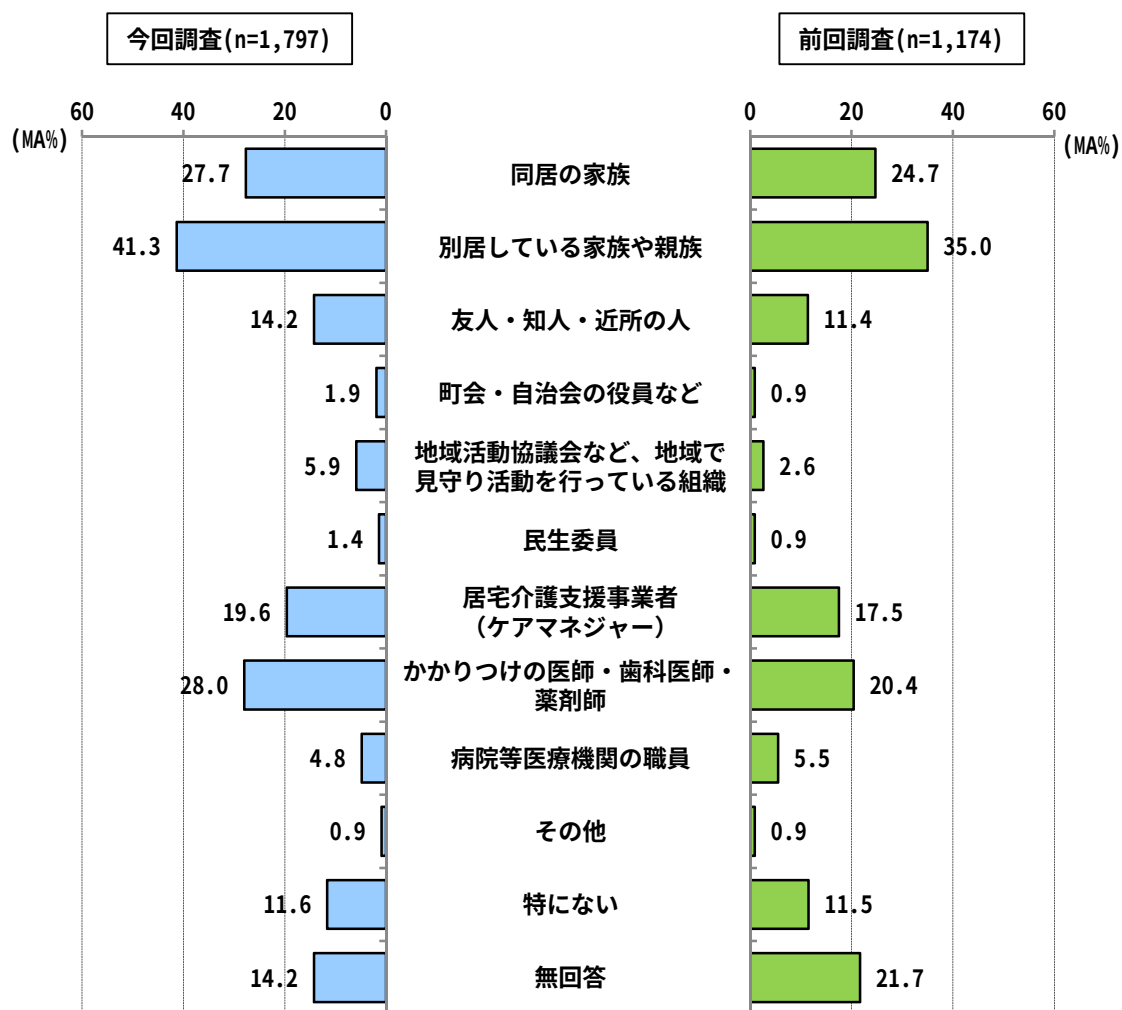


自宅でのサービス未利用者の介護で困った時の相談先については、「別居している家族や親族」が41.3%で最も多く、次いで「かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」が28.0%、「同居の家族」が27.7%となっている。

前回調査と比較すると、「かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」の割合が7.6ポイント高くなっている。(B図56-1[54-1])

< B. サービス未利用者 >

【B図56-1[54-1] 自宅での介護で困った時の相談先（経年比較）】



（５）介護保険制度についての意見・要望等

問57[55] 介護保険制度について、介護者としてのご意見・ご要望等（自由記述）

介護保険制度について、介護者としてご意見・ご要望等がありましたら次の欄に記入してください。

< A. サービス利用者 >

182人から意見があり、延べ201件の回答が挙がっている。主な意見は次のとおり。

【主な意見】

《介護保険制度、制度についての要望・不満》（37件）

- ・介護保険は実際利用する段階でないと手続きや利用範囲の内容はあいまいで、分かりづらいところもある。
- ・介護保険の使い方をもっと分かりやすくしてほしい。
- ・とにかく不正をなくしてほしい。
- ・介護保険制度はありがたいです。

《介護保険料、介護保険サービス利用料、経済的不安》（30件）

- ・利用者負担の2割は不満。
- ・金銭的に受けられないサービスが出てくると思う。
- ・利用者負担が少しずつ増えてきている。
- ・オムツ代を支給してほしい。
- ・経済的な理由で施設に入所出来ない。

《施設サービス、介護サービスの充実》（29件）

- ・介護保険サービスに制限が多過ぎる。
- ・夜も介護サービスを利用できるようになると助かる。
- ・介護保険制度から、紙おむつや尿パンツを提供してほしい。
- ・緊急時に利用できるショートステイの施設の充実を希望する。
- ・障がい者が利用しているような移動支援や同行支援が介護保険でも利用できたらよいと思う。

《要介護認定》（20件）

- ・認定調査員の方によって認定度が大きく違う。
- ・要介護度の認定調査が厳しすぎる。
- ・認定調査の結果が出るのが遅い。
- ・問題行動があり、自由に動ける認知症の介護は大変なのに、自由に動けるだけで介護度は低く認定され、全く現実に沿っていない。

《自宅介護、家族介護者、老々介護》（16件）

- ・介護をしている本人が要介護者のため、介護をする上で不安が大きい。
- ・同居、仕事をしている家族への支援、仕事を離職しなくてよい支援をお願いしたい。
- ・私に何かあった場合に介護をする人がいないことに對し不安がある。

《訪問介護（ヘルパー）、ケアマネ、介護スタッフ》（14件）

- ・制度がよくわからないため、ケアマネまかせになっているが。そのケアマネもところどころ変わるので不安。デイサービスの事業所等の情報も少ない。

-
- ・介護に関わっている人たちの給料が安すぎる。

《相談》(7件)

- ・ケアマネジャーには、どこまで相談したらいいのかわからない。
- ・相談窓口を一覧にしたものを作成、配布して欲しい。
- ・窓口の存在を知っていても相談しにくい。
- ・土日、夜間等に気軽に相談(医療含む)できるところがほしい。

《その他》(48件)

- ・役に立っているので今のままでいい。
 - ・コロナ対応も大切だが、人と集う機会、楽しむ機会や場が増えてくれることを期待している。
-

＜B．サービス未利用者＞

250人から意見があり、延べ276件の回答が挙がっている。主な意見は次のとおり。

【主な意見】

《介護保険料、介護保険サービス利用料、経済的不安》(51件)

- ・保険料が高すぎる。
- ・介護保険サービス利用者負担が高いため利用できない。
- ・経済的な支援があると良いと思う。
- ・制度を利用しない人へ返金してほしい。

《施設サービス、介護サービスの充実》(39件)

- ・特養のような、安い費用で、介護度が低くても入居できる施設が増えるといい。
- ・要介護2では利用できる介護サービスに制限がある。移動時のタクシー補助、補助車、車椅子などの介護用品の割引など、利用できる介護サービスを充実して欲しい。
- ・介護タクシーの料金を安くしてほしい。
- ・施設に入りやすくしてほしい。
- ・昼間独居の家族が安心して働くことができるサービスを考えてほしい。

《介護保険制度、制度についての要望・不満》(38件)

- ・マイナンバーカードを活用して、本人や家族の手続きの負担は減らすべき。
- ・近所で利用できる事業所をわかりやすく記載されている一覧があればいい。
- ・どんな介護を受けられるのかわからない。
- ・介護保険の財政状態や将来の制度に不安。
- ・申請、手続き等をもっと分かりやすく簡単にしてほしい。

《自宅介護、家族介護者、老々介護》(19件)

- ・現在は工夫しながら介護しており、出来る限り今の状態を続けたい。
- ・家族は自分の時間がもてない。老々介護となっている。
- ・要介護者本人は、家族以外の者に世話はしてほしいという。

《相談》(19件)

- ・困った時に相談する所がわからない。
 - ・地域包括支援センターで定期的な相談をお願いしたい(相談が自宅でできるようにし
-

てほしい)。

- ・相談窓口の連絡先の一覧表や各手続き等の説明書を、"介護保険被保険者証"送付の際に同封してほしい。

《訪問介護（ヘルパー）、ケアマネ、介護スタッフ》（15件）

- ・サービスを利用していない場合であっても必ずケアマネさんを付けて、訪問してほしい。
- ・ケアマネジャー選びの時、どのような分野に強いのか、資格等の一覧表があるとわかりやすい。
- ・ケアマネジャーと会う時間がない。

《要介護認定》（13件）

- ・介護認定は、身体機能も大事だが、認知レベルをもっと考慮してほしい。
- ・介護保険認定調査を早く行ってほしい。調査員の方の人数を増やすなど早く対策してほしい。

《その他》（82件）

- ・オムツ補助の件ですが、6月に主人が脳こうそくになり「入院中のオムツ補助は受けられない!」との事。あくまでも、自宅介護のみという返答。同じ人間が入院中はダメで自宅介護は○というのに疑問を感じた。負担が大きい。
 - ・大阪市は介護保険サービスが充実していると思った。他県の地方都市で介護保険を使っていたが通院、お風呂の介助など頼めなかった。
 - ・自分の方が先に病気で亡くなったら心配。
 - ・このアンケートは高齢者には質問が多すぎるし、長すぎると思った。
 - ・病院に入院中だが、面会できるようにしてほしい。
 - ・とにかく、コロナが終息してほしい。理学療法士等リハビリを受けたい気持は強いが感染が怖い。
-

5 調査結果からみえてきた現状と課題

(1) 高齢者の状態像や世帯特性にみる課題

① 高齢者（回答者）の状態像

- ・ 高齢者（回答者）の性別は、介護保険サービス利用者（以下、「利用者」という。）、介護保険サービス未利用者（以下、「未利用者」という。）とも、男性に比べ女性の割合の方が高く [P5図2(1)] [P95図2(1)]、年齢は、85歳以上が利用者では46.9%と半数近く、未利用者では40.1%を占める [P6図2(2)] [P96図2(2)]。要介護度は、利用者では、軽度者が48.7%（「要支援1」19.4%、「要支援2」17.4%、「要介護1」11.9%）、要介護2以上の中重度者は46.3%となっている [P7図3]。一方、未利用者では、軽度者が62.9%（「要支援1」28.6%、「要支援2」20.7%、「要介護1」13.6%）、要介護2以上の中重度者は32.0%となっている [P98図3-1]。利用者、未利用者とも前回調査の結果に比べ軽度者はやや増加、中重度者はやや減少しており、無作為抽出した対象者分布ではあるが、要介護度の軽度化の動きがみられることから、引き続き、介護予防・重度化防止の取組みを推進することが重要である。
- ・ 介護・介助が必要になった原因は、利用者の場合、介護度に関係なく「骨折・転倒」や「高齢による衰弱」が多く [P14図7]、要介護1及び3及び5の介護度では「認知症」が多くなっている [P15図7-a]。未利用者の場合も「高齢による衰弱」や「骨折・転倒」、「認知症」が多くなっている [P107図7]。要介護1以上の介護度では「認知症」の割合が高く、特に要介護1では37.6%で最も高くなっている [P108図7-a]。また、現在抱えている傷病等は、利用者では「認知症」（21.0%）が最も多く [P8図4]、要介護度別でみると、要介護1並びに要介護3～5ではほぼ3人に1人に認知症の症状がある [P278図4]。一方、未利用者の場合は、利用者と異なり、「眼科・耳鼻科疾患」（19.6%）が最も多くなっている [P99図4]。特に聴覚機能が低下すると他者とのコミュニケーションがとりにくくなることで、外出の機会の低下などによる社会からの孤立や、認知症の発症リスクの上昇につながる恐れがあると言われている。また、生活習慣に起因する疾病をはじめ、加齢に伴う活動量の低下や社会交流の減少、認知機能の低下などはフレイルの原因とされており、フレイル予防や要介護のきっかけとなることが多い認知症の予防などの取組みが重要である。

② 高齢者が暮らす世帯の特性

- ・ 世帯構成は、利用者では、「ひとり暮らし」が45.2%と半数近くを占め、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が21.4%、「息子と娘の2世帯」が17.8%となっている [P9図5]。一方、未利用者は、「夫婦のみで、配偶者が65歳以上」が32.9%で最も多く、次いで「単身（ひとり暮らし）」が28.9%、「息子・娘の2世帯」が20.7%となっている [P101図5]。利用者・未利用者とも、要支援者でひとり暮らし世帯の割合が高く、介護度が重度化するに伴って、ひとり暮らし世帯の割合は低下している。介護者の状況は、利用者の76.1%に介護者がおり [P11図6]、要介護3までの介護度では「主に家族など」が5割を超え、要介護4及び5では「主に事業者」が5割を超えている [P12付図6-a]。一方、未利用者では、63.8%に介護者がおり [P104図6]、要介護4までの介護度では「主に家族など」が8割を超えているが、要介護5では「主に家族など」の割合が5割程度にとど

まっている [P105付図6-a]。利用者・未利用者とも、ひとり暮らし世帯の割合が高い要支援者で介護者が「いない」との回答割合が高くなっている。また、ひとり暮らし世帯の介護保険外サービスの利用割合は、利用者が55.7%、未利用者が19.1%となっている [P279図12] [P282図12]。さらに今後、在宅生活の継続のための支援・サービスとして介護保険外サービスを必要とする割合は、利用者が58.2%、未利用者が41.8% [P279図13] [P283図13] となっており、在宅生活の継続のための支援・サービスとして介護保険外サービスを必要とする高齢者は少なくない。特に介護保険の利用などもなく、社会とのつながりが薄いと考えられるひとり暮らし高齢者に対しては、ふだんからの見守りとともに、家事援助や外出支援、通いの場への参加促進など、日常生活の自立を支えるためのサービスの提供により、在宅生活が継続できるよう支援することが求められる。

- ・利用者の現在の住まいについては、要介護3までの7～9割が「持ち家・賃貸住宅」、要介護4及び5の4割近くが「施設等に入所（入居）している」と回答している [P19図10-a]。自宅や高齢者向け住宅等で暮らす高齢者の6～7割は、介護度に関係なく、現時点では施設等への入所・入居を検討していないが、要介護3の21.0%が「施設等への入所・入居を検討」、要介護4の10.7%が「施設等にすでに入所・入居申し込みをしている」と回答し、他の介護度に比べ高くなっている [P280図5-2]。高齢者が可能な限り在宅で自立した生活を継続的に送るためには、暮らしの土台となる住まいが重要であり、個々の高齢者の状況やニーズに沿った多様な住まいの維持・確保に向けた取組みが求められる。また、在宅生活が困難な重度の要介護認定者や家庭の介護力が弱体化した世帯の要介護者については施設介護を含めた適切な支援を行うことが必要である。

（２）介護保険サービス等の利用と今後の利用意向にみる課題

①介護サービス等の現在の利用と今後の利用意向

- ・現在、利用者が利用している介護保険の上位3サービス（介護予防含む）は、「訪問介護（ホームヘルプ）」（40.2%）、「通所介護（デイサービス）」（34.3%）、「福祉用具の貸与」（45.9%）で [P21図10-2]、介護度が重度の高齢者ほど、「訪問介護（ホームヘルプ）」に加え、「訪問看護」や「訪問リハビリテーション」「居宅療養管理指導」などの医療系サービスの利用割合が高くなっている [P22図10-2-a]。
- ・一方、未利用者では、59.4%が「今までまったく利用したことがない」と回答し、「以前は利用していたが、現在は利用していない」は27.3%となっている [P112図10]。介護保険サービスを利用していない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」（31.9%）が最も多く、次いで「家族が介護をするため問題ない」（15.7%）、「人との接触機会が増えて新型コロナウイルス感染の可能性が高くなるから」（12.0%）となっている [P117図11]。「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合は、単身（ひとり暮らし）が38.8%で最も高く、次いで夫婦のみで配偶者が65歳以上の34.3%となっている [P118図11-a]。ひとり暮らし世帯の方は、自身ではサービス利用の必要性を感じていない方が多くみられるが、居宅内で体調が急変しても、外部の者が気づき何らかの支援を受けることが難しいことのほか、火災や災害発生時、高齢者自身が自力で避難できない場合なども考えられることから、日常的な見守りや緊急時の支援といったことが重要である。また、在宅で家族による介護ができる世帯については、その自助努

力を尊重するとともに、家族介護者等の介護負担を軽減するための取組や、介護者自身の高齢化や認知症等の疾病の罹患、介護負担の重圧によるネグレクトなど、家庭の介護力が低下した場合に、適切な介護サービスの利用に結び付けるための介護サービス情報発信などの取組を進めることも重要である。

- ・ 今後の介護保険サービスの利用意向について、利用者では、「自宅で生活しながらサービスを受けたい」が24.9%、「特にない（現在利用しているサービスのみでよい）」が52.8%で、介護保険サービスの利用により在宅生活を続けたいと考えている割合が77.7%を占めている [P45図18]。また、「自宅で生活をしながらサービスを受けたいと回答した高齢者が、利用したいサービスは、「福祉用具の貸与」（25.7%）や「訪問介護（ホームヘルプ）」（24.9%）、「通所介護（デイサービス）」（16.8%）などが多くなっている [P47図18-1]。これに対し、未利用者では、「自宅で生活しながらサービスを受けたい」が28.0%、「特にない（現在利用しているサービスのみでよい）」が43.0%となっている。一方、「施設等に入所（入居）したい」は6.1%で、前回調査の結果（13.6%）に比べ7.5ポイント低下している [P124図15]。居宅介護の希望の割合は、要支援者及び要介護1～3までの介護度で高く、施設介護の希望の割合は、要介護4及び5で高くなっている [P124図15-a]。居宅で利用希望の多いサービスは、「福祉用具の貸与」（28.3%）、「訪問介護（ホームヘルプ）」（26.8%）、「通所介護（デイサービス）」（24.0%）、「福祉用具の購入」（21.3%）などで [P126図15-1]、要介護5では、「訪問看護」（37.0%）や「訪問リハビリテーション」（33.3%）、「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」（33.3%）の利用希望の割合も高い [P127図15-1-a]。利用者も未利用者も、「訪問介護（ホームヘルプ）」や「通所介護（デイサービス）」、「福祉用具貸与・購入」などの介護保険サービスを利用しながら自宅で生活を続けたいという希望が多くなっており、重度者においては、「訪問看護」をはじめとした医療系サービスのニーズも高くなっていることから、在宅生活の継続に向けて、サービス提供体制を確保・充実するための取組みが重要となる。
- ・ 介護保険サービス及び介護サービス以外で、利用者が今後在宅生活継続に必要なと考えている支援・サービスで多いものは、要支援者は「掃除・洗濯」、要介護1～3は「外出同行」、要介護4及び5は「移送サービス」で、特に要介護3以上では外出同行や移送サービスのニーズが高くなっている [P281図13]。一方、未利用者では、「移送サービス」や「外出同行」「掃除・洗濯」などとなっている [P284図13]。在宅生活を継続するためには、家事や食事、入浴などの生活支援のほかに、外出や移動のための手段の確保も重要であり、介護保険外サービスを含めた、在宅生活の継続を支援するためのサービスの充実が求められる。

②施設サービスの利用と今後の利用意向

- ・ 利用者で、現在入所（入居）している施設は、要支援者及び要介護1では「特定施設入居者生活介護（介護付き有料老人ホーム等）」が最も多く、要介護3以上では「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が最も多くなっている。また、要支援2・要介護1～3では「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」の割合が高くなっている [P34図14-a]。施設への入所（入居）を希望した理由は、要支援者及び要介護1では「ひとり暮らしなど、介護する家族がいなかったから」が多く、要介護2以上では「家族の介護では

負担が重すぎたから」が多くなっている [P36図14-1-a]。

- ・利用者で、ここ1年以内に施設等に入所（入居）したいと回答した高齢者で、現在利用していない施設サービスで利用したい施設は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」（46.6%）が最も多く、次いで「特定施設入居者生活介護（介護付き有料老人ホーム）」（13.0%）となっている [P50図18-2]。「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」の割合は、要介護3以上の介護度で6～7割を占めている [P51図18-2-a]。一方、未利用者では、現在利用していない施設サービスで利用したい施設は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」（25.7%）が最も多く、次いで「特定施設入居者生活介護（介護付き有料老人ホーム等）」（16.5%）となっている。前回調査の結果に比べ、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」は9.8ポイント増、「特定施設入居者生活介護（介護付き有料老人ホーム等）」は7.8ポイント増、「介護医療院」は7.4ポイント増となっている [P129図15-2]。また、施設入所（入居）希望者で、施設等に「入所（入居）を検討している」と回答した高齢者は43.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は15.0%となっており、施設等への入所（入居）希望が58.2%を占めている。前回調査の結果に比べ、「入所（入居）を検討している」が19.3ポイント上昇している [P131図15-3]。「入所（入居）を検討している」割合は、要支援者及び要介護1・2で、また「すでに入所・入居申し込みをしている」割合は要介護3以上の介護度でそれぞれ高くなっている [P285図15-3]。施設サービスについて軽度者が現時点で入所を検討しているのは、介護負担を大きくする要因のひとつである認知症の進行への不安も理由のひとつとして考えられ、認知症を含め要介護度の重度化の傾向や家庭内の介護力の低下などの要素を考慮し、居宅サービス・施設サービスを含め、高齢者個々の状態に応じたサービス提供体制を確保していく必要がある。

（3）在宅医療（訪問診療）の利用にみる課題

- ・利用者で医療従事者の訪問を受けている割合は、要介護2～4の各介護度で3割程度、要介護5では48.4%で [P38図15-a]、「看護師」が介護度に関係なく訪問している医療従事者として最も多く、要介護4及び5では「医師」や「歯科医師」の割合も高くなっている [P40図15-1-a]。一方、未利用者で医療従事者などの「訪問を受けている」割合は5.2%で [P121図14]、要介護2以上の介護度で「訪問を受けている」の割合が高い [P121図14-a]。訪問している医療従事者は「医師」（55.7%）が最も多く、次いで「看護師」（45.5%）となっている [P122図14-1]。
- ・利用者のうち、かかりつけ医がいる高齢者は84.8%で、そのうち「自宅に来てくれる（と思う）」は35.5%となっている [P77図30]。また、かかりつけ歯科医師がいる高齢者は64.6%で、そのうち「自宅に来てくれる（と思う）」は17.0% [P78図31]、かかりつけ薬剤師・薬局を持っている高齢者は75.7%で、そのうち「自宅に来てくれる（と思う）」は26.7%となっている [P79図32]。医師、歯科医師、薬剤師・薬局のいずれにおいても介護度が重度な高齢者ほど、「自宅に来てくれる（と思う）」の割合が高くなっている。一方、未利用者で、かかりつけ医がいる高齢者は81.5%、そのうち「自宅に来てくれる（と思う）」は23.0%となっている [P156図27]。また、かかりつけ歯科医師がいる高齢者は65.7%で、そのうち「自宅に来てくれる（と思う）」は7.0% [P157図28]、かかりつけ

薬剤師・薬局を持っている高齢者は72.9%で、そのうち「自宅に来てくれる（と思う）」は15.5%となっている [P158図29]。かかりつけの医師や歯科医師、薬剤師をもつことの重要性について引き続き啓発していくことが重要である。

（４）介護予防等への取組みにみる課題

①外出の状況

- ・利用者では、週１回以上「外出している」と回答した割合は、介護度の重度化とともに低下し、要介護４及び５では「ほとんど外出しない」が５割を超えている [P53図19-a]。また、要支援者及び要介護１～４までの高齢者の半数は昨年と比べ、外出回数が減っていると回答している [P54図20-a]。一方、未利用者でも、週１回以上「外出している」と回答した高齢者の割合は、介護度の重度化とともに低下し、要介護２～５では「ほとんど外出しない」が４割を超えている [P132図16-a]。また、要支援者及び要介護１～３までの高齢者の６割前後は昨年と比べ、外出回数が減っていると回答している [P133図17-a]。
- ・利用者で外出を「控えている」と回答した高齢者は、介護度に関係なく６割前後を占め [P55図21-a]、その理由として、介護度に関係なく「足腰などの痛み」が多く、特に要支援者の割合が高くなっている [P57図21-1-a]。一方、未利用者では、外出を「控えている」と回答した高齢者は、要支援者及び要介護１～３までの介護度では６割前後を占め [P134図18-a]、その理由として、要支援者及び要介護１～４までは「足腰などの痛み」が多くなっている。要介護４及び５では「病気」の割合が高く、要介護５では「障がい」の割合も高くなっている [P136図18-1-a]。介護の必要性に関係なく、社会的交流の機会の確保や生きがいづくりにとって外出は重要である。閉じこもりの継続により運動器の機能低下や活動そのものの意欲の減退を招かないよう、外出のための機会の充実に向けた取組みが求められる。

②介護予防の意識や取組み状況

- ・介護予防を意識していると回答した高齢者の割合は、利用者も未利用者も、年齢に関係なく５割以上を占めている [P282図22] [P285図19]。
- ・介護予防に取り組んでいる高齢者の割合は、利用者・未利用者とも７割を占め [P59図23①] [P138図20①]、その割合は介護度が重度になるとともに低下しているが、利用者・未利用者とも、要介護４または要介護５の重度者でも「栄養バランスのとれた食事をとる」や「歯磨きや入れ歯の手入れを行い、口の中の健康を保つ」「体操や運動により体力を維持する」なども利用者では３～４割、未利用者では２～３割は行っている [P61図23①-b] [P140図20①-b]。また、今後取り組んでみたい介護予防は、未利用者では「掃除や洗濯、調理など自分でできることは自分でする」が最も多くなっているが [P141図20②]、利用者・未利用者、また介護度に関係なく、「体操や運動により体力を維持する」や「栄養バランスのとれた食事をとる」「歯磨きや入れ歯の手入れを行い、口の中の健康を保つ」なども多くなっている [P64図23②-b] [P143図20②-b]。
- ・介護予防に取り組んでいないまたは取り組んでみたいと思っていない理由で最も多いものは、利用者・未利用者とも、要支援２以上の介護度では、「持病があったり、体調が悪

くてできない」で、その割合は介護度の重度化とともに上昇している。要支援1では「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」が最も多く、利用者の要支援2、利用者・未利用者の要介護1では「外に出るのがおっくうだから」の割合が高くなっている [P66図23-1-a] [P145図20-1-a]。

③口腔機能

- ・利用者も未利用者も、入れ歯の利用の有無に関係なく、いずれの介護度も歯が19本以下の割合が多くなっている [P67図24-a] [P146図21-a]。また、利用者・未利用者とも、介護度が重度な高齢者ほど、「何でも、かんで食べることができる」の割合は低く [P70図25-a] [P149図22-a]、また利用者では「お茶や汁物でむせる」の割合が高い [P71図26]。重度な介護者ほど、口腔機能の低下や食の衰えが現れており、いわゆる「オーラルフレイル」の進行防止のための取組みが重要である。

(5) 地域活動への参加状況にみる課題

- ・地域の会・グループ等への参加状況は、利用者では、「参加していない」割合がどの会・グループも6割以上を占めている。一方、地域の会・グループ等のうち、週1回以上参加する割合が高い活動は、「介護予防のための体操・運動以外の介護予防のための通いの場」の8.1%で、次いで「百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場」が6.4%となっている [P80図33]。一方、未利用者では、「参加していない」割合がどの会・グループも6割前後を占めている。地域の会・グループ等のうち、週1回以上参加する割合が高い活動は、「百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場」の5.5%で、次いで「スポーツ関係のグループやクラブ」の3.6%となっている [P159図30]。
- ・地域づくり活動への参加の考えをみると、利用者も未利用者も、地域づくり活動に「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた参加意向のある割合は全体では3割前後で [P81図33-1] [P160図30-1]、介護度が軽度な高齢者ほど参加意向割合は高くなっている [P81図33-1-a] [P160図30-1-a]。地域づくり活動の企画・運営（世話役）については、利用者・未利用者とも参加意向のある割合は低くなっている [P82図33-2] [P161図30-2]。

(6) 相談・情報収集の状況にみる課題

①認知症に関する相談

- ・認知症に関する相談窓口を「知っている」割合は、利用者が42.9%、未利用者が34.8%となっている [P85図34-1] [P164図31-1]。「知っている」割合は、利用者・未利用者とも「認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある」との回答割合が高い要介護1で最も高くなっている [P84図34-b, P86図34-1-b] [P163図31-b, P165図31-1-b]。具体的に認知されている窓口は、利用者・未利用者とも「かかりつけの医師」が最も多く、次いで「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」や「区役所・保健福祉センター」となっている [P87図34-2] [P166図31-2]。
- ・認知症について不安に感じたときに相談意向のある窓口は、利用者・未利用者とも、認知

されている窓口同様、「かかりつけの医師」が最も多く、次いで「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」「区役所・保健福祉センター」となっている [P88図34-3] [P167図31-3]。認知症は、現在かかっている傷病や介護が必要になった原因でも上位となっており、自立した生活を送る上で高齢者の不安のひとつとなっていることから、認知症に対する不安を軽減するための取組みが引き続き重要である。また、認知症に関する相談窓口を知らないとする割合も依然高く、相談窓口の周知が引き続き重要である。

②高齢者向けサービスの情報源

- ・利用者では、要支援者・要介護者に関係なく、「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」が、未利用者では、要支援者・要介護者に関係なく、「家族・友人・知人」がそれぞれ最も多い。これに次いで利用者では「家族・友人・知人」「新聞・テレビ・ラジオなど」(22.4%)で、「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌「新聞・テレビ・ラジオなど」の割合は要支援者で高くなっている。また、未利用者でも要支援者では、「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌や「新聞・テレビ・ラジオなど」の割合が高く、「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」の割合は要介護2以上の介護度で高くなっている [P90図35-a] [P169図32-a]。一方、「市のホームページ(インターネット)、メールマガジンなど」は、利用者で2.4%、未利用者でも3.8%と非常に低いことから [P89図35] [P168図32]、情報が行き届きにくい高齢者にも必要な情報が届くよう配慮が求められる。ホームページやSNSなどによる情報発信などデジタル化のみを進めるのではなく、新聞広告や各種広報誌などのアナログ媒体に加え、口コミや民生委員・地域の見守り活動を行う団体、事業者等、様々な媒体や方法を利活用したり連携したりすることで、情報提供に努めることが重要である。

(7) 介護者の介護の状況にみる課題

①介護者の特性

- ・介護者は、利用者・未利用者とも、「子」が最も多く、次いで「配偶者」が多くなっている [P173A図38[35], P175B図38[35]]。また、「子」の割合は単身(ひとり暮らし)世帯で高く、「配偶者」の割合は夫婦のみの世帯で高い [P174A図38[35]-a, P176B図38[35]-a]。介護者の性別は、利用者・未利用者とも、女性の割合が男性を大きく上回っている [P177A図39[36](1), P178B図39[36](1)]。年齢は、利用者の介護者では「60代」が25.0%で最も多く、60歳以上の介護者は65.2%を占め [P179A図39[36](2)]、未利用者の介護者では「50代」が22.0%で最も多く、60歳以上の介護者は64.6%を占めている [P182図39[36](2)]。また、80歳以上の介護者は、利用者・未利用者とも女性に比べ男性の割合が高くなっている。
- ・70歳以上の介護者で要介護者本人と同居している割合は、利用者・未利用者とも8割を超え、69歳以下の介護者では同居している割合は低くなっている [P186A図39[36](3)-d] [P188B図39[36](3)-d]。また、介護を手助けしてくれる人は、利用者の介護者、未利用者の介護者とも、「別居している家族や親族」が最も多く、次いで「同居の家族」となっている [P192A図42[39]] [P193B図42[39]]。女性の介護者の割合が高く(ただ

し80歳以上の介護者は男性の割合が高い)、別居家族等の援助が得られる介護者は少ないものの、老老介護となっている世帯は少なくないと考えられることから、在宅での介護を継続できるよう、介護者の介護負担を軽減するための取組みが必要である。

②介護の状況と介護に対する考え

- ・ 介護者が行っている介護内容は、利用者・未利用者とも、「外出の付き添い・送迎等」(利用者59.0%、未利用者50.2%)や「食事の準備」(利用者62.6%、未利用者54.6%)、「その他の家事」(利用者68.2%、未利用者58.3%)「金銭管理や生活面に必要な手続き」(利用者62.6%、未利用者49.6%)などが多くなっている [P200A図44[41]] [P204B図44[41]]。利用者では、「外出の付き添い・送迎等」は要介護1～4までの介護度で、「食事の準備」は要介護1以上の介護度で高く、また、排泄や食事、衣服の着脱、服薬などの身体介護の割合は介護度が重度化するとともに上昇し、「金銭管理や生活面に必要な手続き」の割合は要介護1と要介護5が79.3%で他の介護度に比べ高くなっている [P201A図44[41]-a]。老老介護や認知症のある要介護者を介護する世帯が多いと考えられることから、身体介護や金銭管理等にかかる介護者の介護負担を軽減し、要介護者とその介護者の在宅生活を支える仕組みのひとつとして介護保険外のサービスを充実するとともに、サービスや支援制度について普及・啓発を図ることが必要である。
- ・ 現在の生活を継続していくにあたって不安に感じる介護は、利用者の介護者、未利用者の介護者とも「認知症状への対応」が最も多くなっている。これに次いで、利用者の介護者では「外出の付き添い、送迎等」(23.9%)、「夜間の排泄」(21.3%)、未利用者の介護者では「入浴・洗身」(24.7%)、「外出の付き添い、送迎等」(22.5%)となっている [P258A図55[53]] [P259B図55[53]]。また、自宅での介護で困っていることは、利用者の介護者、未利用者の介護者とも「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が最も多くなっている。これに次いで、利用者の介護者では「自分の時間がもてない」(29.3%)、「身体的な負担が大きい」(21.2%)、「仕事との両立が難しい」(19.0%)などが、未利用者の介護者では「本人が介護保険サービスの利用を望まない」(24.6%)、「自分の時間がもてない」(22.0%)などがそれぞれ多くなっている [P210A図46[43]] [P213B図46[43]]。また、未利用者の介護者で「本人が介護保険サービスの利用を望まない」と回答した人の「ストレスなどの精神的な負担が大きい」の回答割合は50.7%で、それ以外の項目を回答した人の41.0%に比べ9.7ポイント高く、また、「身体的な負担が大きい」の回答割合は、「本人が介護保険サービスの利用を望まない」と回答した人は20.4%、それ以外の項目を回答した人は26.1%となっている。「本人が介護保険サービスの利用を望まない」と回答した人では、身体的な負担よりも精神的な負担を回答した割合のほうが高くなっている [P286B図46[43]]。そして、「本人が介護保険サービスの利用を望まない」と回答した人が利用した経験のある相談窓口をみると、「地域包括支援センター(総合相談窓口(ランチ含む))」が41.2%で最も高く、次いで「区役所・保健福祉センター」が21.9%となっている [P287B図56[54]]。介護専門の相談窓口以外では「別居している家族や親族」(51.6%)や「かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」(36.7%)が多い。[P288B図56-1[54-1]]
- ・ 「つい大声でどなってしまったことがある」や「無視してしまったことがある」「イライ

ラして手をあげそうになったことがある」などの行為をした割合は、利用者の介護者では42.0%、未利用者の介護者では35.5%となっている〔P216A図47[44]〕〔P222B図47[44]〕。高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先を「知っている」割合は、利用者の介護者では20.9%、未利用者の介護者では16.0%となっている〔P229A図48[45]〕

〔P230B図48[45]〕。また、「イライラして手をあげそうになった」や「つい大声でどなってしまったことがある」など、介護で精神的に不安定な状態になった経験のある介護者の通報・相談先の認知割合は、利用者が21.8%、未利用者が15.7%であり、いずれも7割は「知らない」と回答している〔P289A図48[45]〕〔P289B図48[45]〕。自宅での介護で困った時の相談先は、利用者の介護者では、「居宅介護支援事業者（ケアマネジャー）」（58.3%）が、未利用者の介護者では「別居している家族や親族」（41.3%）がそれぞれ最も多くなっている〔P262A図56-1[54-1]〕〔P263B図56-1[54-1]〕。身体介護や外出介助など介護者の介護不安の原因となっている問題については、介護保険サービスや介護保険外サービスの充実によりサポートを行うことが必要である。また併せて、介護の重圧に伴う介護者の身体的・精神的な負担を軽減し、虐待に至らないよう、専門的な相談窓口の周知のほか、介護者に対するメンタルヘルス対策が重要である。

- ・未利用者の介護者のうち45.0%が要介護者本人に介護保険サービスを「いつか利用してほしい」と回答し〔P235B図[46]〕、介護者がサービスを利用しようと思うきっかけとして、「入浴、トイレ、食事などの日常生活に支障をきたすようになったら」（52.3%）が最も多く、次いで「介護の必要性が高くなったら」（46.0%）、「認知症になったら・認知症が進んだら」（40.3%）となっている〔P236B図[47]〕。また、「介護者自身が病気になるなど、健康状態が悪化したら」（62.9%）や「身体的に負担を感じたら」（48.0%）、「精神的に負担を感じたら」（34.4%）など介護者自身の状態に変化が出てきた場合に利用したいと考えている介護者が多くなっている〔P237B図[48]〕。介護保険サービスを利用することで、「精神的に楽になった」（51.1%）や「時間に余裕ができた」（46.5%）、「身体的に楽になった」（45.7%）と回答している介護者が多い〔P231 A図49〕。介護者自身の介護の限界点を超えてしまうことで、在宅での介護が崩壊することがないように、介護保険サービスへの円滑な接続や介護者への見守り、支援のための取組みの充実が求められる。
- ・自宅での介護で重要なことは、利用者の介護者では、「家族や親族の協力があること」（50.1%）が最も多く、次いで「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」（43.4%）、「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」（40.7%）となっている〔P238A図51[49]〕。一方、未利用者の介護者では、「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」（49.2%）が最も多く、次いで「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」（46.8%）、「家族や親族の協力があること」（46.5%）となっている〔P239B図51[49]〕。要介護者の容態の急変への対応を充実する一方で、介護者だけで介護にかかる負担をすべて抱えこみ孤立してしまわないよう、家族や親族の介護協力に対する理解や認識を深めるとともに、介護者が相談できる相談窓口を充実させる取組みも重要である。

③介護離職の実態

- ・ 就労状況は、利用者の介護者では「無職」(42.7%)が最も多く、就業者は35.7%（「就業者中（フルタイム）」21.3%、「就業者中（パートタイム）」14.4%）となっている。「本人の介護のため離職」は4.0%となっており [P240A図52[50]]、要介護3を介護する介護者が10.1%で最も高く、次いで要介護4の7.4%となっている [P241A図52[50]-a]。一方、未利用者の介護者でも「無職」(42.0%)が最も多く、就業者は32.8%（「就業者中（フルタイム）」18.4%、「就業者中（パートタイム）」14.4%）となっている。「本人の介護のため離職」は2.9%となっており [P246B図52[50]]、要介護4を介護する介護者が5.5%で最も高い。次いで要支援2の4.2%、要介護1の3.8%となっている [P246B図52[50]-a]。介護をするにあたって行っている働き方の調整状況は、利用者の介護者も未利用者の介護者も「特に行っていない、行わなかった」(利用者34.6%、未利用者44.9%)が最も多い。利用者の介護者で、何らかの調整を行っている割合は59.4%で、「介護のために「労働時間を調整」をしている、又はした」(32.7%)、「介護のために「有給休暇や介護休暇等」を取っている、又は取った」(20.4%)が多くなっている [P251A図52-1[50-1]] [P252B図52-1[50-1]]。就労状況別では、「介護のために「労働時間を調整」をしている、又はした」の割合は、就業者中（フルタイム）が27.2%、就業者中（パートタイム）が42.3%でパートタイムのほうが高くなっている [P289A図52-1[50-1]]。一方、未利用者の介護者で、何らかの調整を行っている割合は50.6%で、「介護のために「労働時間を調整」をしている、又はした」(26.8%)、「介護のために「有給休暇や介護休暇等」を取っている、又は取った」(15.1%)が多くなっている [P252B図52-1[50-1]]。就労状況別では、「介護のために「労働時間を調整」をしている、又はした」の割合は、就業者中（フルタイム）が24.5%、就業者中（パートタイム）が29.1%で、パートタイムのほうが高くなっているが、利用者の介護者の割合に比べ低くなっている [P290B図52-1[50-1]]。また、介護を行うにあたって「仕事との両立」で困っており、「介護のために「労働時間を調整」をしている、又はした」の割合は、利用者の介護者が42.5%、未利用者の介護者が35.1%となっている [P291A表52-1[50-1]-b] [P292B表52-1[50-1]]。一方、仕事と介護の両立に効果があると思われる勤め先からの支援は、利用者の介護者、未利用者の介護者とも「介護休業・介護休暇等の制度の充実」や「制度を利用しやすい職場づくり」「労働時間の柔軟な選択」が多くなっている [P256A図54[52]] [P257B図54[52]]。利用者の介護者で就業者中（フルタイム）の人は「制度を利用しやすい職場づくり」(32.3%)が最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(30.8%)となっており、就業者中（パートタイム）の人は「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(29.6%)が最も多く、これに次いで「労働時間の柔軟な選択」(26.5%)が多くなっている [P293A図54[52]]。一方、未利用者の介護者の場合、就業者中（フルタイム）は利用者とはほぼ同様の傾向となっているが、就業者中（パートタイム）は、「労働時間の柔軟な選択」(22.5%)で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(19.4%)となっている [P294B図54[52]]。介護休業制度を導入する企業は増えてきているとはいえ、効果がある支援として介護者の多くはこれら制度に期待していることから、引き続き介護と仕事を両立できる支援体制の充実と制度を利用しやすい職場づくりが企業に求められる。
- ・ 認知症のある要介護者を介護する割合は、利用者の介護者、未利用者の介護者とも、就業者中（パートタイム）及び介護のため離職した人で高く、未利用者の介護者で介護のため離職した人で最も高い。

職した人の割合が75.6%で特に高くなっている [P295A図43[40]] [P295B図43[40]]。また、利用者・未利用者とも、介護のため離職した人で行っている介護内容のすべての割合が就業中の人に比べ高くなっており [P296A図44[41]] [P297B図44[41]]、在宅介護を行う上で困っていることでも「ストレスなどの精神的な負担が大きい」「身体的な負担が大きい」「自分の時間がもてない」などの割合が高くなっている [P298A図46[43]]

[P299B図46[43]]。さらに、現在の生活を継続するにあたって不安なことは、「夜間の排泄」や「入浴・洗身」「認知症状への対応」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」などの割合は、利用者・未利用者とも、就業中の人に比べ介護のため離職した人で概ね高くなっている [P300A図55[53]] [P301B図55[53]]。介護を理由に仕事を辞めざるを得なかった背景に、介護の重圧が大きかった状況がうかがえる。

- ・ 家庭内で介護を理由に離職した人については、利用者・未利用者とも「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が最も多い。一方、主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」割合は利用者では6.3%、未利用者では4.5%となっている [P255A図53[51]] [P255B図53[51]]。また、働きながら介護を続けることについては、利用者の介護者、未利用者の介護者とも「問題はあるが何とか続けていける」が最も多く、次いで「問題なく続けていける」となっている。これに対し、利用者の介護者、未利用者の介護者とも約10人に1人は「続けていくのはやや難しい」と回答している [P253A図52-2[50-2]] [P254B図52-2[50-2]]。仕事と在宅介護を両立させるためには、介護による身体的・精神的な重圧や不安を軽減することにつながるサービス・支援を充実するなど、介護を行うことで就労継続が困難となってしまう度合いを下げるための取組みを進めることが重要である。